

カリキュラムブック

CURRICULUM BOOK FOR NURSING STUDENTS

2023



久留米大学医学部看護学科

2023年度 学年暦

月	日	曜日	学年	事項
4	1	土	1年生	入学式
	3	月	1年生	新入生オリエンテーション (4/3、4/4、4/5、4/6)
	3	月	2・3・4年生	新年度オリエンテーション
	4	火	2・3・4年生	1学期授業開始
	5	水	1年生	医学部学友会主催 新入生歓迎会 クラブ紹介
	7	金	1年生	授業開始
	10	月	全学年	健康診断 (4/10、4/11、4/13、4/14)
	28	金	全学年	創立記念日 ※通常授業あり
5	20	土	全学年	補充講義日
	23	火	2年生	解剖体慰霊祭
	29	月	4年生	補充講義日
	30	火	4年生	1学期定期試験 (5/30～6/2)
6	6	火	4年生	1学期追・再試験 (6/6～6/8)
	12	月	4年生	総合実習 (6/12～6/23)
7	1	土	1・2・3年生	補充講義日
	19	水	1・2・3年生	補充講義日 (7/19、7/20)
	21	金	1・2・3年生	1学期定期試験 (7/21～7/28)
	31	月	全学年	夏季休暇 (7/31～9/1)
8	1	火	1・2・3年生	1学期追・再試験 (8/1～8/4)
9	4	月	1・2年生	2学期授業開始
	11	月	3年生	専門実習 (9/11～3/1)
10	27	金	1・2年生	あのか祭 (10/27前夜祭～10/30) ※休講日 (10/27、10/30)
11	11	土	1・2・3年生	補充講義日
	16	木	3・4年生	卒業論文発表会
12	4	月	2年生	療養生活支援実習 (12/4～12/15)
	25	月	全学年	冬季休暇 (12/25～1/5)
1	26	金	1年生	戴帽式 ※予行日：1/25
	31	水	1・2年生	補充講義日 (1/31、2/1)
2	2	金	1・2年生	2学期定期試験 (2/2～2/15)
	20	火	1・2年生	2学期追・再試験 (2/20～2/27)
3	4	月	1年生	生活支援実習 (3/4～3/8)
	11	月	全学年	春季休暇 (3/11～3/29)
	21	木	4年生	卒業式

目 次

久留米大学の建学の精神	2
久留米大学の基本理念、看護学科教育目的、看護学科教育目標	3
【2022 年度以降入学生】	
カリキュラム	7
履修の手引き	10
履修及び試験に関する細則	15
履修表	17
授業科目、科目責任者及び単位数（第 1・2 学年）	20
履修モデル	22
カリキュラムマップ	24
シラバス	
授業科目一覧（シラバス目次）	30
科目ナンバリング	31
【2021 年度以前入学生】	
カリキュラム	107
履修の手引き	110
履修及び試験に関する細則	115
履修表	117
授業科目、科目責任者及び単位数（第 3・4 学年）	120
履修モデル	122
カリキュラムマップ	124
シラバス	
授業科目一覧（シラバス目次）	130
科目ナンバリング	131
オフィスアワー	163

建学の精神

国手の矜持（ほこり）は常に仁なり

「国手」は本来名医の意味で使われますが「国中ですぐれた名人」の意義があり、「矜持」は自信と誇りを持ち、自身を抑制しながら堂々と振る舞うことで、「仁」は「礼にもとづく自己抑制と他者への思いやり」を意味しています。

大学の原点、それは“建学の精神”にあります。
その言葉には、創設時の熱い思いが溢れ、現在の教育・研究の指針にもなります。



久留米大学の前身、九州医学専門学校は、当時不足していた医療分野での実践的人物の育英という地域ニーズに応じて1928年に設立されました。伊東祐彦校長は、第1回の講義で次のことを述べています。

「諸君が将来医者になって、余暇に山登りをしたとする。途中の一軒家に病いに苦しむ老婆の姿がある。君ならどうする。その時、そしらぬ顔してゆくか、専門が違うとか、診断の器具がないからと、逃げるか。それでは医者ではない。聴診器がなくとも、薬がなくとも、手があり、目があり、口があるじゃないか、そばに行って少しでもその苦痛を和らげるのが本当の医者だ。」（久留米大学50年史より）

この話は医師を目指す学生の胸に深く刻まれ、本学の建学の精神の土台となりました。

I 久留米大学の基本理念

久留米大学は、真理と正義を探求し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする。

II 看護学科教育目的

久留米大学医学部看護学科は、豊かな人間性と倫理観を培い、看護の実践・教育・研究を推進し、人類普遍の生きる力に光を与え、広く社会的使命を果たせる人材を育成する。

III 看護学科教育目標

- 1 人間の個別性を尊重し、身体的・心理的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
- 2 生命の尊厳に基づく倫理観を備え、人々の権利を尊重・擁護する態度を養う。
- 3 人々の健康問題を科学的根拠に基づき分析・判断し、実践に必要な知識・技術・態度の基礎を養う。
- 4 自ら看護の現象を探究し、看護学を発展させることのできる能力を養う。
- 5 保健医療福祉の向上のために、他領域の専門家と協働し、必要に応じて調整的な役割を果たす能力を養う。
- 6 社会情勢や医療の動向に対し、看護が担うべき役割をとらえ、将来、国際社会に貢献できる能力を養う。

2022年度以降入学生
(2022年度、2023年度入学生)

カリキュラム

1 カリキュラムの基本的な考え方

- (1) 個人を尊重し、広い視野から人間を全人的に捉える視点を養う。

看護学においては、人間を生物的・社会的な存在であり、人格をもつ統合された存在であるという視点から捉えることが大切です。この視点を養うため、自然科学、社会科学、人文科学におけるさまざまな学問の方法論や知識、また人間を全体的に捉えようとする方法論を学びます。

- (2) 看護の幅広い機能が実践できる基礎的能力を養う。

看護活動は、さまざまな健康状態と生活の場における対象に行われます。そこでは個人のみならず、家族、集団、地域への視点も重要です。また、健康上の問題をもつ人々の不安や苦しみを受けとめ、その人の主体性を引き出し、自己ケア能力を高めるための相談的・教育的能力が必要です。これらの考えから、看護師課程と保健師課程の教育内容を4年間のカリキュラムの中で学びます。

- (3) 生涯学習の基本となる看護を探究する態度と実践の基礎を養う。

看護職は、人々に求められる看護を絶えず探究し、発展を目指す、専門職としての役割もっています。看護を学ぶ学生としてこのことを認識し、そのために必要となる科学的思考や問題解決の考え方と実践方法を「研究」を通して段階的に学びます。

- (4) 保健医療福祉チームとの連携と協働ができる看護職を育成する。

看護の対象となる人々の生活を支援するためには、保健医療と社会福祉の専門家との連携が必要とされる場合が少なくありません。保健・医療・福祉の場におけるこれらの人々の活動を知り、看護の役割を受けとめ、働きかけることができるように、臨床での実習のみならず、病院内外のさまざまな場での実習を通して学びます。

2 カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

- (1) 広い視野から人間を総合的に理解するために、倫理観を培い、感性を磨くことを目指し、豊富な選択科目を配置しています。

- (2) 人の健康について、看護学の教育内容と密接につながるように、専門基礎科目の基礎医学・臨床医学系の科目を配置しています。

- (3) 看護実践の基礎的能力を養うため、人間の発達段階、健康の段階、生活の場を主軸にし、看護師課程と保健師課程の教育内容を4年間のカリキュラムの中で有機的に統合しています。

- (4) 問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢・科学的思考を育成するために、科目として「研究」を4年間で段階的に配置し、丁寧な個別指導を行っています。

- (5) 保健医療福祉の様々な分野において他職種と連携・協働する看護の役割を学ぶため、多様な実習場で、多職種連携教育を実施しています。

- (6) 地域および国際的視野で人々の文化、生活、健康を理解し、社会に貢献できる人材の育成に向けて、2年間にわたり外国語科目を充実させるとともに、「ボランティア活動」「災害看護学」「国際看護学」を配置しています。

3 ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では、授業科目及び単位数の卒業要件を満たし、以下の能力を修得した学生に対して、「学士」（看護学）の学位を授与する。

- (1) 豊かな感性と創造力を持ち、主体的に行動することができる能力
- (2) 倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力
- (3) 看護学の基礎的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力
- (4) 看護の現象を自ら探究し、問題を解決することができる能力
- (5) 他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力
- (6) 地域および国際的視野で、社会に貢献することができる能力

4 カリキュラムについて

(1) カリキュラムの構造

「感性と創造」：看護の対象者や看護職者をめざす学生自身も含めた 人間の存在や行動や生活の意味を深く洞察し、文化、社会、自然、言語の側面から理解していくための科目を配置しています。

「人間と健康」：からだの構造とはたらき、こころの構造とはたらきを基盤にして、健康と健康障害に陥った時の身体の変調と医療、健康と生活を支える社会の側面から人間の健康を広く捉えていく科目を配置しています。

「看護の実践」：看護の基本となる考え方や技術、看護の対象を理解し実践するための方法論、そして臨地実習に分かれています。さまざまな健康状態と生活の場において看護が実践できるための知識と技術、そして倫理的態度の習得を目指して学習する科目を幅広く配置しています。

「看護の統合」：科学的思考や研究実践の基礎となる「研究」を段階的に配置し、看護学の発展を目指し、4年間の学びをより高い実践能力に統合するための科目を配置しています。

(2) カリキュラムツリー (9 ページ参照)

カリキュラムツリーとは、関連する科目を線で結ぶことで学習の順序性、授業科目間の系統性を図示したものです。

(3) 科目ナンバリングコード (コード体系は 31 ページを参照すること)

科目ナンバリングコードとは、科目に学問分野、学習段階、順序等を示す番号を付し、教育課程の体系性を示すものです。

例：生活援助技術 I	<u>NUS</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>2</u>	<u>1</u>	<u>MN</u>	<u>1</u>
公衆衛生看護学概論	<u>PHN</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>MN</u>	<u>1</u>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>			<input type="text"/>	<input type="text"/>	
	①	②			③	④	

①学問分野を示す。

② 1 つ目の数字：学修レベルを示す。

2 つ目の数字：授業形態を示す。

3 つ目の数字：①が NUS（看護学）の科目についてのみ使用。看護の分野を示す。

4 つ目の数字：系統的な科目の順序性を示す（単独科目は全て 1）。

③開設部門（全科目 MN：医学部看護学科）を示す。

④学年毎の必修・選択科目等卒業要件類別を示す。

5 保健師教育課程（保健師国家試験の受験資格に係る授業科目）の選択者について

(1) 選択可能学生数：施設の入入れ状況により変動します。【参考：2022年度受け入れ人数 39名】

(2) 選抜の時期と方法：3年1学期終了時に、希望調査を行います。希望者の中から、原則として3年次までの修得が必要な科目の未履修科目、再履修科目がないことを条件とし、1～3年次1学期までの必修科目の総合得点、出席・履修状況を総合的に判断し、選抜します。

医学部看護学科 カリキュラム・ツリー（必修科目）【2022年度以降入学生適用】

区分	1年生		2年生		3年生		4年生	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
共通・基礎科目	久留米大学の理念と歴史 倫理学 英語 I くらしとサイエンス 情報学 からだの構造と機能 I	国語表現法 オーラルイングリッシュ I 統計・推計学 からだの構造と機能 II からだの代謝 病理学 微生物と感染	社会福祉と社会保障 英語 II オーラルイングリッシュ II 保健医療統計学 疾病治療論 I 免疫・症候学	オーラルイングリッシュ II 疾病治療論 II 疫学・臨床薬理・臨床栄養	保健医療統計学 臨床心理学 保健医療福祉行政論			
看護の基礎	看護学概論 I 生活援助技術 I 生活支援実習	生命・看護倫理 生活援助技術 II 生活支援実習	診療に伴う援助技術 フィンカールアセスメント技術 看護過程 I 療養生活支援実習	回復期援助技術 看護過程 II	健康教育方法論 看護過程 II	看護学概論 II	看護総合演習	
看護の専門	地域・在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学	生涯発達看護概論 急性期看護論 慢性期・回復期看護論 高齢者生活支援論 小児生活支援論 ウイメンズヘルス論 人間関係方法論 公衆衛生看護学概論	地域・在宅生活支援論 急性期看護論 慢性期・回復期看護論 高齢者療養生活支援論 小児療養生活支援論 母子健康支援論 精神療養生活支援論 公衆衛生看護活動論	地域・在宅療養生活支援論 クリティカルケア実習 慢性期・回復期支援実習 地域・高齢者生活支援実習 小児療養生活支援実習 母子健康支援実習 精神療養生活支援実習	地域・在宅療養生活支援論 クリティカルケア実習 慢性期・回復期支援実習 地域・高齢者生活支援実習 小児療養生活支援実習 母子健康支援実習 精神療養生活支援実習	公衆衛生看護技術演習* 公衆衛生看護管理演習* 保健医療福祉政策演習* 公衆衛生看護管理論* 公衆衛生看護実習*	看護総合実習	
看護の発展	研究 統合科目	研究 I 災害看護 家族看護学	研究 II 研究 I 災害看護 家族看護学	研究 II 研究 I 災害看護 家族看護学	研究 II 研究 I 災害看護 家族看護学	研究 III 看護管理 多職種連携教育 公衆衛生看護実習*	研究 III 看護管理 多職種連携教育 公衆衛生看護実習*	

カリキュラムの構造 感性と創造 人間と健康 看護の実践 看護の統合 *保健師課程選択科目

履修の手引き

<p>1 授業科目の履修方法と登録</p>	<p>1 履修方法</p> <p>(1) 必修科目はすべて履修しなければならないが、これのみでは卒業に必要な単位は不足する。</p> <p>(2) 選択科目はその不足分を補うもので、必ずしもすべて履修しなくてもよいが、時間割をよく確認してできるだけ多く履修すること。</p> <p>(3) 一部の選択科目には、履修人数を制限するものがある。又、<u>選択科目の公衆衛生看護技術演習、公衆衛生看護管理演習、保健医療福祉政策演習、公衆衛生看護実習</u>は保健師教育課程選抜者のみの履修とする。</p> <p>(4) 看護学実習については、実習の基礎に必要な講義科目の単位を修得していない場合、履修できないことがある。(看護学実習の履修の条件となる科目を参照)</p> <p>※天災等により履修が困難な状況が生じた場合、当該科目の履修方法の変更や年度をまたいで履修するなどの対応をとることがある。</p> <p>2 履修科目の登録</p> <p>(1) 履修科目の単位を修得するためには、自分が履修しようとする科目を毎年度、学年初めに履修登録しなければならない。このことは、自分の登録した科目の授業を受け、受験資格を得て単位を修得するための基礎となるものであり、この登録を怠ると、たとえ授業に出席しても試験を受けることはできない。</p> <p>(2) 1年間の履修登録単位数の上限を、48単位とする。ただし、相当な理由（下学年での科目を再履修する者が上限を超える場合等。）がある者は、特例として上限を超えて履修登録することを認める場合がある。なお、入学前の既修得単位で認定された科目と再履修の科目を履修登録単位数の上限から除く科目とする。</p> <p>(3) 履修登録した科目以外の科目は、例え受講しても受験資格は与えられない。</p> <p>(4) 履修登録の追加・変更・取消は原則として認めない。ただし、次の場合は、履修登録後であっても、「履修中止申請書」を提出し、履修中止を申請することができる。</p> <p>1) 初回講義から第3回目講義の前日までに履修中止申請書を提出した場合、選択科目の履修中止を申請することができる。</p> <p>2) 実習開始前に①及び②の条件を満たした場合、履修中止申請書を提出し、履修中止を申請することができる。</p> <p>①傷病によりやむを得ず該当実習科目期間の実習ができないこと。</p> <p>②医師の診断書等により①が明らかであること。</p>
<p>2 単位及び時間数</p>	<p>各授業科目の単位及び時間数については、「履修表」（17ページ～参照）に示す。</p> <p>科目の1単位とは、45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準としている。授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習などを考慮して、次の基準により単位数を計算している。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実習については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。</p>
<p>3 卒業に必要な修得単位数</p>	<p>卒業に必要な修得単位数は128単位以上で、科目区分ごとの条件等がある。詳細は履修表を参照のこと。</p> <p>(1) 感性と創造（人と文化・人と言語・くらしと社会・人と自然） 20単位以上（必修12単位以上、選択8単位以上） （内、人と文化の選択科目3単位以上、人と言語の選択科目1単位以上、くらしと社会・人と自然の選択科目4単位以上を選択すること。）</p> <p>(2) 人間と健康（からだの構造とはたらき・こころの構造とはたらき・健康と健康障害） 29単位以上（必修28単位以上、選択1単位以上）</p>

- (3) 看護の実践（看護の基本・対象理解と看護活動・臨地実習）
- ①看護の基本 15単位
 - ②対象理解と看護活動 31単位
 - ③臨地実習 23単位
- (4) 看護の統合（研究・看護の発展）
- 10単位以上（必修9単位以上、選択1単位以上）

4 授業時間

1限目	8:40～10:10
2限目	10:20～11:50
3限目	12:40～14:10
4限目	14:20～15:50
5限目	16:00～17:30

但し、試験期間中は上記通りとは限らない。

5 試験と成績評価

単位を修得するためには、登録した履修科目の授業に出席し試験に合格しなければならない。試験には、定期試験、追試験、再試験がある。このほかに授業担当者によっては、学期の中途に中間試験を行うことがある。単位の認定は、筆記試験、論文（レポート）、日常の学習状況などで判定される。

成績評価は、AA（100点～90点）・A（89点～80点）・B（79点～70点）・C（69点～60点）及びD（60点未満）に分け、C以上を合格として単位が認定される。D（60点未満）は不合格として単位が認定されない。体育実技及び実習は、毎週1回の実技・実験に出席して、自分で行うことに意義があり、他の科目のような追試験、再試験に該当するものは実施しない。

1) 試験の種類と内容

- 1 定期試験

教育課程は、1年間で1学期と2学期に分け、それぞれの学期で終了した科目につき、欠席回数実講回数の1/3以上の者は、受験資格を喪失して単位を修得できない（再試験も受験できない）。体育実技・実験を1/4以上欠席すると失格となる。
- 2 中間試験

授業担当者によって、学期の中途に実施されることがある。これのみによって単位を認定されることはないが、単位認定の重要な一要素となる。
- 3 追試験

「履修及び試験に関する細則」第2条第1項第3号（15ページ参照）に定める傷病と第7条（15ページ参照）に定める正当な理由により、定期試験または中間試験を受験できなかった場合に、その試験終了後に行われる。正当な理由とは、本人の結婚、忌引、本人の責でない災害、公用などによる欠席をいい、事前又は事後速やかに届け出なければならない。なお、傷病の場合、医師の診断書も添付しなければならない。（寝坊・時間の間違い等による追試験は認められない。）

又、履修及び試験に関する細則第7条に定める正当な理由による欠席以外で追試験を受ける場合は、追試験料を前納しなければならない。

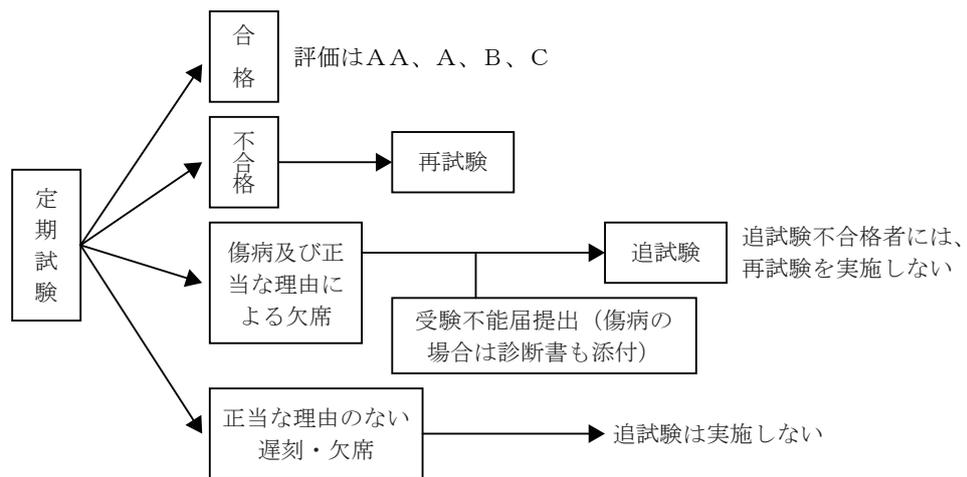
追試験の成績は、次に基づき算出する。
 $[60+0.7 \times (\text{追試験素点} - 60)]$
- 4 再試験

各科目の定期試験の結果不合格となった場合、その科目について、学期末に実施される。ただ追試験不合格者には再試験を実施しない。

再試験にあたっては、受験の届出をするとともに、再試験料を前納しなければならない。

再試験の成績は、合格の場合、一律に60点となる。

(定期試験の流れ)



再試験及び追試験（「履修及び試験に関する細則」の第7条（15ページ参照）に定める理由の場合は除く）を受ける場合は、試験前日までに3,000円を納めること。

2) 試験に関する
注意事項

上記の試験を受ける際は、次のことによく注意すること。

- (1) 試験開始後20分を経過した場合は入場を許可しない。20分を過ぎると欠席となる。
- (2) 試験開始後20分を経過しなければ退場を許可しない。
- (3) 学生証は、机の上に提示し監督者の検分に応じなければならない。
学生証を忘れた場合は、事務室にて学生カード（コピー）を受け取り、代用する。

3) 受験に関する
不正行為

定期試験及び追・再試験で不正行為を行った場合は、当該試験期間の全科目が無効となる。

6 GPA制度

平成28年度より成績評価としてGPA（Grade Point Average）制度を導入する。本制度は、グローバルな教育を行うため欧米で広く利用されている評価方法である。

1 GPAの定義

- (1) 次のとおり、各科目に対して、100点満点の得点の素点Sから、0～4のGP（Grade Point）を定める。

素点Sの範囲	GP
$0 \leq S \leq 59$	0
$60 \leq S \leq 69$	1
$70 \leq S \leq 79$	2
$80 \leq S \leq 89$	3
$90 \leq S \leq 100$	4

- (2) このGPを、登録科目すべてにわたり、単位数で重み付けした加重平均の値をGPAとする。GPAの数値は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までが意味をもつものとする。なお、履修放棄は0とする。

2 GPAの対象としない科目

- (1) 履修中止申請書を提出し、履修を中止した科目
- (2) 本学以外で修得した科目を単位として認めたもの
- (3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (4) 他大学との単位互換により修得した科目

7 必修科目の再履修 必修科目の試験で不合格となり単位を修得できなかった場合は、次年度以降再履修し、単位を修得しなければ卒業することができない。通常科目と同様に履修登録を行うこと。再履修すべき科目が当該学年の履修科目と重なった場合は原則として再履修科目を優先して履修しなければならない。再履修科目の評価は通常科目と同様とする。

8 臨地実習

1) 実習時間 臨地実習時間は、原則として8:30～16:00とする。ただし、実習状況に応じて実習時間を変更することがある。

2) 履修の条件となる科目

- 1 生活支援実習
履修の条件となる科目は設けない。
- 2 療養生活支援実習
診療に伴う援助技術を修得していなければならない。
- 3 専門実習
 - (1) 生活支援実習、療養生活支援実習の単位を修得していなければならない。
 - (2) 以下の表に示す実習科目の履修条件科目を修得していなければならない。

看護学実習実習科目	履修の条件となる科目
地域・在宅療養生活支援実習	地域・在宅療養生活支援論
クリティカルケア実習	急性期看護論
慢性期・回復期支援実習	慢性期・回復期看護論
精神療養生活支援実習	精神療養生活支援論
母子健康支援実習	母子健康支援論
小児療養生活支援実習	小児療養生活支援論
地域・高齢者生活支援実習	高齢者療養生活支援論

- 4 看護統合実習
上記の専門実習7科目のうち6科目以上の単位を修得していなければならない。
- 5 公衆衛生看護実習（選択科目）
保健師教育課程選択者のみの選択科目となり、選抜等詳細は8ページを参照すること。

3) 追実習

実習中に履修及び試験に関する細則第7条に定める正当な理由による欠席、傷病による欠席、法令の定める感染症による出席停止の場合は、科目試験の追試に準じて追実習を実施する。
当該学生は「追実習願」、「欠席承認願」または「欠席届」、診断書またはその他の理由を記載した書類を速やかに事務室に提出すること。又、履修及び試験に関する細則第7条に定める正当な理由による欠席以外で追実習を受ける場合は、追実習料を前納しなければならない。
追実習の成績は、次に基づき算出する。
[60+0.7×(追実習素点-60)]

4) 実習科目（必修）の再履修

- 1 実習科目（必修）が不合格の場合、次年度に再履修しなければならない。通常科目と同様に履修登録を行い、履修登録時に「再履修申請書」を提出すること。
- 2 実習科目（必修）の再履修の成績は、合格の場合、一律に60点となる。

9 保健師国家試験に係る選択科目の再履修	保健師国家試験に係る選択科目（公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護技術演習、公衆衛生看護管理演習、保健医療福祉政策演習、公衆衛生看護実習）の再履修は行わない。
10 取得できる学位・資格・免許	<p>卒業時及び保健師免許取得後に取得可能な学位・資格・免許は以下のとおりである。</p> <p>1 卒業と共に取得できる学位・資格</p> <p>(1) 学士（看護学）</p> <p>(2) 看護師国家試験受験資格</p> <p>(3) 保健師国家試験受験資格</p> <p>※公衆衛生看護管理論2単位、公衆衛生看護管理演習2単位、保健医療福祉政策演習1単位、公衆衛生看護技術演習2単位及び公衆衛生看護実習5単位（全て選択科目）の修得が必要である。</p> <p>2 保健師免許取得後に取得可能な免許</p> <p>(1) 養護教諭二種免許</p> <p>※教育職員免許法施行規則第66条の6に基づき、必修科目の他に、「くらしと法」、「スポーツ科学Ⅰ」、「スポーツ科学Ⅱ」、「公衆衛生看護技術演習」（いずれも選択科目）の単位修得が必要</p> <p>(2) 第一種衛生管理者免許</p>

◇履修及び試験に関しては、「履修及び試験に関する細則（医学部看護学科）」を熟読しておく必要がある。

履修及び試験に関する細則（医学部看護学科） 一部抜粋

目的	第1条 医学部規則第6条、第7条、第8条及び第9条に基づき、医学部看護学科の科目の履修、試験、進級、卒業及び留年に関する事項は、この細則に定める。
試験の種類及び実施時期	<p>第2条 医学部規則第7条第2項に規定する試験は、原則として、次のとおりとする。</p> <p>(1) 定期試験 学期末又は学年末に実施する。</p> <p>(2) 中間試験 必要ある場合、学期又は学年の中途に実施する。</p> <p>(3) 追試験 第7条に定める正当な理由又は傷病により、中間試験又は定期試験を受験できなかった者は、その試験終了後に実施する。</p> <p>(4) 再試験 定期試験不合格者には当該科目につき原則として1回に限り実施する。ただし、追試験不合格者には再試験を実施しない。</p> <p>2 体育実技及び実習については、追・再試験を実施しない。ただし、専門科目の実習については、追実習を実施する。</p>
追試験、再試験及び追実習	<p>第3条 追試験、再試験及び追実習を受けようとする者は、あらかじめ、所定の届け出を行わなければならない。</p> <p>2 追試験、再試験及び追実習を受けようとする者は、1科目につき 3,000円を納入しなければならない。ただし、第7条の各号に該当する理由により追試験及び追実習を受けようとする者については、徴収の対象外とする。</p>
試験の方法	第4条 試験の方法については、授業担当者に一任する。
受験に関する不正行為	<p>第5条 受験中に不正行為を行った者には、当該期間の試験の全科目を無効とする。</p> <p>2 特に悪質な不正行為を行った者は、学則により懲戒する。</p>
試験日	第6条 試験の期日及び時間割は、原則として、実施の1週間前までに発表する。
受験資格	<p>第7条 各科目につき、授業毎に出欠を調べ講義については講義回数の1/3以上、実技、実験及び実習については実施回数の1/4以上欠席した者には、<u>受験の資格を与えない</u>。ただし、次に定める理由による欠席回数については、届け出を行った場合は、特別に考慮する。</p> <p>(1) 本人が結婚するとき 7日</p> <p>(2) 忌引</p> <p style="padding-left: 20px;">1 親等の血族及び配偶者 7日</p> <p style="padding-left: 20px;">2 親等の血族及び2親等内の姻族 3日</p> <p style="padding-left: 20px;">3 親等の血族及び姻族 2日</p> <p>(3) 法令等による出席停止の場合又は天災等本人の責に帰することのできない理由によって災害を被ることが生じた場合若しくは交通を遮断されるなどの場合</p> <p>(4) その他医学部長の承認を得た場合</p>
試験の成績及び評価	第8条 各科目の試験成績の評価は、AA（100点～90点）、A（89点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）及びD（60点未満）とし、C以上を合格とする。
入学前の既修得単位の認定	第8条の2 教授会が教育上有益と認めるときは、入学する前に大学等において履修した科目について修得した単位を、本学における科目の履修とみなし、30単位を限度とし認定することができる。
他大学等における科目の履修	<p>第8条の3 教授会が教育上有益と認めるときは、他の大学等において履修した科目について修得した単位については、教授会の議を経て、30単位を限度とし認定することができる。</p> <p>2 前項の規定は、学生が外国の大学等に留学する場合にも準用する。</p>

履修登録単位数の特例	<p>第8条の4 次に掲げる各号については、久留米大学医学部規則第7条第3項で定める履修登録単位数の上限に含めない。</p> <p>(1) 第8条の2で認定された単位数</p> <p>(2) 再履修の単位数</p> <p>(3) その他学科長が特に認めた単位数</p>
進級	<p>第9条 1年次から4年次までの進級に係る特別な規制を設けない。ただし、休学者が復学する場合の年次は、原則として休学開始時と同一とする。</p>
卒業の認定	<p>第10条 医学部規則第9条に規定する卒業の認定は、4年以上在学し医学部規則第4条第1項別表(2)に定める取得必要単位を取得した者について行う。</p>
留年	<p>第11条 第10条に該当しない者は留年とする。</p>
学年の中途卒業	<p>第12条 平成21年度以降入学生及び編入学生で修業年限を超えて在学しなければならない者のうち、第1学期において卒業に必要な条件を満たした者は、教授会の認定によって9月30日付けで卒業者とする。ただし、引続き翌年3月まで在学することを願い出た者は、教授会の議を経て、これを許可することができる。</p> <p>2 前項に規定する9月30日付け卒業者の授業料は、年額のうち在学月相当額を徴収する。</p>
	<p>附 則</p> <p>1 この細則は、令和5年4月1日から施行する。</p> <p>2 第8条については、令和2年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。</p>

履修表

区分	授業科目	必修 単位	選択 単位	年次時間数								履修方法及び 卒業要件	
				1年		2年		3年		4年			
				1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期		
感性 と創造	人と文化	久留米大学の理念と歴史	1	15									20単位以上 (内：選択科目 より、人と文化 から3単位以上、 人と言語から1 単位以上、くら しと社会及び人 と自然から4単 位以上選択) (必修12単位・ 選択8単位以上)
		音楽と癒し		2	30								
		文学		2	30								
		スポーツ科学Ⅰ	*	1	15								
		スポーツ科学Ⅱ	*	1	30								
		倫理学		2	30								
		比較文化論		2	30								
		教育学		2	30								
	心理学		2	30									
	人と言語	国語表現法		1	30								
		英語Ⅰ	*	1	30								
		英語Ⅱ	*	1		30							
		オーラルイングリッシュⅠ	*	1	30								
		オーラルイングリッシュⅡ	*	1		30							
		ドイツ語		1	30								
		中国語		1	30								
	くらしと 社会	社会学		2	30								
		生活と経済		2	30								
		くらしと法	*	2	30								
	人と自然	環境科学		2	30								
くらしとサイエンス			2	30									
人間工学			2	30									
情報学		*	1	30									
			1	30									
人間 と健康	からだの 構造と はたらき	からだの構造と機能Ⅰ	2	60								29単位以上 (必修28単位・ 選択1単位以上)	
		からだの構造と機能Ⅱ	2	60									
		からだの構造と機能Ⅲ	1	30									
		からだの代謝	1	30									
	こころの 構造と はたらき	こころの生涯発達	1	30									
		ボランティア活動		1	30								
		臨床心理学	1				30						
	健康と健康障害	家族社会学		1	30								
		社会福祉と社会保障		1	30								
		微生物と感染		1	30								
		免疫		1	30								
		疫学		2	30								
		保健医療統計学	*	2	30								
		保健医療福祉行政論		2	30								
		病理学		2	30								
		症候学		2	45								
		疾病治療論Ⅰ		2	30								
		疾病治療論Ⅱ		2	30								
		臨床薬理		2	45								
臨床栄養		1	15										

*印は科目内容が養護教諭二種免許状の取得にかかわるもの

区分	授業科目	必修 単位	選択 単位	年次時間数								履修方法及び 卒業要件		
				1年		2年		3年		4年				
				1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期			
看護の基本	看護学概論Ⅰ	1		30										15単位
	看護学概論Ⅱ	1									15			
	生命・看護倫理	1			30									
	生活援助技術Ⅰ	2		45										
	生活援助技術Ⅱ	1			30									
	診療に伴う援助技術	2				45								
	フィジカルアセスメント技術	1				30								
	人間関係方法論	1				30								
	健康教育方法論	2						45						
	回復期援助技術	1					30							
	看護過程Ⅰ	1					15							
	看護過程Ⅱ	1							30					
	看護の実践	地域・在宅看護概論	1			15								
地域・在宅生活支援論		1				15								
地域・在宅療養生活支援論		2						45						
生涯発達看護概論		3					45							
女性生涯看護概論		1				15								
ウイメンズヘルス論		1					30							
母子健康支援論		2						45						
小児生活支援論		1					30							
高齢者生活支援論		1					30							
急性期看護論		2					45							
慢性期・回復期看護論		2					45							
終末期・緩和ケア看護論		1						30						
高齢者療養生活支援論		2						45						
精神療養生活支援論		2						45						
小児療養生活支援論		2						45						
公衆衛生看護学概論		2				30								
公衆衛生健康支援論	2					30								
公衆衛生看護活動論	3						45							
公衆衛生看護技術演習	○・*	2								45				
公衆衛生看護管理演習	○	2								45				
保健医療福祉政策演習	○	1								15				
臨地実習	生活支援実習	1			45									23単位
	療養生活支援実習	2					90							
	地域・在宅療養生活支援実習	2							90					
	クリティカルケア実習	3							135					
	慢性期・回復期支援実習	4							180					
	精神療養生活支援実習	2							90					
	母子健康支援実習	2							90					
	小児療養生活支援実習	2							90					
	地域・高齢者生活支援実習	3							135					
	看護統合実習	2								90				
公衆衛生看護実習	○	5								225				
研究	研究Ⅰ	1				15								10単位以上 (必修9単位・ 選択1単位以上)
	研究Ⅱ	1						30						
	研究Ⅲ	2								90				
看護の統合	看護管理	1									15			
	看護総合演習	1										30		
	家族看護学	1					30							
	がん看護学		1								15			
	災害看護学	1					30							
	多職種連携教育	1									15			
	国際看護学		1				15							
	最先端の医療と看護		1								15			
公衆衛生看護管理論	○	2								30				
合 計												128単位以上		

○印は保健師教育課程選択者の履修科目とする(ただし、公衆衛生看護管理論は選択者以外も履修可)
*印は科目内容が養護教諭二種免許状の取得にかかわるもの

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

授業科目	必修	選択	実習先
	単位	単位	
生活支援実習	1		久留米大学病院、久留米大学医療センター等
療養生活支援実習	2		久留米大学病院、久留米大学医療センター
地域・在宅療養生活支援実習	2		訪問看護ステーション
クリティカルケア実習	3		久留米大学病院
慢性期・回復期支援実習	4		久留米大学病院
精神療養生活支援実習	2		久留米大学病院、のぞえの丘病院
母子健康支援実習	2		久留米大学病院
小児療養生活支援実習	2		久留米大学病院、わんぱく保育園
地域・高齢者生活支援実習	3		介護老人保健施設、介護老人福祉施設等
看護統合実習	2		久留米大学病院、久留米大学医療センター
公衆衛生看護実習		5	保健所、市町村保健センター等
合計	28		

授業科目、科目責任者及び単位数（第1学年）

区分	科目	科目責任者	単位	1学期	2学期		
感性と創造	人と文化	久留米大学の理念と歴史	医学部看護学科 教授 益守 かづき	1	■		
		音楽と癒し	非常勤講師 梅崎 京子	2		○	
		文学	文学部 講師 藤本 晃嗣	2		○	
		スポーツ科学Ⅰ	人間健康学部 教授 右田 孝志	1	○（集中講義）		
		スポーツ科学Ⅱ	非常勤講師 畦山 与里子	1	○	○	
		倫理学	非常勤講師 土持 貴志	2	■		
		比較文化論	非常勤講師 永吉 守	2		○	
		教育学	文学部 講師 小田 茜	2	○		
	心理学	文学部 助教 石田 有紀	2	○			
	人と言語	国語表現法	文学部 教授 大庭 卓也	1		■	
		英語Ⅰ	外国語教育研究所 教授 島村 恭輔	1	■	■	
		オーラルイングリッシュⅠ	文学部 教授 アーサー ミアソン 非常勤講師 ラッツ デヴィッド	1	■	■	
		ドイツ語	文学部 准教授 大場 はるか	1	○		
		中国語	外国語教育研究所 教授 李 偉	1	○		
		韓国語	外国語教育研究所 准教授 李 熙卿	1	○		
	くらしと社会	社会学	文学部 特任教授 中西 吉則	2	○		
		生活と経済	非常勤講師 矢野 生子	2		○	
		くらしと法	法学部 准教授 藺田 史	2		○	
	人と自然	環境科学	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴	2	○		
		くらしとサイエンス	医学部自然科学教室(化学) 教授 東元 祐一郎	2	■		
		人間工学	非常勤講師 松尾 重明	2		○	
		情報学	医学教育研究センター 准教授 柏木 孝仁	1	■		
		統計・推計学	病院経営室 准教授 宮本 貴宣	1		■	
	人間と健康	からだの構造と はたらき	からだの構造と機能Ⅰ	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅	2	■	
			からだの構造と機能Ⅱ	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅	2		■
			からだの代謝	医学部医化学講座 講師 原田 二郎	1		■
		こころの構造と はたらき	こころの生涯発達	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子	1		■
ボランティア活動			文学部 助教 土井 幸治	1	○		
健康と健康障害		家族社会学	非常勤講師 藤田 智子	1		○	
		微生物と感染	医学部感染制御学講座 教授 渡邊 浩	1		■	
		病理学	医学部病理学講座 教授 矢野 博久	2		■	
看護の 実践	看護の 基本	看護学概論Ⅰ	医学部看護学科 教授 加悦 美恵	1	■		
		生命・看護倫理	医学部看護学科 教授 田中 佳代	1		■	
		生活援助技術Ⅰ	医学部看護学科 教授 加悦 美恵	2	■		
		生活援助技術Ⅱ	医学部看護学科 准教授 恒松 佳代子	1		■	
	対象理解と 看護活動	地域・在宅看護概論	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵	1		■	
		公衆衛生看護学概論	医学部看護学科 教授 重松 由佳子	2		■	
	臨地実習	生活支援実習	医学部看護学科 教授 加悦 美恵	1		■	

■ は必修科目
○ は選択科目

授業科目、科目責任者及び単位数（第2学年）

区分		科目	科目責任者		単位	1学期	2学期
感性と創造	人と言語	英語Ⅱ	非常勤講師	藤原 恵子	1	■	■
		オーラルイングリッシュⅡ	外国語教育研究所 教授 外国語教育研究所 准教授	キャスリーン ブラウン シャーロット ムラカミ	1	■	■
人間と健康	からだの構造とはたらき	からだの構造と機能Ⅲ	医学部看護学科	教授 嵯峨 堅	1	■	
	健康と健康障害	社会福祉と社会保障	文学部	教授 片岡 靖子	1	■	
		免疫	医学部免疫学講座	教授 溝口 充志	1	■	
		疫学	医学部看護学科	准教授 松本 悠貴	2		■
		症候学	医学部看護学科	准教授 松本 悠貴	2	■	
		疾病治療論Ⅰ	医学部看護学科	准教授 松本 悠貴	2	■	
		疾病治療論Ⅱ	医学部看護学科	准教授 松本 悠貴	2		■
		臨床薬理	医学部薬理学講座	教授 西 昭徳	2		■
臨床栄養	医療センター栄養室	副部長補佐 坂口 美紀	1		■		
看護の 実践	看護の 基本	診療に伴う援助技術	医学部看護学科	講師 前野 里子	2	■	
		フィジカルアセスメント技術	医学部看護学科	講師 河原田 康貴	1	■	
		人間関係方法論	医学部看護学科	准教授 舞弓 京子	1	■	
		回復期援助技術	医学部看護学科	講師 孫田 千恵	1		■
		看護過程Ⅰ	医学部看護学科	講師 前野 里子	1		■
	対象理解 と 看護活動	地域・在宅生活支援論	医学部看護学科	講師 渡邊 理恵	1	■	
		生涯発達看護概論	医学部看護学科	教授 益守 かづき	3	■	
		女性生涯看護概論	医学部看護学科	教授 田中 佳代	1	■	
		ウイメンズヘルス論	医学部看護学科	教授 田中 佳代	1		■
		小児生活支援論	医学部看護学科	教授 益守 かづき	1		■
		高齢者生活支援論	医学部看護学科	教授 古村 美津代	1		■
		急性期看護論	医学部看護学科	教授 崎浜 智子	2		■
		慢性期・回復期看護論	医学部看護学科	准教授 桐明 あゆみ	2		■
公衆衛生健康支援論	医学部看護学科	講師 徳澤 麻梨子	2		■		
臨地実習	療養生活支援実習	医学部看護学科	教授 加悦 美恵	2		■	
看護の 統合	研究	研究Ⅰ	医学部看護学科	准教授 跡上 富美	1	■	
	看護の 発展	家族看護学	医学部看護学科	准教授 桐明 あゆみ	1		■
		災害看護学	医学部看護学科	准教授 桐明 あゆみ	1	■	
		国際看護学	医学部看護学科	准教授 桐明 あゆみ	1	○	

■ は必修科目
○ は選択科目

看護学科の履修モデル

- *印の科目は必修科目です。選択科目は、モデルとしての一例なので、科目内容と時間をよく確認して選択してください。
- 看護学科カリキュラムには卒業要件を満たすと、同時に看護師の国家試験受験資格が取得できます。卒業要件の詳細については、カリキュラムブックの履修表を参照してください。
- 保健師の国家試験受験資格の取得には公衆衛生看護技術演習、公衆衛生看護管理演習、保健医療福祉政策演習、公衆衛生看護実習を選択しなければなりません。(公衆衛生看護管理論以外は保健師選択者しか受講できません)
- くらしと法、スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護技術演習は養護教諭2種免許取得を希望する人は必ず選択しなければなりません(保健師国家試験合格者が養護教諭2種免許を申請できます)
- 卒業要件は128単位以上、1年間の履修登録単位数の上限は48単位です。

区分	1学年		2学年		3学年		4学年		単位合計 (保健師選択者)	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期		
感性と創造	*久留米大学の理念と歴史(1単位) *国語表現法(1単位) *スポーツ科学Ⅰ(1単位) *音楽と癒し(2単位) *スポーツ科学Ⅱ(1単位) *オーストラリアングリッシュⅠ(1単位) *倫理学(2単位) *人間工学(2単位) *統計・推計学(1単位) *英語Ⅰ(1単位) *ドイツ語(1単位) *くらしとサイエンス(2単位) *環境科学(2単位) *情報科学(1単位)	*英語Ⅱ(1単位) *オーストラリアングリッシュⅡ(1単位)	*疫学(2単位) *疾病治療論Ⅱ(2単位) *疾病治療統計学(2単位) *保健医療福祉行政論(2単位)	*臨床心理学(1単位) *保健医療統計学(2単位) *保健医療福祉行政論(2単位)					25単位	25単位
	*からだの構造と機能Ⅰ(2単位) *ポランティア活動(1単位) *からだの構造と機能Ⅱ(2単位) *からだの代謝(1単位) *こころの生涯発達(1単位) *家族社会学(1単位) *微生物と感染(1単位) *病理学(2単位)	*からだの構造と機能Ⅲ(1単位) *免疫(1単位) *社会福祉と社会保障(1単位) *臨床薬理(2単位) *症候学(2単位) *臨床栄養(1単位) *疾病治療論Ⅰ(2単位)	*診療に伴う援助技術(2単位) *人間関係方法論(1単位) *看護過程Ⅰ(1単位) *フイジカルアセスメント技術(1単位)	*健康教育方法論(2単位) *看護過程Ⅱ(1単位)					30単位	30単位
看護の基礎	*看護学概論Ⅰ(1単位) *生活援助技術Ⅰ(2単位)	*生命・看護倫理(1単位) *生活援助技術Ⅱ(1単位)	*診療に伴う援助技術(2単位) *人間関係方法論(1単位) *看護過程Ⅰ(1単位) *フイジカルアセスメント技術(1単位)	*健康教育方法論(2単位) *看護過程Ⅱ(1単位)					15単位	15単位
	*地域・在宅看護概論(1単位) *公衆衛生看護学概論(2単位)	*小児生活支援論(1単位) *高齢者生活支援論(1単位) *急性期看護論(2単位) *慢性期看護論(2単位) *ウィメンズヘルス論(1単位) *公衆衛生健康支援論(2単位)	*小児生活支援論(1単位) *高齢者生活支援論(1単位) *急性期看護論(2単位) *慢性期看護論(2単位) *ウィメンズヘルス論(1単位) *公衆衛生健康支援論(2単位)	*地域・在宅療養生活支援論(2単位) *母子健康支援論(2単位) *終末期・緩和ケア看護論(1単位) *高齢者療養生活支援論(2単位) *精神療養生活支援論(2単位) *小児療養生活支援論(2単位) *公衆衛生看護学活動論(3単位)					31単位	36単位
看護の実践	*生活支援実習(1単位)									
臨地実習										
看護の統合										
合計	31科目(43単位)		30科目(42単位)		20科目(41単位)		7科目(9単位)【保健師選択者2科目(21単位)】		135単位	147単位

シラバス

(2022年度、2023年度以降入学生)

授業科目一覧 (シラバス目次)

<p>感性と創造 (人と文化)</p> <p>久留米大学の理念と歴史 32</p> <p>音楽と癒し 33</p> <p>文学 34</p> <p>スポーツ科学Ⅰ 35</p> <p>スポーツ科学Ⅱ 36</p> <p>倫理学 37</p> <p>比較文化論 38</p> <p>教育学 39</p> <p>心理学 40</p> <p>感性と創造 (人と言語)</p> <p>国語表現法 41</p> <p>英語Ⅰ 42</p> <p>英語Ⅱ 43</p> <p>オーラルイングリッシュⅠ 44</p> <p>オーラルイングリッシュⅡ 46</p> <p>ドイツ語 48</p> <p>中国語 49</p> <p>韓国語 50</p> <p>感性と創造 (くらしと社会)</p> <p>社会学 51</p> <p>生活と経済 52</p> <p>くらしと法 53</p> <p>感性と創造 (人と自然)</p> <p>環境科学 54</p> <p>くらしとサイエンス 55</p> <p>人間工学 56</p> <p>情報学 57</p> <p>統計・推計学 58</p> <p>人間と健康 (からだの構造とはたらき)</p> <p>からだの構造と機能Ⅰ 59</p> <p>からだの構造と機能Ⅱ 61</p> <p>からだの構造と機能Ⅲ 63</p> <p>からだの代謝 64</p> <p>人間と健康 (こころの構造とはたらき)</p> <p>こころの生涯発達 65</p> <p>ボランティア活動 66</p> <p>人間と健康 (健康と健康障害)</p> <p>家族社会学 67</p> <p>社会福祉と社会保障 68</p> <p>微生物と感染 69</p> <p>免疫 70</p> <p>疫学 71</p> <p>病理学 72</p> <p>症候学 73</p> <p>疾病治療論Ⅰ 74</p> <p>疾病治療論Ⅱ 75</p> <p>臨床薬理 76</p> <p>臨床栄養 77</p>	<p>看護の実践 (看護の基本)</p> <p>看護学概論Ⅰ 78</p> <p>生命・看護倫理 79</p> <p>生活援助技術Ⅰ 80</p> <p>生活援助技術Ⅱ 81</p> <p>診療に伴う援助技術 82</p> <p>フィジカルアセスメント技術 83</p> <p>人間関係方法論 84</p> <p>回復期援助技術 85</p> <p>看護過程Ⅰ 86</p> <p>看護の実践 (対象理解と看護活動)</p> <p>地域・在宅看護概論 87</p> <p>地域・在宅生活支援論 88</p> <p>生涯発達看護概論 89</p> <p>女性生涯看護概論 90</p> <p>ウイメンズヘルス論 91</p> <p>小児生活支援論 92</p> <p>高齢者生活支援論 93</p> <p>急性期看護論 94</p> <p>慢性期・回復期看護論 95</p> <p>公衆衛生看護学概論 96</p> <p>公衆衛生健康支援論 97</p> <p>看護の実践 (臨地実習)</p> <p>生活支援実習 98</p> <p>療養生活支援実習 99</p> <p>看護の統合 (研究)</p> <p>研究Ⅰ 100</p> <p>看護の統合 (看護の発展)</p> <p>家族看護学 101</p> <p>災害看護学 102</p> <p>国際看護学 103</p>
--	---

科目ナンバリングコードについて【2022年度以降入学生適用】

科目ナンバリングコードは科目に学問分野、学習段階、順序等を示す番号を付し、教育課程の体系性を示すものである。本学科では以下のとおり各科目をナンバリングしている。

型式	内容	看護学科
ABC アルファベット 3文字	学問分野の区分	NUS(Nursing Science)：看護学 PHN(Public Health Nursing)：公衆衛生看護学 ANT(Anthropology)：人類学・民俗学 BMS(Basic Medical Science)：基礎医学系 CLM(Clinical Medicine)：臨床医学系 ECN(Economics)：経済学 ENV(Environment Science)：環境学 FLE(Foreign Language Education)：外国語教育 HSS(Health Sports Science)：健康スポーツ科学 IFS(Information Science)：情報科学 LAW(Law)：法学 LIN(Linguistics)：言語学 LIT(Literature)：文学 NAT(Natural Science)：自然科学 PDG(Pedagogy)：教育学 PHL(Philosophy and Ethics)：哲学・倫理学 PSY(Psychology)：心理学 RES(Regional Studies)：地域学 SBM(Social Behavioral Medicine)：社会行動医学系 SOC(Sociology)：社会学 STS(Statistical Science)：統計科学 SWS(Social Welfare Studies)：社会福祉学
1 数字1桁	学修レベル	1(入門・導入・啓発・初級) 2(基本・総論・中級) 3(発展・応用・上級) 4(学士課程最終)
2 数字1桁	授業形態	1(講義) 6(オンディマンド) 2(演習) 7(研究指導・論文) 3(外国語) 8(他大学単位互換) 4(実習・実験・実技) 9(海外研修・留学) 5(フィールドワーク・学外) 0(その他)
3 数字1桁	学問分野小分類	・看護学(NUS) 1(共通) 6(母性看護学) 2(基礎看護学) 7(精神看護学) 3(成人看護学) 8(在宅看護学) 4(老年看護学) 9(統合) 5(小児看護学) ・看護学(NUS)以外の教養科目、医学系科目等は久留米大学学問分野小分類に準ずる。
4 数字1桁	科目番号	系統的な科目の順序性を示す(単独科目は全て1)。 なお、教養科目などは久留米大学科目番号に準ずる。
DE アルファベット 2文字	開設部門	全てMN(医学部看護学科)
F 英数字1文字	卒業要件類別	1(1年必修科目) 6(3年選択科目) 2(1年選択科目) 7(4年必修科目) 3(2年必修科目) 8(4年選択科目) 4(2年選択科目) 5(3年必修科目)

科目名 ナンバリングコード	久留米大学の理念と歴史 RES1511MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義・実習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	久留米大学学長 内村 直尚 医学部看護学科 孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学としての建学の精神、自校の歴史と看護のパラダイムシフトについて理解する。 2) 自律的に生涯を通して最新の知識・技術を学び続けるための能力について考究する。 3) 久留米の歴史と生活、経済、文化のつながりを中心に、発祥の秘話や歴史を踏まえて、問題・課題とその対策等について考究する。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 久留米大学が目指すものを具体的に明文化した理念について理解し、記述できる。 2) 永年の自校の歴史とともに、大学との絆、大学を介した同窓生の絆を確認できる。 3) 久留米産業の現地学習、体験学習に参加し、その歴史と大学や健康との関連性について記述できる。 4) 久留米の産業について、今なお生き続ける強みと国内やアジアで発展・進化する方略について、自己の考えを記述できる。 5) 久留米の地に誇りをもち、新しい時代の医療のキーパーソンとしての自己の将来について記述できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	久留米大学の理念と歴史、建学の精神	内村【講義】	大学理念・シラバス確認	60 分	
第 2 回	久留米大学の看護師養成の歴史を学ぶ	益守【講義】	3つのポリシー確認	60 分	
第 3 回	久留米と久留米絣とゴム産業について《レポート提出》	益守【演習】	「久留米絣と健康」「ゴム産業と健康」文献検索	60 分	
第 4 回	久留米絣と文化	益守（ゲストスピーカー） 【講義】	プレゼンテーションの事前準備	60 分	
第 5・6 回	《現地学習：アサヒシューズ工場》 久留米とゴム産業の発展、ゴム産業と企業再生、シューズと健康、自身の足計測	益守、孫田、池上、石橋 【実習】	講義中でのディスカッション・プレゼンテーションの事前準備	60 分	
第 7・8 回	《現地学習：久留米絣工房「藍生庵」》 久留米と地衣類、文化の継承と科学的探究 久留米絣人間国宝 松枝玉記の藍への思い	益守、孫田、池上、石橋 【実習】	講義中でのディスカッション・プレゼンテーションの事前準備	60 分	
テキスト	必要時資料配布				
運営協定	アサヒシューズ株式会社 〒 830-8629 福岡県久留米市洗町一番地 久留米絣工房「藍生庵」 〒 839-1215 福岡県久留米市田主丸町竹野3		TEL 0942-37-1020 TEL 0943-72-4377		
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（40%）	達成度を正答率で評価する。				
レポート提出（30%）	レポートの提出状況と内容をポイント化し評価する。				
受講態度（30%）	2回の「現地学習」への参加を必須とする。現地でのディスカッション・体験への主体的態度を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートは「現地学習」前に返却し、現地でのディスカッションでフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	音楽と癒し NUS1111MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 梅崎 京子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 現代社会における音楽の癒す力、啓発する力など音・音楽に関わる基礎的知識を習得する。</p> <p>2) 医療・福祉分野においてどのような形で生活の質・健康・人間関係を構築する仕組みを習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 多くのジャンルの作品・音源で音・音楽の持つ力が心理的・社会的にどのようにもたらすか理解する。</p> <p>2) 多職種の面から対人援助においての音楽の効果・効用など理解する。</p> <p>3) 一般社会の中でも音楽を積極的に利用していきける力を実際に体験する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	癒しの対象となる音・音楽 (1)	梅崎 【講義】	教科書・第 1 章読解（前）	15 分	
第 2 回	癒しの対象となる音・音楽 (2)	梅崎 【講義】	教科書・第 1 章読解（後）	15 分	
第 3 回	癒しの対象となる音・音楽 (3)	梅崎 【講義】	教科書・第 2 章読解（前）	15 分	
第 4 回	癒しの対象となる音・音楽 (4)	梅崎 【講義】	教科書・第 2 章読解（後）	15 分	
第 5 回	癒しの対象となる音・音楽 (5)	梅崎 【講義】	教科書・第 3 章読解（前）	15 分	
第 6 回	医療・福祉・対象の音楽 (1)	梅崎 【講義】	教科書・第 3 章読解（後）	15 分	
第 7 回	医療・福祉・対象の音楽 (2)	梅崎 【講義】	教科書・第 4 章読解（前）	15 分	
第 8 回	医療・福祉・教育対象の音楽 (3)	梅崎 【講義】	教科書・第 4 章読解（後）	15 分	
第 9 回	医療・福祉・教育対象の音楽 (4)	梅崎 【講義】	教科書全体読解	15 分	
第 10 回	医療・福祉の対象における音楽 (5)	梅崎 【講義】	計画書の曲選定	15 分	
第 11 回	音楽療法研究 計画・準備①	梅崎 【講義】	2015 年以降の楽曲・動向等 歌詞・プログラム作成	30 分	
第 12 回	音楽療法研究・課題発表 演習①	梅崎 【講義】	課題・作成	30 分	
第 13 回	課題発表 演習②	梅崎 【講義】	実践	30 分	
第 14 回	課題発表 演習③	梅崎 【講義】	実践 レポート提出	30 分	
第 15 回	音楽療法演奏会・まとめ・合唱	梅崎 【講義】	総括		
テキスト	今日すべきことを精一杯（日野原重明） (株)ポプラ社 2018 年 必要な時資料を配布する				
参考書	茂木健一郎：すべては音楽から生まれる 脳とシューベルト PHP 研究所 2008 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート (30%) 受講態度 (20%) 演習態度 (30%) ミニッツペーパー (20%)	講義の中で出席状況・授業態度・グループ討議・ミニッツペーパー・グループワークの取り組み レポート評価等で総合的に判断して評価します。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポート課題に対して返却はしないがミニッツペーパー、グループワーク等の実習（案）内容で各自振り返り作業をして講義の中で言及する。				

科目名 ナンバリングコード	文学 LIT1107MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	文学部 講師 藤本 晃嗣				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>日本近代文学の作品を通して日本の文化についての知識を習得するとともに、小説を読むための様々な技法を学ぶ中で言語文化に対する理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 近代以降の日本の文学・文化の特徴を理解している。 2) 日本近代文学の代表的な作品について、その内容と特色を理解している。 3) 小説作品を自ら解釈し、その解釈の根拠について説得力のある説明ができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	概論 日本近代文学について	藤本【講義】	代表作を調べる。	30分	
第2回	小説の読み方について	藤本【講義】	これまで学んだ小説の読み方をふりかえる。	30分	
第3回	作者の伝記を調べる	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第4回	作者の伝記をもとに読む	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第5回	同時代の文化事象を調べる	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第6回	同時代の文化事象をもとに読む	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第7回	同時代の社会事象を調べる	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第8回	同時代の社会事象をもとに読む	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第9回	作品の構造を考える	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第10回	作品の構造に注目して読む	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第11回	〈語り〉のあり方を考える	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第12回	〈語り〉に注目して読む	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第13回	文学理論について学ぶ	藤本【講義】	指定された小説作品を読む。	30分	
第14回	文学理論をもとに読む	藤本【講義】	学んだ技法を他の作品に応用する。	30分	
第15回	まとめ	藤本【講義】	これまでの学習を振りかえる。	30分	
テキスト	毎時間資料を配付する。				
参考書	『ここから始める文学研究：作品を読み解くために』 荒井裕樹 他 著・編（みずき書林、2022年5月）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（60%）	到達目標に達しているかどうか、達成度を評価する。				
受講態度（40%）	講義中に指示する課題などの取り組み状況に応じて評価する。小テストを行って知識の定着度を測ることもある。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	提出された課題を確認した後に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	スポーツ科学I HSS1116MN2	選択科目	1年次 集中講義	講義	1単位
科目責任者	人間健康学部 教授 右田 孝志				
科目担当者	人間健康学部 吉田 典子、奥野 真由				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 現代社会における健康問題を知る。 2) 運動に伴う身体の生理・生化学的応答、運動がこころや身体に及ぼす効果・影響を学ぶ。 3) 運動実践上の留意点を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 運動に伴う心身の生理的応答と運動が心身に及ぼす効果を理解し、説明できるようになる。 2) 日常生活で運動を安全に実践できるようになる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	運動とからだ（1）運動と身体組成	右田【講義】	身体の構成要素をまとめること	60分	
第2回	運動とからだ（2）筋力・パワーと運動	右田【講義】	筋力とパワーの違いをまとめること	60分	
第3回	運動とからだ（3）有酸素運動	右田【講義】	運動に対する循環系の応答をまとめること	60分	
第4回	運動とこころ（1）—モチベーションの心理—	奥野【講義】	モチベーションのしくみ	60分	
第5回	運動とこころ（2） —健康スポーツ・競技スポーツと心理—	奥野【講義】	競技現場で行われている心理面のサポート	60分	
第6回	運動への医学的アプローチ（1）身体活動の効果	吉田【講義】	運動トレーニングの効果	60分	
第7回	運動への医学的アプローチ（2）身体活動と疾病予防	吉田【講義】	心臓リハビリテーション	60分	
第8回	運動への医学的アプローチ（3）運動療法	吉田【講義】	運動処方	60分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	健康づくりへのアプローチ 生活習慣改善マニュアル第3版 石川兵衛 著 文光堂				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度（30%） 試験（70%）	担当教員毎に試験実施またはレポートの課題を与え100点満点で評価し、担当講義数で重み付けをした平均を本授業の評価とする。また、私語をはじめとした授業にふさわしくない態度をとる学生、無断退出等の学生には受講を認めない場合がある。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは各回の講義中に行う。 最終のレポートは返却しない。				

科目名 ナンバリングコード	スポーツ科学Ⅱ HSS1416MN2	選択科目	1年次 Aクラス1学期 Bクラス2学期	講義・実習	1単位
科目責任者	非常勤講師 畦山 与里子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) ピラティスを体験することで、健康維持のために必要なトレーニング方法を学ぶ。</p> <p>2) 運動を実践することで得られる効果や心身の変化を体感し、その楽しさと重要性を知る。</p> <p>到達目標</p> <p>1) それぞれのエクササイズの目的や効果を理解する。</p> <p>2) 適切な姿勢や身体の使い方を身につけるとともに、授業を通して心身の変化を感じる。</p> <p>3) 自己の身体の現状、課題を把握し、今後のライフスタイルで健康に過ごすための自己管理法を身につける。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	体オリエンテーション、ピラティス概論	畦山【講義】	前にシラバス確認	15分	
第2回	体力測定と評価	畦山【実習】	資料の予習と復習	30分	
第3回	呼吸法・インナーユニットの使い方	畦山【実習】	測定結果の確認と把握	30分	
第4回	骨盤・脊柱・骨盤の適切なポジション	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第5回	脊柱の分節運動	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第6回	各ユニットの可動性向上(下肢・骨盤帯)	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第7回	同上(胸郭・脊柱・肩甲帯)	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第8回	各ユニットの安定性の向上	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第9回	各ユニットの分離と共同	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第10回	腹筋群、背筋群の強化	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第11回	体幹の強化と四肢の連動性強化	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第12回	立位トレーニング、過負荷トレーニング	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第13回	立位トレーニング、ペアドトレーニング	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第14回	全身のコーディネーショントレーニング	畦山【実習】	エクササイズの復習	30分	
第15回	体力測定と評価、まとめ	畦山【実習・講義】	初回測定結果の確認	30分	
テキスト	必要時、資料を配布する				
参考書	<p>Jane Paterson ; ティーチングピラティス, ナップ, 2010年</p> <p>中村 尚人 ; ピラティスアナトミィ, ガイヤブックス, 2013年</p> <p>勝田茂編著, 和田正信, 松永智著 ; 入門運動生理学 杏林書院</p> <p>菅原 順二 ; ピラティス大全, 成美堂出版, 2021年</p>				
成績評価					
方法(割合)	基準				
受講態度(80%) レポート(20%)	<p>授業への参加状況、積極的に取り組む姿勢を総合的に評価する。</p> <p>課題内容に対して、的確に具体的に述べていること。</p>				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポート採点後に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	倫理学 PHL1130MN1	必修科目	1年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	非常勤講師 土持 貴志 (九州大学大学院人文科学研究院)				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 倫理学的知識の獲得だけでなく、様々な倫理的問題に関して思索し議論を行うことで、倫理的な思考法と議論法を身につける。</p> <p>2) 具体的な状況において、「その状況にはどんな問題があるのか。その状況で我々はどうすべきか、そしてその根拠は何か」を自ら思索し他者と議論することで、自身の意見を論理的・説得的に他者に伝えることを学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 倫理学の基本的な知識を獲得し、倫理学とはどのような学問かを他者に説明できる。</p> <p>2) ただひとつの答えが無いような状況において自らの意見を表明し、その根拠から説明できる。</p> <p>3) 他者と議論を行うことで、自らの意見を修正し洗練させることができる。</p> <p>4) 自らの意見を文章の形で表現できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	倫理学はどんな学問か 行為の善さを決めるのは、その行為の結果か？ それとも、行為の動機か？ はたまた、行為者の性格か？ 先週の私と今週の私は同一人物だろうか？ (1) 先週の私と今週の私は同一人物だろうか？ (2) 人間は本当に自由なのだろうか？ (1) 人間は本当に自由なのだろうか？ (2) 中間まとめレポート・論述の組み立て方 望まない子供を持たないことは認められるか？ 望む子供を選ぶことは認められるか？ 安楽死が認められうる条件はどんなものか？ 本人の死の希望のみで安楽死は正当化されるか？ 死ぬ権利は他者の死なない権利を脅かすか？ まとめレポートに向けて	土持【講義】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義・演習】 土持【講義】	各回の講義は、それ以前の講義の内容を前提として話を進めることが多い。 授業後に不明点を質問したり調べたりすることで解消し、授業全体との関連を把握すること。	平均的な学生の場合、授業後に60分、次の授業前に30分程度の復習することが有効だと思われる。	
テキスト	なし (必要に応じて適宜プリントを配ります。)				
参考書	必要に応じて授業中に指示します。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%) 受講態度 (20%)	期末試験 (80%) を課します。毎回の授業時に課題 (20%) を与え、ミニッツペーパーもしくは Google Form を利用して回答してもらいます。				
課題 (レポート等)	に対するフィードバック 各回の課題については次の授業の冒頭にフィードバックを行います。				

科目名 ナンバリングコード	比較文化論 ANT1109MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 永吉 守				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) グローバルな視点を持ち、具体的に行動につなげる思考様式を促す。</p> <p>2) 世界には様々な文化・社会が存在することを示し、その相違性と共通性の理解から多文化共生を促す。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 文化と社会の概念を理解する。</p> <p>2) 人間の文化として、言語、生業、社会組織、家族と親族、信仰、性などが存在することを理解する。</p> <p>3) 文化や社会の単位として、民族集団やエスニシティなどが重要であることを理解する。</p> <p>4) 異文化理解の態度として、文化相対主義的な寛容性が重要であり、またその限界を理解する。</p> <p>5) グローバリゼーションについて、文化的文脈として理解する。</p> <p>6) 異文化理解にもとづく多文化共生について、現代の日本社会の状況から理解し、地球市民として行動する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	イントロダクション	永吉【講義】	シラバスの確認	10 分	
第 2 回	比較文化の手法 (文化人類学的視点と方法)	永吉【講義】	手法を事前調査	20 分	
第 3 回	「社会」の概念・「文化」の概念	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 4 回	文化相対主義と自民族中心主義	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 5 回	ことば・衣食住・生業の比較文化	永吉【講義】	具体的事例を事前調査	20 分	
第 6 回	「社会」や「文化」の単位	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 7 回	家族・親族組織・結婚の比較文化 (1)	永吉【講義】	具体例を予め想定	20 分	
第 8 回	家族・親族組織・結婚の比較文化 (2)	永吉【講義】	具体例を予め想定	20 分	
第 9 回	信仰や宗教の比較文化ー「死」の事例からー	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 10 回	グローバリゼーションと異文化理解 (1)	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 11 回	グローバリゼーションと異文化理解 (2)	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 12 回	多文化共生への道 (1)ー在日コリアンー	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 13 回	多文化共生への道 (2)ーユンヌンチューー	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 14 回	多文化共生への道 (3)ー在住外国人ー	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 15 回	医療・看護と比較文化、まとめ	永吉【講義】	15 回全体を事後まとめ	20 分	
テキスト	特に指定のものは用いないが、毎回講義資料を配布。				
参考書	綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、2010 年。ほか適宜指示。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
レポート (95%) 受講態度 (5%)	講義内容に基づき、到達目標の達成度をオリジナルな具体例と合わせて評価する。 講義への積極的姿勢と質問・感想等をポイント化する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	毎回、質問・感想をフォームに記述し、その応答を Moodle 等に掲載。				

科目名 ナンバリングコード	教育学 PDG1101MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	文学部 講師 小田 茜				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 教育のイメージを広げる(学校教育、社会教育、民間教育、青年期教育)とともに、教育と社会の関係に注目することで、教育の現状を身近な社会問題とも結びつけながら理解する。</p> <p>2) 1)について教材に加え DVD 視聴や、個人ワーク、グループワークを通じて主体的・実践的に教育問題に対して向き合うことを目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 教育の諸問題に関する基本的知識を身に付け、自分で説明できるようになる。</p> <p>2) 自らの教育観・学習観を見直し、これら2つを客観的に捉え直すことができるようになる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	オリエンテーション 教育のイメージを広げる① 教育のイメージを広げる② 学校外教育の実践例 高等教育進学現在の① 高等教育進学現在の② 現代社会における青年期教育① 現代社会における青年期教育② 教育と職業選択 教育とジェンダー 教育と貧困 学校教育における部活動 学校における人間関係① 学校における人間関係② まとめ	小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】	予習：関心の持った教育に関する新聞記事やニュースを整理する、復習：授業で示したポイントの整理をする	各回、予習/復習で最低2時間程度の主体的な学びが必要となる。	
テキスト	適宜配布します。				
参考書	適宜配布します。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
受講態度(20%) 提出物(10%) テスト(70%)	<p>受講態度は、積極的な発言、議論、グループワークへの参加などから評価します。</p> <p>提出物は、ミニレポートの提出状況から評価します。</p> <p>学期末にテストを実施します。</p>				
課題(レポート等)	に対するフィードバック	その都度、自己評価と他者評価を行う。			

科目名 ナンバリングコード	心理学 PSY1100MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	文学部 助教 石田 有紀				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 看護師にとって不可欠な人間の行動やこころの動きに関する知識を身に付ける。</p> <p>2) 現代社会における身近なトピックのなかでも、とくに他者との関わりに焦点を当てて、エビデンスに基づいた心理学の研究成果を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 日常生活における人間のこころの動きについて理解する。</p> <p>2) これまでの自分の生活を振り返るとともに、心理学の研究成果を今後の大学生活や看護師としてのキャリアに活かす。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	オリエンテーション、心理学とは 健康の心理と人間理解 (1) 健康の心理と人間理解 (2) 健康の心理と人間理解 (3) 健康の心理と人間理解 (4) カウンセリングと心理療法 (1) カウンセリングと心理療法 (2) カウンセリングと心理療法 (3) 感覚・知覚の心理 学習・記憶の心理 感情・動機の心理 性格・知能の心理 発達の心理 社会・集団の心理 まとめ	石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】 石田【講義】	心理学に関する様々な事象についてグループでディスカッションを行います。仲間づくりを意識しながら参加してください。	各 20 分	
テキスト	看護学生のための心理学 編集：長田久雄 医学書院				
参考書	講義の中で提示する。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
課題 (40%) レポート (40%) 受講態度 (20%)	グループワークや個人ワークの成果物をもとに到達目標の達成度を評価する。 毎回提出するレポートをもとに到達目標の達成度を評価する。 講義やワークへの積極的な参加姿勢を評価する。				
課題 (レポート等)	に対するフィードバック	講義の中で解説する。			

科目名 ナンバリングコード	国語表現法 LIN1123MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	文学部 教授 大庭 卓也				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 教育学の方法技術には、教える技術（教授学）と学ぶ技術（学習論）があるが、本講義では学ぶ技術に焦点づけ、受講者の能力向上を図る。</p> <p>到達目標 1) “明晰な”文章を書き、それを相手に“誤りなく”伝えるための作文技術を身につける。 2) 上記を習得することで、コミュニケーションを不可欠とするチーム医療や、患者に誠意をもって“誤りなく”伝えるインフォームド・コンセントなど、看護の仕事を行えるようになる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	国語表現の周辺	大庭【講義】			
第2回	自分の文章力を知る（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第3回	自分の文章力を知る（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第4回	日常の文章の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第5回	日常の文章の書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第6回	日常の文章の書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第7回	説明文の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第8回	説明文の書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第9回	説明文の書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第10回	レポート（実験レポート・看護体験レポートなど）の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第11回	レポートの書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第12回	レポートの書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第13回	レポートの書き方（4）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第14回	レポートの書き方（5）	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
第15回	まとめ	大庭【講義】	前回講義の復習	30分	
テキスト	中村萬里ほか著 『実践日本語表現ワークブック』 暁印書院				
参考書	木下是雄著 「理科系の作文技術」 中公新書				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート （70%）	<ul style="list-style-type: none"> ・文章が熟慮して構成されているか ・文章に文法や字句の誤りがないか 				
受講態度 （30%）	出席回数と積極的な意見・質問を総合的に評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		小レポートを課した場合は、一読のうえ返却する場合もある。			

科目名 ナンバリングコード	英語 I FLE1351MN1	必修科目	1 年次 A クラス 1 学期 B クラス 2 学期	演習	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 島村 恭輔				
教育目標 到達目標	<p>教育目標（社会の動向を踏まえた実践的英語能力を習得する。）</p> <p>1) 英語演習を通して総合的な英語力を向上させる。</p> <p>2) 英字新聞や英語放送等のメディア英語を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 英字新聞を読んで基本的な内容を理解できる。</p> <p>2) 英語放送を視聴して基本的な内容を理解できる。</p> <p>3) 自分の考えや意見を基本的な英語で表現できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	イントロダクション（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第2回	Unit 1（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第3回	Unit 2（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第4回	Unit 3（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第5回	Unit 4（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第6回	Unit 5（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第7回	Unit 6（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第8回	Unit 7（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第9回	Unit 8（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第10回	Unit 9（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第11回	Unit 10（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第12回	Unit 11（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第13回	Unit 12（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第14回	Unit 13（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第15回	まとめ（Aクラス・Bクラス共）	島村【演習】	テキストの総復習	1時間	
テキスト	<p>Aクラス：15 Selected Units of English through the News Media 2023 年度版 高橋、伊藤、Powell 著 朝日出版社</p> <p>Bクラス：CNN10 Student News Vol. 11 関戸、小暮、Arnold、Mattson 著 朝日出版社</p>				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験（30%） ・小テスト（25%） ・英作文（25%） ・授業参加度（20%） 	<p>授業で学んだ内容の理解力を筆記試験の得点により評価する。</p> <p>授業で課す課題の提出やその内容、小テストの得点、また事前の十分な予習に基づいた受講であるかを総合的に評価する。</p> <p>授業に積極的な姿勢で臨んでいるかを評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	英作文や小テスト等を課す。英作文はクラス用シラバスに明記しているルーブリックに基づき評価をフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	英語Ⅱ FLE1352MN3	必修科目	2年次 Aクラス1学期 Bクラス2学期	講義	1単位
科目責任者	非常勤講師 藤原 恵子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 国際社会の医療現場で外国人患者および医療従事者と英語でコミュニケーションをとるときに必要な英語力（聞く、話す、読む、書く）と看護英語を学ぶ。</p> <p>到達目標 国際社会の医療現場で実施に役立つ英語力と看護英語を身につける。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
A ク ラ ス	第1回	Introduction to this course, Unit 1: 医療関係の職業	藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】	予習： 授業で取り上げる Unitの予習をする。 復習： 教科書と「看護英 語の練習帳」の Unitを復習し、医 療英語と看護英語 を覚える。	予習 毎回 30分 復習 毎日 20分
	第2回	Unit 2: 病院での同僚、身体(外側)			
	第3回	Unit 3: 健康診断、身体(骨、筋肉)			
	第4回	Unit 4: 電話、身体(内臓)			
	第5回	Unit 5: 救急、病院の科の名称			
	第6回	Unit 6: 診察、病院関連			
	第7回	Unit 7: 病院の受付、症状(痛みなど)			
	第8回	Unit 8: 待合室、病気(1)			
	第9回	Unit 9: 友人、病気(2)			
	第10回	Unit 10: 病室、病気(3)			
	第11回	Unit 11: 旅行前、病気(4)			
	第12回	Unit 12: 病院、治療・手術			
	第13回	Unit 13: 病院で迷った人、薬剤関連			
	第14回	Unit 14: 入院、医療関係の道具			
	第15回	まとめ			
B ク ラ ス	第1回	Introduction to this course, Unit 1: 来院	藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】 藤原【講義】	予習： 授業で取り上げる Unitの予習をする。 復習： 教科書と「看護英 語の練習帳」の Unitを復習し、医 療英語と看護英語 を覚える。	予習 毎回 30分 復習 毎日 20分
	第2回	Unit 2: 初診受付			
	第3回	Unit 3: 生活習慣を聞く			
	第4回	Unit 4: 問診(1)			
	第5回	Unit 5: 脈拍、血圧、体重の測定			
	第6回	Unit 6: 採血、採尿			
	第7回	Unit 7: 診断(1)			
	第8回	Unit 8: 問診(2)			
	第9回	Unit 9: 症状をより詳しく聞く			
	第10回	Unit 10: 診断(2)			
	第11回	Unit 11: 薬の説明			
	第12回	Unit 12: 問診(3)			
	第13回	Unit 13: MRIを受ける			
	第14回	Unit 14: 手術を勧める			
	第15回	まとめ			
※但し、受講生の活動状況によって、進度調整するなど、若干の変更をする場合もある。					
テキスト	Aクラス：笹島 茂 他 著 “Take Care” 三修社 及び 井上真紀 著 看護英語の練習帳 Bクラス：樋口晶彦 他 著 “First Aid” 金星堂 及び 井上真紀 著 看護英語の練習帳				萌文書林 萌文書林
参考書	英和辞典、電子辞書、オンライン辞書：Weblio 辞書				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験の成績(50%) 受講態度(30%) 小テスト成績(20%)	学期中に学んだ会話表現や医療英語と看護英語の習得度。授業中の積極的な参加の姿勢。また、授業外での自習具合を小テストでチェック。				
課題に対するフィードバック	小テストは、Hondana で実施します。				

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュI FLE1361MN1	必修科目	1年次 B1 クラス1 学期 A1 クラス2 学期	講義	1単位
科目責任者	文学部 教授 アーサー ミアマン				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) To develop greater confidence and fluency in English communication. 2) To initiate and respond to questions and conversations in English.</p> <p>到達目標</p> <p>1) To practice speaking English in small groups in class. 2) To expand learning by doing online activities on a computer or smartphone. 3) To be able to use English in social and academic settings.</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	Introduction to the course Introducing yourself and your school Talking about daily routines Describing objects Talking about people Describing locations Talking about money and prices Talking about the future, vacations Speaking Assessment 1 Talking about the past Telling stories Discussing large numbers, population Talking about jobs Asking about school, other information Speaking Assessment 2	ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】 ミアマン【講義】	Register online Unit 1 Online work Unit 2 Online work Unit 3 Online work Unit 4 Online work Unit 5 Online work Unit 6 Online work Review Unit 7 Online work Unit 8 Online work Unit 9 Online work Unit 10 Online work Unit 11 Online work Unit 12 Online work	About 30 minutes to one hour for online activities and textbook review	
テキスト	COMMUNICATION SPOTLIGHT 3 rd Edition 2019 ISBN 978-1-78547-036-3 Written by Alastair Graham-Marr, Published by ABAX ELT Publishing				
参考書	http://www.englishcentral.com				
成績評価					
方法 (割合)		基準			
Two Speaking Tests (40%) Class Participation (30%) Online practice work (30%)		Speaking tests will take place in class in pairs, focusing on dialogues. Participation will be evaluated according to the student's attitudes to learning. Online practice work will be evaluated on a weekly basis.			
課題 (レポート等) に対するフィードバック		Evaluation and feedback ongoing throughout the term.			

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュI FLE1361MN1	必修科目	1年次 B2クラス1学期 A2クラス2学期	講義	1単位
科目責任者	非常勤講師 ラッツ デイヴィッド				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) To develop greater confidence and fluency in English communication. 2) To initiate and respond to questions and conversations in English.</p> <p>到達目標</p> <p>1) To practice speaking English in small groups in class. 2) To expand learning by doing online activities on a computer or smartphone. 3) To be able to use English in social and academic settings.</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	Introduction to the course Introducing yourself and your school Talking about daily routines Describing objects Talking about people Describing locations Talking about money and prices Talking about the future, vacations Speaking Assessment 1 Talking about the past Telling stories Discussing large numbers, population Talking about jobs Asking about school, other information Speaking Assessment 2	LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】	Register online Unit 1 Online work Unit 2 Online work Unit 3 Online work Unit 4 Online work Unit 5 Online work Unit 6 Online work Review Unit 7 Online work Unit 8 Online work Unit 9 Online work Unit 10 Online work Unit 11 Online work Unit 12 Online work	About 30 minutes to one hour for online activities and textbook review	
テキスト	COMMUNICATION SPOTLIGHT 3 rd Edition 2019 ISBN 978-1-78547-036-3 Written by Alastair Graham-Marr, Published by ABAX ELT Publishing				
参考書	http://www.englishcentral.com				
成績評価					
方法 (割合)		基準			
Two Speaking Tests (40%) Class Participation (30%) Online practice work (30%)		Speaking tests will take place in class in pairs, focusing on dialogues. Participation will be evaluated according to the student's attitudes to learning. Online practice work will be evaluated on a weekly basis.			
課題 (レポート等) に対するフィードバック		Evaluation and feedback ongoing throughout the term.			

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅡ FLE1362MN3	必修科目	2年次 B1クラス1学期 A1クラス2学期	講義	1単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 キャスリーン ブラウン				
教育目標 到達目標	<p>This oral communication course will prepare nurses to communicate with English speaking patients (e.g. foreign residents, tourists, and medical tourists).</p> <p>教育目標 The goal of the course is for students to become more confident about using English with patients in a medical setting.</p> <p>到達目標 1) Students will learn vocabulary and phrases to communicate with patients and family members. 2) Students will actively practice the target language through listening, shadowing, and doing role-plays.</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）、必要時間		
第1回	Course Overview/ Online registration	ブラウン【講義】	<ul style="list-style-type: none"> Google Classroom registration, syllabus, and the need for English in Japan will be explained on the first day. All homework is online. Speaking assessments are online. Students' attitudes to learning and other students will affect grades. 身体障害または学習障害のある学生は、ブラウンに連絡してください。 		
第2回	Asking for personal details	ブラウン【講義】			
第3回	Asking about pain/ Types of pain	ブラウン【講義】			
第4回	Types of pain / Pain scale	ブラウン【講義】			
第5回	Speaking Assessment 1	ブラウン【講義】			
第6回	Giving vital sign readings	ブラウン【講義】			
第7回	Taking vital signs / Making requests	ブラウン【講義】			
第8回	Taking vital signs / Explaining inhaler usage	ブラウン【講義】			
第9回	Assessing ADLs / Showing empathy	ブラウン【講義】			
第10回	Speaking Assessment 2	ブラウン【講義】			
第11回	Assessing patient elimination	ブラウン【講義】			
第12回	Asking about bodily functions	ブラウン【講義】			
第13回	Giving advice about diet/exercise	ブラウン【講義】			
第14回	Speaking Assessment 3	ブラウン【講義】			
第15回	Course Review/ Feedback	ブラウン【講義】			
テキスト	English for Nursing 2 (2012), ISBN 978-1-4082-6994-7, Authors: Ros Wright & Maria Spada Symonds, Publisher: Pearson				
参考書	必要あるアプリ: Flip, Google Classroom, Google ドキュメント, Google ドライブ				
成績評価					
方法 (割合)			基準		
Participation (15%) Speaking Assessments (50%) Homework (35%)					
課題（レポート等）に対するフィードバック					
			Google Classroom では、コースにおけるフィードバックと総合成績を確認することができます。		

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅡ FLE1362MN3	必修科目	2年次 B2クラス1学期 A2クラス2学期	講義	1単位
科目責任者	外国語教育研究所 准教授 シャーロット ムラカミ				
教育目標 到達目標	<p>This oral communication course will prepare nurses to communicate with English speaking patients (e.g. foreign residents, tourists, and medical tourists).</p> <p>教育目標 The goal of the course is for students to become more confident about using English with patients in a medical setting.</p> <p>到達目標 1) Students will learn vocabulary and phrases to communicate with patients and family members. 2) Students will actively practice the target language through listening, shadowing, and doing role-plays.</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）、必要時間		
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	Course Overview/ Online registration Asking for personal details Asking about pain/ Types of pain Types of pain / Pain scale Speaking Assessment 1 Giving vital sign readings Taking vital signs / Making requests Taking vital signs / Explaining inhaler usage Assessing ADLs / Showing empathy Speaking Assessment 2 Assessing patient elimination Asking about bodily functions Giving advice about diet/exercise Speaking Assessment 3 Course Review/ Feedback	村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】	<ul style="list-style-type: none"> • Google Classroom registration, syllabus, and the need for English in Japan will be explained on the first day. • All homework is online. • Speaking assessments are online. • Students' attitudes to learning and other students will affect grades. • 身体障害または学習障害のある学生は、村上に連絡してください。 		
テキスト	English for Nursing 2 (2012), ISBN 978-1-4082-6994-7, Authors: Ros Wright & Maria Spada Symonds, Publisher: Pearson				
参考書	必要あるアプリ: Flip, Google Classroom, Google ドキュメント, Google ドライブ				
成績評価					
方法 (割合)			基準		
Participation (15%) Speaking Assessments (50%) Homework (35%)			/		
課題 (レポート等) に対するフィードバック					
			Google Classroom では、コースにおけるフィードバックと総合成績を確認することができます。		

科目名 ナンバリングコード	ドイツ語 FLE1311MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	文学部 准教授 大場 はるか				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 日常会話で最低限必要とされるドイツ語表現を習得しつつ、ドイツ語文法のベーシックな部分を学びます。同時にドイツ語圏の文化に関する基礎知識も身につけます。</p> <p>到達目標 口頭での簡単な受け応えができるドイツ語力と、ドイツ語圏の文化に関する基礎知識を習得する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（復習等）	必要時間	
第1回	ドイツ語のしくみ、アルファベット、発音	大場【講義】	事前にシラバスを確認	20分	
第2回	自己紹介をする(1) / Lektion 1 (一人称・二人称の人称代名詞と動詞の変化)	大場【講義】	資料の復習	30分	
第3回	自己紹介をする(2) / Lektion 2 (不規則動詞の説明)	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第4回	第三者を紹介する / Lektion 2 (三人称の人称代名詞と動詞の変化の説明)	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第5回	場所を尋ねる、道案内をする(1) / Lektion 3 (定冠詞と名詞の「性」の説明)	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第6回	定冠詞、不定冠詞、否定冠詞 / Lektion 4	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第7回	誰のもの? / Lektion 5 (所有冠詞の説明) * Lektion 9とも関係	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第8回	Lektion 5までの復習と応用練習	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第9回	家族・親戚を紹介する / Lektion 6 (名詞の複数形, 形容詞)	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第10回	「～へ行く」の表現と前置詞 / Lektion 7 (分離動詞の説明)	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第11回	「～したい」「～がほしい」の表現 / Lektion 8 (4格をとる前置詞の説明)	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第12回	3格をとる前置詞 / Lektion 9	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第13回	「～できる」「～しなければならない」「～してよい」の表現と助動詞 / Lektion 11	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第14回	四季と時間の表現 / Lektion 12	大場【講義】	資料の復習	1時間	
第15回	Lektion 6～12の復習、筆記試験の説明	大場【講義】	資料の復習	1時間	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見のドイツ語一改訂版『Modelle 1』neu (三修社) ・『アクセス独和辞典』(三修社) <p>*辞書は他の出版社のものでもかまいません</p>				
参考書	なし				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(80%) 小テスト(20%)	筆記試験(ペーパーテスト)は100点満点、2～7回、授業の初めに行う小テスト(ペーパーテスト)は5点満点です。これらの結果を表記のパーセンテージに合わせて換算して成績を出します。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	特になし				

科目名 ナンバリングコード	中国語 FLE1331MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 李 偉				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 中国語学習を通して、中日言語の異同に気づき、言語と文化及び言語と人間の考え方の関連性を考える。</p> <p>2) 協同学習法を導入し、学生間の学び合い、助け合う協同精神を培う。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 中国語の発音、医療実用の簡単な会話を身につける。</p> <p>2) DVD映像資料の鑑賞を通じて中国、中国文化への理解を深める。</p> <p>3) 社会スキルとしての基本的な協同能力を身につける。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	グループ分け、中国語概説、第1課 自己紹介	李偉【講義】	中国語概説の予習	20分	
第2回	第1課 自己紹介 DVD首都北京	李偉【講義】	発音、自己紹介の復習	30分	
第3回	第2課 どうなさいましたか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30分	
第4回	第2課 どうなさいましたか DVD中国の料理	李偉【講義】	症状の言い方の復習	30分	
第5回	第3課 この薬はどう飲みますか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30分	
第6回	第3課 この薬はどう飲みますか DVD中国上海	李偉【講義】	薬の飲み方の復習	30分	
第7回	第4課 病室はどこですか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30分	
第8回	第4課 病室はどこですか DVD中国のお茶	李偉【講義】	存在表現の復習	30分	
第9回	第5課 具合はいかがですか	李偉【講義】	単語、文法の予習	30分	
第10回	第5課 具合はいかがですか DVD中国人の健康法	李偉【講義】	会話の復習	30分	
第11回	第6課 心配いりません	李偉【講義】	単語、文法の予習	30分	
第12回	第6課 心配いりません DVD中国の新年	李偉【講義】	会話の復習	30分	
第13回	第7課 退院おめでとう	李偉【講義】	単語、文法の予習	30分	
第14回	第7課 退院おめでとう DVD古都西安	李偉【講義】	会話の復習	30分	
第15回	課題発表会、まとめ、復習	李偉【講義】	発表予習、全体復習	60分	
テキスト	『協同学習で学ぶ 医療系中国語会話』 李偉・管虹 著 白帝社				
参考書	なし				
成績評価					
方法(割合)	基準				
期末試験(40%)	定期試験問題の点数を40%で評価する。				
小テスト(30%)	Hondana システムの小テスト自動採点、30%で評価する。				
課題・発表(30%)	第15回授業発表会：課題文10%、口頭発表20%合わせて30%で評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートはメールで提出し、採点後にメールで返却する。				

科目名 ナンバリングコード	韓国語 FLE1341MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	外国語教育研究所 准教授 李 熙卿				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 韓国語の文字である「ハングル」を習得し、簡単な挨拶表現、自己紹介、買い物などの日常生活に関する初級レベルのコミュニケーション能力を培うことを目標としている。</p> <p>2) 韓国の日常生活などを学びながら、異文化に対する理解を通じて、多様性を持つ人材の育成を目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>1) ハングル文字を習得する。</p> <p>2) 簡単な自己紹介ができる。</p> <p>3) 日常生活で使われる身近な挨拶表現ができる。</p> <p>4) 韓国の日常生活文化への理解ができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	講義案内、第1課、母音字1	李【講義】	事前にシラバスの確認	各1時間程度	
第2回	第2課 子音字1	李【講義】	当該課の予習・復習		
第3回	第3課、子音字2	李【講義】	当該課の予習・復習		
第4回	字母の復習1	李【講義】	当該課の予習・復習		
第5回	第4課 パッチム	李【講義】	当該課の予習・復習		
第6回	第5課 母音字2	李【講義】	当該課の予習・復習		
第7回	第6課 母音字3	李【講義】	当該課の予習・復習		
第8回	字母の復習2	李【講義】	当該課の予習・復習		
第9回	第7課 自己紹介	李【講義】	当該課の予習・復習		
第10回	第7課 自己紹介	李【講義】	当該課の予習・復習		
第11回	第8課 ショッピング	李【講義】	当該課の予習・復習		
第12回	第8課 ショッピング	李【講義】	当該課の予習・復習		
第13回	第9課 学校	李【講義】	当該課の予習・復習		
第14回	第9課 学校	李【講義】	当該課の予習・復習		
第15回	まとめ	李【講義】	当該課の予習・復習		
テキスト	李熙卿・白仁子 著、『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』、白帝社、2016年				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷明泰 編集、『パスポート朝鮮語小辞典(朝和+和朝)』、白水社 ・小学館 / 韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館 				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(40%)	・筆記試験を実施し、到達目標の達成度を正答率で評価する。				
小テスト(40%)	・小テストは、5回以上を予定しており、各課における到達目標を正答率で評価する。				
授業態度(20%)	・授業へ積極的に参加する姿勢(質問、回答など)をポイント化し、評価する。				
課題(レポート等)	に対するフィードバック		小テストは採点后、返却する。		

科目名 ナンバリングコード	社会学 SOC1100MN2	選択科目	1年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	文学部 特任教授 中西 吉則				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 急激に変動する世界の中での、個人、社会、医療の現状分析。 2) 現状分析から、個人、社会、医療の問題点と解決のための探求。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 広い視点から、人間、人間関係、社会を把握する。 2) 社会データから社会を読み解く。 3) 社会問題について、自ら考え、自分なりの解を出す。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	社会学的視点:「社会」と「健康格差」	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第2回	「社会」と「自死率」・「社会的行為」	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第3回	死生学:「病」と「死」を巡る問題	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第4回	医療の歴史	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第5回	「生命」と「科学」を巡る問題	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第6回	「患者」と「医療者」との関係	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第7回	階層:「富者」と「貧者」の二極化	中西【講義】	配付資料の塾族	1時間	
第8回	「囚人のディレンマ」:秩序と環境問題	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第9回	逸脱:なぜ人は「社会」からはみ出すのか?	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第10回	「インフォーマル集団」:仲間とは!	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第11回	ジェンダーが世界を変える!?	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第12回	家族とは何か?:「結婚」、「誕生」、…「老い」	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第13回	「メディア・ケイタイ」が作り出す世界!	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第14回	グローバル化された世界:我々の運命は!	中西【講義】	配付資料の熟読	1時間	
第15回	まとめ	中西【講義・演習】	既配付資料のまとめ	2時間	
テキスト	随時、資料配付				
参考書	なし				
成績評価					
方法(割合)	基準				
最終レポート(60%) 中間レポート(20%) 受講態度(20%)	到達目標の達成度をレポートの内容で評価する。 課題に対する深い考察をレポートの内容で評価する。 出席回数と積極的な意見・質問を総合的に評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	中間レポート結果は、講義の中で言及する。				

科目名 ナンバリングコード	生活と経済 ECN1100MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	非常勤講師 矢野 生子 (長崎県立大学)				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 国内外の経済の諸問題のあり方とわれわれの日常生活とは密接に関係していることを理解する。</p> <p>2) 現在起こっている様々な経済問題、環境問題などについて自ら考察し、理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 報道されている経済問題について興味を持ち、何が起こっているのかについて理解できるようにする。</p> <p>2) 国内外の経済問題と日常生活は密接に関係していることを理解し、理論的な見解ができるようにする。</p> <p>3) 最低限知っておくべき経済的な常識や制度を理解し、今後の生活に役立てる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	経済学とは何か	矢野【講義】	新聞を読む (毎回読む)	20分	
第2回	生活に必要な経済的基礎知識について	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第3回	市場原理の有効性と限界	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第4回	年金問題I	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第5回	年金問題II	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第6回	日本の経済政策についてI	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第7回	日本の経済政策についてII	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第8回	ふるさと納税について	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第9回	国際経済と日本経済の諸問題について	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第10回	SDGsについて	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第11回	自由貿易と環境問題について	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第12回	援助問題	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第13回	援助問題II	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第14回	貧困の悪循環について	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	20分	
第15回	これまでの総まとめ	矢野【講義】	資料、ノートでの復習	30分	
テキスト	大矢野栄次著;「経済政策の考え方」, 創成社, 2019年 (必要に応じて資料を配布する。)				
参考書	特になし (新聞に毎日1回、目を通すようにしてください。)				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (70%)	授業内容を理解し、その問題に対する自分の見解をきちんと述べていること。その理解度と考察力を評価する。				
出席態度 (30%)	授業に対する姿勢と出席カードの裏面に書くコメント (意見・質問) などをポイント化し、評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	特になし (レポートは原則、課しません。)				

科目名 ナンバリングコード	くらしと法 LAW1101MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	法学部 准教授 藺田 史				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 教養としての法学の基礎を学び、社会生活上のルールの中核となる考え方を身につける。</p> <p>2) 社会生活の中で、法がどのような役割を果たしているかについて学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 国家の統治ルールを定めた日本国憲法の基本的な考え方を身につける。(憲法)</p> <p>2) 市民生活を営む上で、人と人との関係を規律しているルールについて学修する。(民法)</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	憲法(1) 統治機構論①	藺田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40～50分	
第2回	憲法(2) 統治機構論②	藺田【講義】	同上	同上	
第3回	憲法(3) 裁判例の検討	藺田【講義】	憲法(1)(2)の総復習	60分以上	
第4回	憲法(4) 基本的人権①	藺田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40～50分	
第5回	憲法(5) 基本的人権②	藺田【講義】	同上	同上	
第6回	憲法(6) 基本的人権③	藺田【講義】	同上	同上	
第7回	憲法(7) 裁判例の検討	藺田【講義】	憲法(4)～(6)の総復習	60分以上	
第8回	民法(1) 契約法の基礎	藺田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40～50分	
第9回	民法(2) 不法行為法の基礎	藺田【講義】	同上	同上	
第10回	民法(3) 「意思能力」と「行為能力」	藺田【講義】	同上	同上	
第11回	民法(4) 債権債務関係	藺田【講義】	同上	同上	
第12回	民法(5) 親子関係、婚姻関係	藺田【講義】	同上	同上	
第13回	民法(6) 実際の裁判例の検討	藺田【講義】	民法(1)～(5)の総復習	60分以上	
第14回	受講生の興味関心に応じた裁判例の検討	藺田【講義】	配布資料を予め読む	40～50分	
第15回	まとめ	藺田【講義】	学修内容全体を復習	60～90分	
テキスト	松井茂記ほか著『はじめての法律学 [第6版]』(有斐閣アルマ・2020年)				
参考書	小型六法があるとより学修がしやすいと思います(いずれの出版社のものでも結構です)。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
小テスト (70%)	講義後に行い、憲法と民法の基本的な知識を問います。講義内容を理解できたかを確認します。				
レポート (30%)	ミニレポートを課す予定です。評価基準は、「基本的な前提知識を踏まえた上で、自分自身の考え方を論理的に記述できているか」です。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	講義中にレポート課題についての解説を行います。				

科目名 ナンバリングコード	環境科学 ENV1111MN2	選択科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	看護学科 准教授 松本 悠貴				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 環境によるヒト（人間）の健康への影響を理解する。</p> <p>到達目標 1) 種々の環境問題について述べることができる。 2) 今後の環境問題にどのように対処していけばよいかを述べるができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	ガイダンス、スライド作成入門 環境に関するトピックスの調査1 〃 〃 〃 環境に関するトピックスの調査2 〃 〃 〃 〃 環境に関するトピックスの調査3 〃 〃 〃 〃	松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】	予習) 新聞やインターネットの記事で普段から環境に関する問題に触れておくこと。 新しいトピックスに入る前の週にテーマを提示するので、講義開始時までに各自テーマについて予備知識を得て講義に臨むこと。	各学生に必要な時間、勉強してください	
テキスト	無し。必要に応じてプリントを配布。				
参考書	特に無し。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（50%）	筆記試験は講義で取り扱うトピックスについての基本的事項について問う。				
発表会（30%）	環境問題に関連するトピックスについて、少人数グループに分かれてまとめて、発表してもらおう。 グループの人数は科目選択者数によって決定する。				
出席・授業態度（20%）	出席回数と積極的な意見・質問を総合的に評価する。出席回数と積極的な意見・質問を総合的に評価する。				
課題（レポート等）	に対するフィードバック	状況に応じて、レポート課題を行い、成績評価の対象とする。			

科目名 ナンバリングコード	くらしとサイエンス NAT1111MN1	必修科目	1年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部自然科学教室（化学） 教授 東元 祐一郎				
科目担当者	医学部自然科学教室（物理学） 長澤 真樹子、大久保 博 医学部自然科学教室（生物学） 大沼 雅明				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>【物理】 看護の場面で出会う物理現象や医療の中で用いられる機器の物理的な基礎原理を理解する。</p> <p>【化学】 健康と医療に関係する様々な化学物質、薬品、医用材料の性質について理解する。</p> <p>【生物】 「生命」とは何か、すなわち「生きている」とはどのようなことであるか。生命体に共通する特徴について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>各講義の中で示された重要事項について理解できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>【化学1】 水溶液の性質</p> <p>【化学2】 基礎有機化学</p> <p>【化学3】 糖質の化学</p> <p>【化学4】 脂質の化学</p> <p>【化学5】 タンパク質の化学</p> <p>【物理1】 物理量と単位</p> <p>【物理2】 力のつり合い、てこの原理</p> <p>【物理3】 圧力</p> <p>【物理4】 放射線</p> <p>【物理5】 演示実験</p> <p>【生物1】 生命体のつくりとはたらき</p> <p>【生物2】 細胞の増殖とからだのなりたち</p> <p>【生物3】 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ</p> <p>【生物4】 生体維持のエネルギー</p> <p>【生物5】 生殖と発生</p>	<p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>東元【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤【講義】</p> <p>長澤・大久保【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p> <p>大沼【講義】</p>	<p>講義スライド、資料 などを見直し復習を 十分しておくこと</p>	<p>準備学習 をする上 で自分自 身に必要 な時間</p>	
テキスト	随時プリントを配布				
参考書	<p>【物理】 豊岡了編：系統看護学講座 第7版 基礎分野1 物理学、医学書院、2015年</p> <p>【化学】 奈良雅之編：系統看護学講座 第7版 基礎分野 化学、医学書院、2018年</p> <p>【生物】 高橋雅一編：系統看護学講座 第10版 基礎分野 生物学、医学書院 2019年</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
定期試験（80%） 受講態度（20%）	<p>各分野（物理、化学、生物）別に試験を実施する。全分野とも60点以上を合格とし、60点未満の分野については再試験を実施する。</p> <p>提出物の努力度を評価する（物理）。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題掲示の際に説明する。				

科目名 ナンバリングコード	人間工学 NUS1112MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	非常勤講師 松尾 重明 (久留米工業大学)				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>ヒトが行動する際には、機械が動くことと同じく重力やモーメントなど力学的要素が働いている。看護動作においてもこれを無視することはできない。</p> <p>1) 力学的な考察をできるようにする。</p> <p>2) 看護作業の効率化及び負荷低減の技術を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 看護現場において、看護側および看護される側の負担軽減をイメージ可能となる。</p> <p>2) 基本動作における動作や看護援助動作を解析および考察を行えるようにする。</p> <p>3) 看護作業の効率化および負荷低減の知識を身につける。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	概要説明	松尾【講義】	シラバスの確認	15分	
第2回	人間工学とは	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第3回	ヒューマンエラーと事故	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第4回	単位について	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第5回	看護動作における力学 (1)	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第6回	看護動作における力学 (2)	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第7回	看護業務と生体への負荷I	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第8回	看護業務と生体への負荷II	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第9回	現代の研究紹介 (1)	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第10回	現代の研究紹介 (2)	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第11回	現代の研究紹介 (3)	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第12回	これからの看護 (1)	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第13回	これからの看護 (2)	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第14回	将来の看護現場	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
第15回	国家資格過去問題紹介	松尾【講義】	プリント復習	1時間	
テキスト	自作プリント 毎回配布する。				
参考書	なし				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%)	達成目標の達成度を正答率で評価する。				
受講態度 (10%)	授業へ積極的に参加する姿勢から評価する。				
レポート (10%)	課題において、的確に調査および考察していること。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポート課題の場合、採点后返却する。				

科目名 ナンバリングコード	情報学 IFS1111MN1	必修科目	1年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学教育研究センター 准教授 柏木 孝仁				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 看護学を学ぶ上で必須なICT (Information & Communication Technology) 能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 広範囲に渡る情報学 (ICT を含む) の基礎が理解できる。 2) コンピュータによる、情報収集、文書作成、データ処理、画像処理等ができる。 3) コンピュータ社会における倫理的問題 (情報倫理) が理解でき、対応できる。 4) プログラミングを通じて、論理 (ロジック) に基づくプログラミング的思考を学ぶ。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	ガイダンス・情報リテラシー 情報倫理・情報検索1 情報倫理・情報検索2 情報検索3 (学術・文献検索) 文章作成1 (WORD) 文章作成2・表計算1 (EXCEL) 表計算2 (EXCEL の応用) 表計算3 (EXCEL の応用) 画像処理1 (ペイント系) 画像処理2 (ドロー系) 画像処理3 (PowerPoint) プログラミング1 (HTML と PHP) プログラミング2 (HTML と PHP) 情報発信力1 (SNS) 情報発信力2 (情報の総合力)	柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】 柏木【講義・演習】	復習を中心に して、適宜準備学習を充分 に行うこと。必要な準備学習 や復習については、Hondana に掲載する。	予習20分、復習は課題に応じて適時必要な時間が変わる。	
テキスト	必要な資料は適時提示する。必要に応じて Hondana にも提示する。				
参考書	特になし。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
課題 (100%)	課題 (ソフトウェアの機能操作などの演習を含む) に対する到達度を点数化し、評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題の内容によって異なるため、課題提示の際に説明し Hondana を通じて適時フィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	統計・推計学 STS1112MN1	必修科目	1年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	病院経営室 准教授 宮本 貴宣				
教育目標 到達目標	教育目標 科学的根拠に基づく看護学を实践する上で不可欠な統計・推計学の基礎知識を学習する。 到達目標 科学的視点でデータを見ることができる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	母集団とサンプル、確率分布、データの表現	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第2回	仮説検定の考え方	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第3回	コンピュータを用いた統計解析1	宮本【演習】	演習の復習	1時間	
第4回	母平均の検定と推定	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第5回	2つの母平均の差の検定	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第6回	分散分析 ミニテスト1	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第7回	コンピュータを用いた統計解析2	宮本【演習】	演習の復習	1時間	
第8回	母比率の検定と推定	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第9回	2つの母比率の差の検定	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第10回	分割表の独立性の検定、適合度の検定 ミニテスト2	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第11回	コンピュータを用いた統計解析3	宮本【演習】	資料の復習	1時間	
第12回	ノンパラメトリック検定	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第13回	相関と回帰	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第14回	研究デザイン、交絡因子 ミニテスト3	宮本【講義】	資料の復習	1時間	
第15回	コンピュータを用いた統計解析4	宮本【演習】	演習の復習	1時間	
テキスト	なし(資料配布)				
参考書	柳川堯 他 「看護・リハビリ・福祉のための統計学」近代科学社				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(100%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	ミニテストを採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能I (ホメオスタシス/筋・骨格系/ 脳・神経系/循環器系/血液) BMS111MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 中村 悠 医学部生理学講座 鷹野 誠、村井 恵良、中島 明子、中島 則行 先端イメージング研究センター 太田 啓介				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>適切な看護活動を行うためには、患者さんや家族の訴え・問題点を的確にとらえることが大切である。また、チーム医療の一員として「病気や怪我をしたヒトではどんな問題が起こり、それに対してどのような治療や看護がなされるか」を理解して行動することが求められる。</p> <p>そのための基礎として、本科目では正常なからだの構造と機能について学ぶ。さらに知識を実践・活用するため、「個体・各臓器・細胞の各レベルで学ぶ構造と機能」をバラバラの知識として暗記するのではなく、身体で起こる現象にそれらの知識がお互いどのように関連しているのか理解し、知識を統合する力を培うことを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 正常な身体はどのような形態・構造を有し、どのように働いているか、概略をつかむ。 2) 各臓器が適切に働くために、細胞・臓器レベルでどのような仕組み（形態・構造・機能）が備わっているかを理解する。 <p>特に「からだの構造と機能I」では、ヒトの日常生活動作に関わる身体の仕組みと、各臓器に酸素やエネルギー等を供給する循環系について学ぶ。</p> <p>※本講義では、解剖学の講師が主に形態・構造を、生理学の講師が主に機能を担当する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	(構造系) 総論：この科目を学ぶ意義、からだの構造学の歴史 からだ各部の基本I	嵯峨【講義】	本科目で学ぶことは、自分自身のからだがいかに 巧妙な仕組みで成り立っているかを知ること に他ならない。「自分を知る」という観点を加えると、からだの構造と機能が楽しく学べるでしょう。上記のことを念頭に、予習・復習を心がけてください。	各 1 時間	
第 2 回	(構造系) 組織・細胞学総論：生命の最小単位「細胞」とカラダの構築	太田【講義】			
第 3 回	(構造系) 組織・細胞学総論：組織とは	太田【講義】			
第 4 回	(構造系) 総論：この科目を学ぶ意義、からだの構造学の歴史 からだ各部の基本II	嵯峨【講義】			
第 5 回	(機能系) からだの機能総論：生きているとは？	村井【講義】			
第 6 回	(機能系) 血液の機能I：血漿の組成と各成分の働き	村井【講義】			
第 7 回	(機能系) 血液の機能II：血漿の成分と各成分の働き	村井【講義】			
第 8 回	(構造系) 骨格系の構造I：骨の基本構造	嵯峨【講義】			
第 9 回	(構造系) 骨格系の構造II：各骨の位置と名称	嵯峨【講義】			
第 10 回	(機能系) 神経系の機能I：末梢からの感覚入力の仕組み	中島【講義】			
第 11 回	(構造系) 筋系の構造I：筋の構造とおもな名称	嵯峨【講義】			
第 12 回	(機能系) 神経系の機能II：中枢からの出力の仕組み	中島【講義】			
第 13 回	(構造系) 筋系の構造II：各筋の位置と作用	嵯峨【講義】			
第 14 回	(機能系) 神経系の機能III：脳の機能分担	中島【講義】			
第 15 回	(構造系) 循環器系の構造I：全身に血液を送り出すポンプ(心臓)の構造	嵯峨【講義】			
第 16 回	(機能系) 神経系の機能IV：神経回路の役割	中島【講義】			
第 17 回	(構造系) 神経系の構造I：神経系概説/中枢と末梢・運動と知覚・体性と臓性	中村【講義】			
第 18 回	(構造系) 循環器系の構造II：心臓から全身に血液を運搬する血管(動脈)の構造	嵯峨【講義】			
第 19 回	(構造系) 神経系の構造II：神経組織の細胞構築	中村【講義】			

第20回	(構造系) 神経系の構造Ⅲ:運動のコントロール/末梢神経系・自律神経系	中村【講義】		
第21回	(構造系) 循環器系の構造Ⅲ:全身から心臓へ血液を運搬する血管(静脈)の構造	嵯峨【講義】		
第22回	(機能系) 骨格筋の機能:筋の収縮	鷹野【講義】	第7章H	
第23回	(機能系) 体温を維持する仕組み	村井【講義】		
第24回	(構造系) 神経系の構造Ⅳ:感覚器/視る・聴く	嵯峨【講義】		
第25回	(機能系) 循環器系の機能Ⅰ:心臓の興奮とその伝播/心電図	鷹野【講義】	第4章C	
第26回	(構造系) 循環器系の構造Ⅳ:リンパ球やリンパ液を運ぶ管の構造	嵯峨【講義】		
第27回	(機能系) 循環器系の機能Ⅱ:心電図/心臓の収縮	鷹野【講義】	第4章C	
第28回	(構造系) 神経系の構造Ⅴ:感覚器/嗅ぐ・味わう・触れる	嵯峨【講義】		
第29回	(機能系) 循環器系の機能Ⅲ:血液の循環の調節	鷹野【講義】	第4章F	
第30回	(機能系) 循環器系の機能Ⅳ:循環器系の病態生理	鷹野【講義】	第4章F	
第31回	(構造系) 神経系の構造Ⅵ:感覚器、脳神経まとめ	嵯峨【講義】		
テキスト	坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院			
参考書	藤本淳監修「ビジュアル解剖生理学」ヌーヴェルヒロカワ 佐伯由香、細谷安彦、高橋研一、桑木共之編訳「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能」原書10版 丸善			
成績評価				
方法(割合)	基準			
定期試験(100%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。			
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートは評価後、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅱ (呼吸器系/消化器系/泌尿器系/内分泌系) BMS1112MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 嶋 雄一 医学部生理学講座 鷹野 誠、村井 恵良				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>適切な看護活動を行うためには、患者さんや家族の訴え・問題点を的確にとらえることが大切である。また、チーム医療の一員として「病気や怪我をしたヒトではどんな問題が起こり、それに対してどのような治療や看護がなされるか」を理解して行動することが求められる。</p> <p>そのための基礎として、本科目では正常なからだの構造と機能について学ぶ。さらに知識を実践・活用するため、学生が「個体・各臓器・細胞の各レベルで学ぶ構造と機能」をバラバラの知識として暗記するのではなく、身体で起こる現象にそれらの知識がお互いどのように関連しているのか理解し、知識を統合する力を培うことを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 正常な身体はどのような形態・構造を有し、どのように働いているか、概略をつかむ。</p> <p>2) 各臓器が適切に働くために、細胞・臓器レベルでどのような仕組み(形態・構造・機能)が備わっているかを理解する。</p> <p>特に「からだの構造と機能Ⅱ」では、ヒトの個体維持・種族維持を可能にする身体の仕組みについて学び、日常では意識せずに行われている生活行動により生命の維持がなされていることを理解する。</p> <p>※本講義では、解剖学の講師が主に形態・構造を、生理学の講師が主に機能を担当する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	(構造系) 呼吸器系の構造Ⅰ: 呼吸のための器官の構造 上気道	嵯峨【講義】	第 2 章 A 第 2 章 A,B 第 2 章 B 第 2 章 B	各 1 時間	
第 2 回	(機能系) 呼吸器系の機能Ⅰ: 呼吸とは何か	村井【講義】			
第 3 回	(構造系) 呼吸器系の構造Ⅱ: 呼吸のための器官の構造 下気道	嵯峨【講義】			
第 4 回	(機能系) 呼吸器系の機能Ⅱ: 換気(呼吸運動)の仕組み	村井【講義】			
第 5 回	(機能系) 呼吸器系の機能Ⅲ: 呼吸数と深さを変える仕組み	村井【講義】			
第 6 回	(構造系) 泌尿器系の構造Ⅰ: 排泄のための器官 尿を作る構造	嵯峨【講義】			
第 7 回	(機能系) 泌尿器系の機能Ⅰ: 腎臓の働きと尿の生成	村井【講義】			
第 8 回	(構造系) 泌尿器系の構造Ⅱ: 排泄のための器官 尿を運ぶ	嵯峨【講義】			
第 9 回	(構造系) 消化器系の構造Ⅰ: 食物を取り入れる構造	嵯峨【講義】			
第 10 回	(機能系) 泌尿器系の機能Ⅱ: 尿を排泄する仕組み	村井【講義】			
第 11 回	(機能系) 消化器系の機能Ⅰ: 食物の摂取	鷹野【講義】			
第 12 回	(機能系) 消化器系の機能Ⅱ: 食物の消化	鷹野【講義】			
第 13 回	(機能系) 消化器系の機能Ⅲ: 栄養素の吸収	鷹野【講義】			
第 14 回	(機能系) 消化器系の機能Ⅳ: 消化管の運動と排便	鷹野【講義】			
第 15 回	(構造系) 消化器系の構造Ⅱ: 食物の咀嚼と嚥下の構造	嵯峨【講義】			
第 16 回	(構造系) 消化器系の構造Ⅲ: 消化・吸収の場の構造	嵯峨【講義】			
第 17 回	(構造系) 生殖器系の構造Ⅰ: 種族維持のための構築・男	嶋【講義】			
第 18 回	(構造系) 消化器系の構造Ⅳ: 栄養の吸収と運搬の構造	嵯峨【講義】			
第 19 回	(構造系) 生殖器系の構造Ⅱ: 種族維持のための構築・女	嶋【講義】			
第 20 回	(構造系) 内分泌系の構造Ⅰ: ホルモンをつくる器官の構造	嵯峨【講義】			
第 21 回	(構造系) 生殖器系の構造Ⅲ: 個体の形成: 受精から個体へ	嶋【講義】			
第 22 回	(構造系) 内分泌系の構造Ⅱ: ホルモンをつくる組織の構造	嵯峨【講義】			
第 23 回	(構造系) 内分泌系の構造Ⅲ: ホルモンをつくる細胞の構造	嵯峨【講義】			
第 24 回	(機能系) 内分泌系の機能Ⅰ: ホルモンによる身体機能の調節	村井【講義】			

第25回	(機能系) 内分泌系の機能Ⅱ：血糖値を維持する仕組みなど	村井【講義】	<p>本科目で学ぶことは、自分自身のからだがいかに巧妙な仕組みで成り立っているかを知ることには他ならない。「自分を知る」という観点を加えると、からだの構造と機能が楽しく学べるでしょう。上記のことを念頭に、予習・復習を心がけてください。</p>
第26回	(機能系) 内分泌系の機能Ⅲ：性ホルモンの作用	村井【講義】	
第27回	(機能系) 体液の組成を維持する仕組み	村井【講義】	
第28回	(機能系) 体液pHを維持する仕組み	村井【講義】	
第29回	(機能系) 体液pH調整の異常	村井【講義】	
第30回	(構造系) 消化器系の構造Ⅴ：消化・吸収の構造のまとめ	嗟峨【講義】	
第31回	(構造系) 総まとめ	嗟峨【講義】	
テキスト	坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院		
参考書	藤本淳監修「ビジュアル解剖生理学」ヌーヴェルヒロカワ 佐伯由香、細谷安彦、高橋研一、桑木共之編訳「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能」原書 10 版 丸善		
成績評価			
方法 (割合)	基準		
定期試験 (100%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。		
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは評価後、返却する。		

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅲ BMS2416MN3	必修科目	2 年次 1 学期	実習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 田平 陽子、范 綾				
教育目標 到達目標	<p>教育目標：</p> <p>1) 系統解剖学実習（医学科 2 年生実施）の見学を中心に、人体全体や臓器および組織を観察し、人体の成り立ちを学ぶ実習を実施することにより、これまでに学んだ知識を統合する。</p> <p>2) 御献体を通じて、死および生命の尊厳を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 人体の構造と機能を総合的に学習する。</p> <p>2) 死および生命の尊厳を深く理解し、看護の倫理へと結びつける。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	系統解剖学実習 ガイダンス： 系統解剖学実習とは、献体とは、 見学諸注意、レポートについて	嵯峨【実習】	<p>実習見学前に 1 年生で学んだことを復習し、ガイダンスで説明する見学範囲の予習をしっかりと行うこと。また、御献体の意義や献体される篤志家の方々およびご遺族のお気持ちをしっかりと理解した上で、実習に臨んで欲しい。さらに、実習や慰霊祭に際しては、久留米大学の学生として、又、実習を行っている学生として献体された方やご遺族に対して失礼のないように服装や髪型等をきちんと整えた上で、言葉遣いにも留意して欲しい。</p>	各 4 ～ 5 時間	
第 2 回	見学Ⅰ 体幹背面の観察(皮膚から浅背筋層)	嵯峨・田平・范【実習】			
第 3 回	見学Ⅰ 体幹背面の観察(深背筋層)	嵯峨・田平・范【実習】			
第 4 回	見学Ⅱ 頸胸腹部深層の観察	嵯峨・田平・范【実習】			
第 5 回	見学Ⅱ 胸腹部内臓全体像の観察	嵯峨・田平・范【実習】			
第 6 回	見学Ⅲ 胸腹部内臓 各臓器の観察1	嵯峨・田平・范【実習】			
第 7 回	見学Ⅲ 胸腹部内臓 各臓器の観察2	嵯峨・田平・范【実習】			
	*解剖体慰霊祭：5 月 23 日午後大学にて全員参加				
第 8 回	見学Ⅳ 各臓器の観察3	嵯峨・田平・范【実習】			
第 9 回	見学Ⅳ 各臓器の観察4	嵯峨・田平・范【実習】			
第 10 回	見学Ⅴ 上下肢の観察	嵯峨・田平・范【実習】			
第 11 回	見学Ⅴ 骨盤内の観察	嵯峨・田平・范【実習】			
第 12 回	見学Ⅵ 納棺	嵯峨・田平・范【実習】			
第 13 回	見学Ⅵ 骨学実習	嵯峨【実習】			
第 14 回	見学Ⅶ 脳、脊髄(中枢神経系)の観察	嵯峨【実習】			
第 15 回	見学Ⅶ 眼球、内頭蓋底の観察	嵯峨【実習】			
テキスト	(からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト) 坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院				
参考書	藤本淳監修「ビジュアル解剖生理学」ヌーヴェルヒロカワ 佐伯由香、黒澤美枝子、細谷安彦、高橋研一、桑木共之編訳「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能」原書 10 版 丸善				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (40%) レポート (40%) 実習態度 (20%)	<p>筆記は、実習を中心とした知識の取得、整理がなされていることを評価する。</p> <p>レポートは、形成的評価とする。</p> <p>実習態度は、マナーや身繕いの状態、実習への積極的な取り組みを評価する。</p>				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは、評価後返却する。				

科目名 ナンバリングコード	からだの代謝 BMS1113MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	医学部医化学講座 講師 原田 二郎				
科目担当者	医学部医化学講座 塚口 舞				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 本講義の分野である生化学を学ぶことによって、今後他の科目や実務で出会うことになる各疾病には正常に機能していない反応がどこかにあり、その為に行う治療や投薬、食事がどのように反応を幫助するのか考えるようになること。</p> <p>到達目標 三大栄養素、糖質・脂質・タンパク質を中心とした代謝系を理解する。また、それらの相互相関、そして関係する疾患についても説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	生化学を学ぶための基礎知識 代謝の基礎と酵素・補酵素 糖質の構造と機能 糖質代謝 脂質の構造と機能 脂質代謝 タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝 ポルフィリン代謝と異物代謝 遺伝子と核酸 遺伝子の複製・修復・組換え 転写 翻訳と翻訳後修飾 シグナル伝達 がん	塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】	予習：テキストを読む 復習：配布資料を見返す	復習/ 予習 各10分	
テキスト	著：畠山 鎮次 <系統看護学講座 専門基礎分野>人体の構造と機能 [2] 生化学 第14版 医学書院				
参考書	野口 正人 他 編集 「シンプル生化学 改訂第7版」 南江堂				
成績評価					
方法(割合)	基準				
定期試験(100%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
課題(レポート等)	に対するフィードバック		状況に応じて、レポート課題を行い、成績評価の対象とする。		

科目名 ナンバリングコード	こころの生涯発達 NUS1171MN1	必修科目	1年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>生涯にわたるこころの発達に関わる理論を学習し、こころの健康と健康障害について理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ライフサイクル各期のこころの発達課題・発達危機・人格的活力について説明できる。 2) 精神の健康の概念について説明できる。 3) 精神障害について、医学モデル・精神分析モデル・危機モデルを用いて説明できる 4) 諸外国・日本における精神医療の歴史について理解する。 5) 精神・心身の健康障害と人間の反応について説明できる。 6) 回復（リカバリー）に必要な要因を述べることができる。 7) 現代社会におけるこころの問題の現状について調査し、対策について考察できる。 8) 精神保健医療福祉制度を理解し、多様な場におけるメンタルヘルスケアを理解する。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10・11回 第12回 第13回 第14・15回	<p>ライフサイクルと周産期の問題</p> <p>幼児期のこころの発達①</p> <p>幼児期のこころの発達②</p> <p>学童期のこころの発達</p> <p>思春期・青年期のこころの発達</p> <p>成人前期・中期のこころの発達</p> <p>成熟期・老年期のこころの発達</p> <p>精神保健医療福祉の歴史の変遷</p> <p>こころの機能(医学モデル・精神分析モデル)</p> <p>こころの健康と障害</p> <p>危機介入</p> <p>特別講義</p> <p>社会問題を読み解く</p>	<p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>福浦【講義】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>舞弓【演習】</p> <p>舞弓【講義】</p> <p>特別講義講師【講義】</p> <p>福浦・舞弓・松島【演習】</p>	<p>予習：教科書を読む</p> <p>復習：前回の内容をノートにまとめておく。また、グループに各発達期で生じる社会問題のレポートを課す。</p>	各回 30分	
テキスト	1) 服部祥子著：生涯人間発達論第3版 医学書院 2020				
参考書	<p>1) 永田雅子編著：妊娠・出産・子育てをめぐるこころのケア 別冊発達32 ミネルヴァ書房 2016</p> <p>2) 青木省三著：思春期の心の臨床 金剛出版 2003</p> <p>3) 日本語版作成兵庫こころのケアセンター：サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第2版</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） レポート（10%）	筆記試験（90点）の得点と、グループワークでのレポート内容・発表の得点を合計した得点を算出する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	第13・14回でレポート課題を発表し、質疑応答する。				

科目名 ナンバリングコード	家族社会学 SOC1126MN2	選択科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	非常勤講師 藤田 智子 (九州大学)				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>本授業では、家族研究の基礎概念、代表的な理論やアプローチなどを学ぶとともに、家族に関わる具体的な問題について社会学やジェンダー論の視点から考察する。近代社会における家族をめぐる事象を取り上げ、その事象の背景にある社会構造を理解することで、われわれが「あたりまえ」とみなしている家族のあり方を相対化し、家族に関わる「問題」がいかにか社会的、文化的、経済的、政治的背景の中で構築されるのかを批判的に考察する力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>家族研究の基礎概念や理論を理解する。近代社会における家族をめぐる「問題」の原因や背景を社会学やジェンダー論の観点から理解し、それを解決するための方策を考察する（必要に応じてリアクションペーパーを書くことを含むアクティビティを行う）。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	近代社会における家族	藤田【講義】	初回についてはシラバスを読んでくる。第2回以降は、毎回配布される資料を読み返し、授業内容を復習し、試験に備える。	60分	
第2・3回	家族とジェンダー:「クレイマー・クレイマー」を例に(2回連続)	藤田【講義】		60分	
第4回	家族とセクシュアリティ	藤田【講義】		60分	
第5回	制度と家族①:結婚と多様化するパートナーシップ	藤田【講義】		60分	
第6回	制度と家族②:貧困と家族に対する福祉	藤田【講義】		60分	
第7回	労働と家族:家庭の「内」「外」の労働	藤田【講義】		60分	
第8回	生殖と育児①:近代における出産の医療化	藤田【講義】		60分	
第9回	生殖と育児②:「不妊」と生殖ツーリズム	藤田【講義】		60分	
第10回	生殖と育児③:母親になる／であるということ	藤田【講義】		60分	
第11回	生殖と育児④:少子化は「問題」か	藤田【講義】		60分	
第12回	家族と暴力①:児童虐待を考える	藤田【講義】		60分	
第13回	家族と暴力②:DVを考える	藤田【講義】		60分	
第14回	看護職にとっての「家族」	藤田【講義】		60分	
第15回	まとめ	藤田【講義】		60分	
テキスト	なし。毎回、講義用資料を配布する。				
参考書	落合恵美子『21世紀家族【第4版】』有斐閣、2019年／岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年／永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年／三隅一人・高野和良編著『ジレンマの社会学』ミネルヴァ書房、2020年				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(80%) 受講態度(20%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 リアクションペーパーをもとに授業へ積極的に参加する姿勢を評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	社会福祉と社会保障 SWS2110MN3	必修科目	2年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	文学部 教授 片岡 靖子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>今日の国民生活において生存権の実現を目指す社会福祉・社会保障は、欠かすことのできない社会制度である。この制度の理念・体系・歴史を理解し、社会福祉・社会保障の枠組みを明らかにする。また、近年の動向として介護保険制度や障害者総合支援法、年金・医療制度などの現状と課題、政策動向を総合的に検討する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 社会保障制度の理念・体系・歴史を理解する。 2) 各制度の現状を理解し、課題や政策動向について述べることができる。 3) 生活を支える社会保障制度の全体像を理解する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	社会保障制度	片岡【講義】	第1章Aを読む。	30分	
第2回	社会福祉の法制度	片岡【講義】	第1章Bを読む。	30分	
第3回	現代社会の変化	片岡【講義】	第2章Aを読む。	30分	
第4回	社会保障・社会福祉の動向	片岡【講義】	第2章Bを読む。	30分	
第5回	医療保障制度の沿革 / 医療保障制度の構造と体系	片岡【講義】	第3章AとBを読む。	30分	
第6回	健康保険と国民保険	片岡【講義】	第3章Cを読む。	30分	
第7回	高齢者医療制度	片岡【講義】	第3章Dを読む。	30分	
第8回	保険診療のしくみ / 公費負担医療 / 国民医療費	片岡【講義】	第3章EとFとGを読む。	30分	
第9回	介護保障	片岡【講義】	第4章を読む。	30分	
第10回	所得保障	片岡【講義】	第5章を読む。	30分	
第11回	公的扶助	片岡【講義】	第6章を読む。	30分	
第12回	高齢者福祉 / 障害者福祉	片岡【講義】	第7章AとBを読む。	30分	
第13回	児童家庭福祉	片岡【講義】	第7章Cを読む。	30分	
第14回	社会福祉援助とは	片岡【講義】	第8章A～Eを読む。	30分	
第15回	社会福祉実践と医療・看護の連携(まとめ)	片岡【講義】	第8章F～Hを読む。	30分	
テキスト	福田素生編(2022)『健康支援と社会保障制度(3) 社会保障・社会福祉』医学書院。				
参考書	『社会福祉六法』関係法規集を所持しているものは、講義に持参する。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(80%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
授業出席及び受講態度(20%)	講義への積極的な参加姿勢などを評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	課題レポートへのフィードバックを行う。				

科目名 ナンバリングコード	微生物と感染 BMS1415MN1	必修科目	1年次 2学期	講義・実習	1単位
科目責任者	医学部感染制御学講座 教授 渡邊 浩				
科目担当者	医学部感染医学講座基礎感染医学部門 小椋 義俊、山本 武司、奥野 未来、坂本 透 医学部感染医学講座真核微生物学部門 井上 雅広 医学部感染制御学講座 原 好勇、岩橋 潤 医学部医学教育研究センター 柏木 孝仁 非常勤講師 濱田 信之				
教育目標 到達目標	教育目標 感染症に関する基礎的理解を深め、感染症患者への対処法を習得する。 到達目標 1) 感染症の疾患名とその病原体について説明できる。 2) 各種病原体の感染経路、伝播様式、予防・治療法、消毒法、検査法について説明できる。 3) 感染防御法を実践できる。 4) 病原体の侵入に対する生体の防御機構について説明できる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	微生物の病原性 海外旅行関連の感染症と感染経路および予防 院内感染の感染経路、伝播様式の理解および感染防御法 ウイルスの性状 ウイルスの滅菌・消毒法 ウイルス感染症の診断法1 (抗原検査) ウイルス感染症の診断法2 (抗体検査) ウイルスの病原性1 ウイルスの病原性2 細菌の性質 感染防御機構と化学療法 臨床で遭遇する細菌感染症 細菌のコロニー、形態を理解する (1) 細菌のコロニー、形態を理解する (2) 蠕虫および原虫疾患	渡邊【講義】 渡邊【講義】 渡邊【講義】 渡邊・原・岩橋・柏木・濱田・坂本【実習】 渡邊・原・岩橋・柏木・濱田・坂本【実習】 渡邊・原・岩橋・柏木・濱田・坂本【実習】 原【講義】 柏木【講義】 小椋【講義】 山本【講義】 奥野【講義】 小椋・山本・奥野【実習】 小椋・山本・奥野【実習】 井上【講義】	教科書および 実習書を予め 読んでおく。	適時 (教科書の該当ページを全て読むのに必要な時間)	
テキスト	系統看護学講座 微生物学 (医学書院)				
参考書	微生物学実習書 (久留米大学医学部感染制御学講座編 2022年度版) (前もって配布)				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (90%) 出席率 (10%)	筆記試験は一定の正答率をクリアしているかを基準とする。なお筆記試験には実習レポートの評価も含める (結果を正確にまとめ考察を行っているかを基準とする)。出席率は一定の出席率を満たしているかを基準とする。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	免疫 BMS1117MN3	必修科目	2年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	医学部免疫学講座 教授 溝口 充志				
科目担当者	医学部免疫学講座 溝口 恵美子、小松 誠和、岡田 季之				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 免疫の基本概念について理解する。 2) 免疫と疾患との関連性について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 自然免疫を構成する細胞群とその働きについて説明できる。 2) 獲得免疫系を構成する細胞群とその働きについて説明できる。 3) サイトカインや免疫グロブリン・補体の働きについて説明できる。 4) 免疫と疾患（アレルギー・免疫不全症・自己免疫疾患・移植・腫瘍など）との関連性について説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	1章. 自己認識の必要性	溝口充【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第2回	2章. 抗原とレセプター 3章. 感染に対するバリアー 4章. 自然免疫系を構成する細胞群	小松【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第3回	5章. 自然免疫の働き	小松【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第4回	6章. 獲得免疫に関与する分子 7章. 細胞と臓器	小松【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第5回	8章. 免疫多様性の形成：リンパ球抗原レセプター	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第6回	9章. リンパ球の分化 10章. リンパ球の活性化	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第7回	11章. リンパ球の機能 12章. 獲得免疫応答の制御	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第8回	13章. 健康の維持：自然免疫と獲得免疫による健康管理	溝口恵【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第9回	14章. 過敏反応	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第10回	15章. 免疫不全	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第11回	16章. 自己免疫	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第12回	17章. 移植	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第13回	18章. 免疫薬物治療	岡田【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第14回	19章. 腫瘍免疫	小松【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
第15回	20章. 免疫機能の測定	小松【講義】	講義プリントを復習する。	30分	
テキスト	リップスコットシリーズイラストレイテッド免疫学原書2版、矢田純一 / 高橋秀実監訳、丸善株式会社				
参考書	ジェンウェイ免疫生物学原書第9版、笹月健彦・吉開泰信監訳、南江堂				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験 （90%） 受講態度 （10%）	<p>到達目標の達成度を正答率で評価する。</p> <p>授業へ積極的に参加する姿勢などをポイント化して評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題を課す予定はない。				

科目名 ナンバリングコード	疫学 SBM2111MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 公衆衛生活動を行うために必要な疫学的思考、知識、技能の基本を学ぶ。</p> <p>2) 臨床場面や保健政策で活用できる疫学手法を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 看護で求められる疫学的な考え方ができる。</p> <p>2) 疫学研究の立案、実行、データ集約と解析、結果の理解ができる。</p> <p>3) 看護研究で求められる疫学研究手法を適切に活用できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	疫学とは何か、疾病の発生原因解明の追求までの流れとその関連事項	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第2回	疫学で用いられる指標—頻度の測定	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第3回	疫学で用いられる指標—頻度の比較	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第4回	疫学研究を始める前に	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第5回	記述疫学、分析疫学—生態学的研究と横断研究	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第6回	分析疫学—症例対照研究	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第7回	分析疫学—コホート研究	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第8回	介入研究	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第9回	バイアスと交絡、因果関係	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第10回	スクリーニング	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第11回	システマティックレビュー、情報収集方法、情報処理	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第12回	疫学で用いられる統計学的方法とその解釈	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第13回	生命表・平均寿命、保健統計調査、診療関連データベース	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第14回	疫学研究と倫理	松本【講義】	テキスト当該部分の予習	1時間30分	
第15回	全体のまとめ	松本【講義】	授業1-14回までの復習	5時間	
テキスト	日本疫学会監修「はじめて学ぶやさしい疫学」日本疫学会標準テキスト 改訂第3版（南江堂） 講義時に配布する資料				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を正答割合で評価する。 受講態度を総合的に評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題を課す予定はない。				

科目名 ナンバリングコード	病理学 BMS2114MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部病理学講座 教授 矢野 博久				
科目担当者	医学部病理学講座 大島 孝一、中山 正道、真田 咲子、三好 寛明、矢野 雄太、三原 勇太郎 大学病院病理部 秋葉 純、古田 拓也				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>病理学は病気の原因・本質を解明する学問である。病気による組織の形態的变化を理解するとともに、最新の細胞生物学、免疫学的な知識の融合を図り、病気の原因・本質を理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な疾患の分類とその中に含まれる疾患の概念・定義を理論的に確実に説明できる。 2) 疾患あるいは病的現象に関して、適切な医学用語を使用し説明できる。 3) 主要な疾患の成因や、疾患によってもたらされる臓器の形態的・機能的変化を正常状態と比較し説明できる。 4) 疾患の大きなカテゴリーと臓器の組み合わせによって、個別の疾患を系統的に理解するための礎を築く。 5) 病理検査の内容について説明できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	序論・病因と疾病の分類、奇形・遺伝性疾患	真田【講義】	予習： 毎回、該当する内容に関してテキストを熟読し、分からない用語などは事前に自分で調べておくこと。 復習： 講義での説明や配布資料を見直し、文献などを用いながら理解を深める。	30 分	
第 2 回	代謝障害 (1)	古田【講義】		30 分	
第 3 回	代謝障害 (2)	古田【講義】		30 分	
第 4 回	進行性病変	秋葉【講義】		30 分	
第 5 回	循環障害 (1)	三好【講義】		30 分	
第 6 回	循環障害 (2)	三好【講義】		30 分	
第 7 回	炎症 (1)	大島【講義】		30 分	
第 8 回	炎症 (2)	大島【講義】		30 分	
第 9 回	免疫	中山【講義】		30 分	
第 10 回	感染症 (1)	矢野(雄)【講義】		30 分	
第 11 回	感染症 (2)	矢野(雄)【講義】		30 分	
第 12 回	腫瘍 (1)	矢野【講義】		30 分	
第 13 回	腫瘍 (2)	矢野【講義】		30 分	
第 14 回	全身性疾患	三原【講義】		30 分	
第 15 回	病理学的検査と病理診断	秋葉【講義】		30 分	
テキスト	主教本：岩田隆子、恒吉正澄、小田義直 編集：「わかりやすい病理学」改訂第 7 版 南江堂 2021 年				
参考書	副教本：竹田津文俊 著：「病態生理 基礎のキソ」第 2 版 学研メディカル秀潤社 2013 年 詳しく調べる：標準病理学（医学書院）、エッセンシャル病理学、解明病理学（医歯薬出版）→医学図書館にある 基礎事項を復習、整理する：看護学生用問題集→自分のレベルにあつて、解説が詳しいものを探す 英単語教本：岡田一義 編：「医学英語ハンドブック」改訂第 2 版 東京医学社				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。				
課題（レポート等）	に対するフィードバック				

科目名 ナンバリングコード	症候学 CLM1111MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	医学部看護学科 原 頼子、古村 美津代、崎浜 智子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 医療現場において遭遇する主要な症状について、その前兆から発症に至るまでのメカニズムについて系統的に学ぶ。</p> <p>2) 自覚症状や徴候から観察の視点とメカニズムとの関連を理解し、症状への看護を考える。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 解剖・生理学、病理学を統合して、症候（自覚症状や徴候）を手がかりに疾患や病態との関連を述べることができる。</p> <p>2) 症候の成り行きについて観察する視点を述べるができる。</p> <p>3) 症候のメカニズムに基づく看護援助の方法を述べるができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	<p>ガイダンス</p> <p>発熱</p> <p>胸痛、動悸</p> <p>発熱、胸痛、動悸に関する看護観察と援助</p> <p>咳嗽、喀痰、胸水</p> <p>呼吸困難、喘鳴</p> <p>呼吸困難に関する看護観察と援助</p> <p>脱水、浮腫、口渇</p> <p>腹水</p> <p>黄疸</p> <p>浮腫、腹水に関する看護観察と援助</p> <p>意識障害、高次脳機能障害</p> <p>嚥下障害、言語障害</p> <p>高次脳機能障害等に関する看護観察と援助</p> <p>貧血、出血傾向</p> <p>チアノーゼ</p> <p>貧血、出血傾向等に関する看護観察と援助</p> <p>けいれん、めまい、睡眠障害</p> <p>悪心、嘔吐、下痢、便秘</p> <p>消化器症状に関する看護観察と援助</p> <p>リンパ節腫脹</p> <p>アレルギー</p> <p>総括</p>	<p>松本・原【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>原【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>原【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>古村【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>原【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本【講義】</p> <p>松本・原【講義】</p>	<p>それぞれの症候がイメージできるように予習を行う。復習では授業中に指摘されたポイントについて整理する。</p>	<p>予習・復習それぞれ 30 分程度</p>	
テキスト	適宜、必要なプリントを配布する。				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。正答率 60%以上で合格とする。				
課題（レポート等）	に対するフィードバック		レポートの提出を求めることはない。		

科目名 ナンバリングコード	疾病治療論 I CLM2112MN3	必修科目	2年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	放射線医学講座：安陪 等思、淡河 恵津世 麻酔学：江島 美沙 臨床工学センター：吉田 圭介 内科学講座：（消化器内科）森田 俊 （心臓血管内科）高橋 甚彌 （内分泌代謝内科）本村 誠一 （血液腫瘍内科）長藤 宏司 外科学講座：（小児外科）加治 建 （心臓血管外科）福田 倫史 （呼吸器外科）内田 祐良 （胃・大腸外科）田中 優				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 病める人を治すだけでなく、治し癒す方法論を幅広く伝える。</p> <p>2) 臨床各科の代表的な疾患の診断のポイント、治療および治療上の観測点について講義する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 治療法の総論として、放射線療法、化学療法、輸液療法の概要を把握する。</p> <p>2) 各専門分野の主要疾患とその治療法について述べるができる。</p> <p>3) 治療において、看護に必要な医学的基礎知識を習得する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	疾病治療（総論） 放射線医学（放射線科） 放射線医学（放射線科） 化学療法（看護学科） 輸液療法（小児外科） 麻酔法、周術期管理（麻酔科） 医療機器（臨床工学センター） 心臓血管内科疾患（心臓血管内科） 心臓血管外科疾患（心臓血管外科） 呼吸器内科疾患（看護学科） 呼吸器外科疾患（呼吸器外科） 消化器内科疾患（消化器内科） 消化器外科疾患（胃・大腸外科） 内分泌代謝疾患（内分泌代謝内科） 血液疾患（血液腫瘍内科）	松本【講義】 安陪【講義】 淡河【講義】 松本【講義】 加治【講義】 江島【講義】 吉田【講義】 高橋【講義】 福田【講義】 松本【講義】 内田【講義】 森田【講義】 田中【講義】 本村【講義】 長藤【講義】	それぞれの授業内容をイメージできるように予習を行う。復習では授業で指摘されたポイントを整理する。	予習・復習 それぞれ30分程度	
テキスト	シラバスに講義資料を掲載する。				
参考書	特になし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。正答率60%以上を合格とする。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポート提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	疾病治療論Ⅱ CLM2113MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	精神神経学講座：佐藤 守 内科学講座：(呼吸器・神経・膠原病内科) 井田 弘明 (腎臓内科) 田口 顕正 脳神経外科学講座：音琴 哲也 泌尿器外科学講座：松尾 光哲 産婦人科学講座：葉 高杉 小児科学講座：満尾 美穂 眼科学講座：春田 雅俊 整形外科学講座：松瀬 博夫 皮膚科学講座：堤 真宏 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座：黒岩 大海 救急医学講座：鍋田 雅和				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 病める人を治すだけでなく、治し癒す方法論を幅広く伝える。 2) 臨床各科の代表的な疾患の診断のポイント、治療および治療上の観察点について講義する。 到達目標 1) 各専門分野の主要疾患とその治療法について述べるができる。 2) 治療において、看護に必要な医学的基礎知識を習得する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	膠原病・アレルギー疾患(膠原病内科) 精神神経疾患(精神神経科) 脳神経内科疾患(看護学科) 脳神経外科疾患(脳神経外科) 腎疾患(腎臓内科) 泌尿器科疾患(泌尿器科) 女性生殖器疾患(産婦人科) 小児科疾患①(小児科) 小児科疾患②(小児科) 眼科疾患(眼科) 骨疾患(整形外科) 皮膚科疾患(皮膚科) 頭頸部領域疾患(耳鼻咽喉科) 救急医療(救命救急センター) 疾病治療(総括)	井田【講義】 佐藤【講義】 松本【講義】 音琴【講義】 田口【講義】 松尾【講義】 葉【講義】 満尾【講義】 満尾【講義】 春田【講義】 松瀬【講義】 堤【講義】 黒岩【講義】 鍋田【講義】 松本【講義】	それぞれの授業内容がイメージできるように予習する。復習では授業中に指摘されたポイントを整理する。	予習・復習 それぞれ 30分程度	
テキスト	講義資料をシラバスへ掲載する。				
参考書	なし				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(100%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。正答率60%以上を合格とする。				
課題(レポート等)	に対するフィードバック		レポートの提出は求めない。		

科目名 ナンバリングコード	臨床薬理 CLM1114MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部薬理学講座 教授 西 昭徳				
科目担当者	医学部薬理学講座 河原 幸江、首藤 隆秀、黒岩 真帆美、中村 祐樹 医学部神経精神医学講座 沈 龍佑 大学病院薬剤部 石川 智子、高橋 誠、内藤 哲哉				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 薬物治療に必要な臨床薬理学の基礎知識を身につける。 2) 薬物を治療目的で患者に投与する際に必要な知識を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 薬理作用の本質、特に受容体を介した薬理作用について知る。 2) 薬物の吸収、分布、代謝、排泄について知る。 3) 薬物の副作用、薬物の反復応用や併用により出現する問題について知る。 4) 基本的な薬物の作用及び作用機序、臨床応用、副作用について知る。 5) 1) ~ 4) を臨床で実践するための知識を知る。 6) 薬学的管理について知る。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	<p>薬理学の概念、薬物の種類、薬理作用、薬物受容体</p> <p>薬物の吸収・分布・代謝・排泄</p> <p>用量と薬理作用、応用法と薬理作用・薬害</p> <p>薬物の副作用、反復応用・薬物の併用でみられる作用</p> <p>自律神経作用薬1</p> <p>自律神経作用薬2・呼吸器作用薬</p> <p>生体内活性物質・鎮痛薬</p> <p>全身麻酔薬・局所麻酔薬・筋弛緩薬</p> <p>向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬）</p> <p>抗パーキンソン病薬・アルコール・中枢興奮薬</p> <p>抗てんかん薬・脳代謝賦活薬</p> <p>循環器作用薬・血液作用薬</p> <p>消化器作用薬・高脂血症治療薬</p> <p>ホルモン及び関連物質</p> <p>利尿薬</p> <p>抗生物質</p> <p>抗腫瘍薬</p> <p>漢方薬</p> <p>臨床薬理の実践（薬学的管理の実際：副作用・相互作用チェック等）</p> <p>臨床薬理の実践（薬学的管理の実際：インシデント事例等）</p> <p>臨床薬理の実践（がん化学療法臨床薬理）</p> <p>臨床薬理の実践（がん化学療法の実際）</p> <p>臨床薬理の実践（抗菌薬・消毒薬の適正使用と管理）</p>	<p>西【講義】</p> <p>黒岩【講義】</p> <p>黒岩【講義】</p> <p>河原【講義】</p> <p>中村【講義】</p> <p>中村【講義】</p> <p>河原【講義】</p> <p>河原【講義】</p> <p>首藤【講義】</p> <p>首藤【講義】</p> <p>首藤【講義】</p> <p>河原【講義】</p> <p>黒岩【講義】</p> <p>西【講義】</p> <p>西【講義】</p> <p>中村【講義】</p> <p>首藤【講義】</p> <p>沈【講義】</p> <p>石川【講義】</p> <p>石川【講義】</p> <p>高橋【講義】</p> <p>高橋【講義】</p> <p>内藤【講義】</p>	<p>テキストの 該当の項目 を読んで、 予習してお くこと。</p>	各20分	
テキスト	野村隆英他編集 シンプル薬理学 南江堂				
参考書	田中正敏著 「超図解 薬はなぜ効くか」 講談社				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	選択肢問題マークシート使用、正答率60%以上合格。				
課題（レポート等）に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	臨床栄養 NUS2411MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・実習	1単位
科目責任者	医療センター栄養室 副部長補佐 坂口 美紀				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 内科的疾患や癌、術後等の患者の効果的看護には、栄養の代謝や病因、患者の病態に応じた病院食の実際を理解する。</p> <p>2) 様々な疾患や病態の成因について学び、疾病の治癒に栄養学がどのように関わっているか、また各々の疾患、病態に対してどのような栄養療法を適用すべきかを学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 授業を通し、栄養学の基礎と実践を学び活用できるようにする。</p> <p>2) 疾病や病態の内容について理解できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	臨床栄養学の基礎知識 消化管の基礎知識と栄養療法 糖尿病、腎臓病の栄養食事療法、肝疾患の栄養療法 入院患者の食事について 入院診療計画書と栄養管理計画書 サルコペニア・フレイルの栄養管理 癌患者の栄養管理 栄養アセスメントとチーム医療	坂口【講義】 坂口【講義】 坂口【講義】 坂口【講義】 坂口【実習】 坂口【講義】 坂口【講義】 坂口【講義】	看護師の視点から、得られる栄養学的情報や、症状を把握し、栄養マネージメントを理解し、復習しておく。チーム医療の中での看護師の役割について予習しておく。	各 60 分	
テキスト	必要時、資料配布する。				
参考書	日本人の食事摂取基準 2020 年版 第一出版 2019 臨床栄養学基礎編第 2 版 羊土社 2020 糖尿病治療ガイド 2019-2020 日本糖尿病学会 日本臨床栄養代謝学会テキストブック 南光堂 2021				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(80%) 出席状況・態度(20%)	マークシート方式で試験を行う。 途中退席は、理由が無い限り認めない。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	必要時課題を課す。				

科目名 ナンバリングコード	看護学概論I NUS1121MN1	必修科目	1年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、草場 万裕子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 看護学の基本となる概念“看護、人間、健康、環境”について基本的な知識を学修する。</p> <p>2) 事例検討をとおして人間の生活と看護の役割について、自分の考えを持ち、討議する能力を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 看護の歴史の変遷について理解する。</p> <p>2) 看護の対象である人間の特性と生活について理解する。</p> <p>3) 人間にとって健康とは何かを説明できる。</p> <p>4) 人間の生活と健康、環境との関連について説明できる。</p> <p>5) 保健医療福祉分野で活動する職種とその役割、チーム医療について知る。</p> <p>6) 事例をとおして看護の機能、役割について理解する。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回	看護と法、看護の変遷、看護実践技術・倫理	加悦【講義】	シラバス確認	20分	
第2・3回	人間とは<GW>:成長・発達、共通性・個別性、身体的・精神的・社会的側面の特徴	加悦【講義・演習】	①人間とは	30分	
第4・5回	人間の生活<GW>:成長・発達と生活習慣	加悦【講義・演習】	②人間の生活の観察	60分	
第6・7回	健康と環境<GW>:健康の概念、健康の段階、外的環境・内的環境、健康と環境の関連	加悦【講義・演習】	③健康と環境	30分	
第8回	人間の生活と健康の関連	加悦【講義】			
第9回	F・ナイチンゲール、V・ヘンダーソンの看護<GW>	全員【講義・演習】	④先駆者の看護	60分	
第10～13回	事例に対する看護<PBL学習>: 対象の理解、看護の実践、多職種連携 保健医療福祉分野の職種・役割、チーム医療 コミュニケーション(テレナーシング)	全員【演習】	⑤⑥⑦ グループ課題	各30分	
第14回	事例検討結果プレゼンテーション	全員【演習】	⑧事例成果作成	30分	
第15回	看護の組織・体制、看護の役割・機能の拡大	加悦【講義】	⑨看護機能の拡大	30分	
テキスト	F・ナイチンゲール著、湯槇ます他訳：看護覚え書、現代社 V・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会				
参考書	その都度、紹介する。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(60%)	達成目標の達成度を正答率で評価する。				
受講態度(40%)	授業、グループ学習に参加する姿勢、レポート①～⑨の提出状況などをポイント化し、評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	準備学習①～⑨は、発表・提出してもらい、採点後に返却する。 質問・意見にはその都度返答する。				

科目名 ナンバリングコード	生命・看護倫理 NUS1122MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 保健・医療・福祉における、倫理、生命・人の尊厳について理解する。 2) 看護職者の職業倫理を理解し、看護職者が果たす倫理的責務、生命・人の尊厳について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 生命倫理、医療倫理、臨床倫理などの関連領域の倫理の変遷を理解できる。 2) 医療・看護における倫理に関する規範・原則や指針（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 3) 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。 4) 看護職者の倫理的責任と社会的（法的）責任について説明できる。 5) 医療や看護の現場における倫理的課題と調整方法について説明できる。 6) 多職種間での情報共有時における、個人情報保護や守秘義務の遵守への配慮について説明できる。 7) 薬害被害について倫理的に再考できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>生命倫理の変遷と課題</p> <p>患者の権利と生命倫理</p> <p>医療倫理の変遷と課題</p> <p>看護の責任と倫理、看護倫理の基礎</p> <p>看護職の責任：倫理的責任と社会的（法的）責任</p> <p>看護倫理の変遷と課題</p> <p>コンパッション、ケアリング、患者中心の看護</p> <p>患者情報と守秘義務</p> <p>医療者－患者関係におけるコミュニケーション</p> <p>B型肝炎当事者に学ぶ 医療者に必要な倫理的姿勢 (医学科との合同予定)</p> <p>臨地実習に必要な看護倫理</p> <p>倫理的意思決定のステップ（事例検討）</p> <p>看護実践で総合した倫理的問題について考える (原則に基づくアプローチ)</p> <p>サリドマイド薬害被害と真相</p> <p>最先端医療に関わる倫理</p>	<p>田中【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>恒松【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>特別講義講師【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>田中【講義】</p> <p>特別講義講師【講義】</p> <p>恒松【講義】</p>	<p>準備学習課題：</p> <p>1. ヒポクラテスの誓い</p> <p>2. 医療倫理の4原則</p> <p>3. バルセロナ宣言</p> <p>4. ジュネーブ宣言とは</p> <p>5. ICN 倫理綱領とは</p> <p>6. 日本：看護師倫理綱領</p> <p>7. リスボン宣言の原則</p> <p>8. 患者の権利章典</p> <p>9. オタワ憲章とは</p> <p>10. ニュルンベルグ綱領</p> <p>11. ヘルシンキ宣言</p> <p>12. ベルモントレポート</p> <p>13. ナイチンゲール誓詞</p> <p>14. アドボカシーとは</p>	各回 30 分以上	
テキスト	小西恵美子編：看護倫理（改訂第3版）よい看護・よい看護師への道しるべ，南江堂，2021				
参考書	<p>ライ ST, ジョンストン MJ(2006)/ 片田範子, 山本あい子訳：看護実践の倫理 第3版，日本看護協会出版会，2010</p> <p>杉谷藤子・川合政恵：『看護者の倫理綱領』で読み解くベッドサイドの看護倫理事例 30，日本看護協会出版会，2007</p> <p>盛永審一郎・長島隆編：看護学生のための医療倫理，丸善出版，2012</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（75%） レポート（15%） 出席状況・授業 での発表（10%）	<p>・到達目標の達成度を正答割合で評価する。</p> <p>・レポートの提出状況と内容をポイント化し、評価する。</p> <p>・出席状況と参加姿勢をポイント化し、評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題（レポート等）は評価内容を講義時間内に伝える。				

科目名 ナンバリングコード	生活援助技術I NUS1221MN1	必修科目	1 年次 A クラス・B クラス 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、草場 万裕子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> あらゆる看護場面において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の看護の基盤になる日常生活行動に関わる援助方法について、基礎的な知識・技術・態度を学修する。 人間の生活行動の“身体の動き”や“清潔行為”に規制や障害のある人の援助を行うために必要な基礎的な看護技術および知識、態度を身につける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 臥床患者を動かす重要性および人間の自然な動きのメカニズムをふまえ、ボディメカニクスの原理を活用した運動と休息に関する援助を適切に実施できる。 身体の構造・機能をふまえ、患者へ配慮しながら清潔および排泄に関する援助を適切に実施できる。 援助にあたり、常に安全で快適な療養環境を整えることができる。 援助をとらして医療における安全、感染予防について考える。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	ガイダンス、感染予防、手洗い	加悦・山田【講義】	実習室の探索	30 分	
第 2・3 回	ボディメカニクス、ベッドメイキング	全員【講義・演習】	ベッドメイキング	60 分	
第 4・5 回	運動の効用、安楽な体位、褥瘡予防	全員【講義・演習】	体位保持、体位変換	60 分	
第 6・7 回	シーツ交換、寝衣交換	全員【講義・演習】	シーツ交換	60 分	
第 8 回	衣生活の援助、快適な病床環境	全員【講義・演習】	寝衣交換	30 分	
第 9 回	前半のまとめ	全員【講義・演習】	援助技術課題	60 分	
第 10・11 回	身体の清潔、清拭の援助方法	全員【講義・演習】	清拭	60 分	
第 12・13 回	臥床患者の全身清拭と足浴の援助	全員【講義・演習】	足浴	60 分	
第 14・15 回	頭皮・頭髪の清潔、臥床患者の洗髪	全員【講義・演習】	洗髪	60 分	
第 16・17 回	陰部の清潔とオムツ交換、療養環境調整	全員【講義・演習】	療養環境の観察・測定	60 分	
第 18・19 回	床上排泄の援助	全員【講義・演習】	排泄の援助	60 分	
第 20・21 回	車椅子・輸送車による移乗・移送の援助	山田他【講義・演習】	車椅子の援助	60 分	
第 22・23 回	総合演習、医療における安全	全員【講義・演習】	事例の患者の援助計画	60 分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学 基礎看護技術 1・2、メヂカルフレンド社、2021 その他、必要時には資料を配布する。				
参考書	平田雅子著：完全版ベッドサイドを科学する - 看護に生かす物理学 - 学研、2021 他の参考書については、授業中に紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（40%） 実技試験（60%）	筆記試験では到達目標に対する達成度を正答率で評価する。 実技試験では指定する事例課題に対する看護援助技術を評価する。 ただし、上記評価内容のいずれにおいても 6 割以上の達成を履修単位修得の基準とする。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートは点検後に返却しコメントを行う。				

科目名 ナンバリングコード	生活援助技術Ⅱ NUS1222MN1	必修科目	1年次 Aクラス・Bクラス 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 恒松 佳代子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、草場 万裕子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> あらゆる看護場面において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の看護の基盤になる日常生活行動に関わる援助方法について、基礎的な知識・技術・態度を学修する。 日常生活を送るための身体内部の状態を理解し、客観的に観察する方法を身につける。 感染予防のための基本的知識・技術・態度を身につける。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康にとって清潔の意味を理解し、患者の口腔内を清潔に保つことができる。 ひとの生命維持にかかわる生活行動としての食事に関する援助を、身体の構造・機能をふまえ、かつ対象の好み・習慣を尊重しながら、適切に実施できる。 体温、呼吸、脈拍、血圧の正しい測定方法を身につけ、一般的な健康状態および日常生活行動による変動について説明できる。 体温調節の仕組みを理解して、罨法および日常生活の援助を実施できる。 無菌操作の技術を身につけ、対象に配慮しながら創傷処置を適切に実施できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	ガイダンス、口腔ケア	全員【講義・演習】	口腔ケアの方法	30分	
第2・3回	事例患者に行う食事援助	全員【講義・演習】	食事の援助計画	30分	
第4・5回	バイタルサインとは、体温・呼吸・脈拍測	全員【講義・演習】	体温・呼吸・脈拍測定	60分	
第6・7回	定血圧測定一触診法	全員【講義・演習】	血圧測定(触診法)	60分	
第8・9回	血圧測定一聴診法 意識状態の観察	全員【講義・演習】	血圧測定(聴診法)	60分	
第10・11回	消毒法、滅菌法、無菌操作、滅菌手袋の装着	山田他【講義・演習】	無菌操作、滅菌手袋	60分	
第12・13回	創傷処置、包帯法、ガウンテクニック	山田他【講義・演習】	創傷処置	60分	
第14回	体温調節の援助一罨法、事例患者への援助	全員【講義・演習】	罨法技術	30分	
第15回	バイタルサインと日常生活行動・まとめ	全員【講義・演習】	事例患者の援助計画	60分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学 基礎看護技術1・2、メヂカルフレンド社、2021 ※生活援助技術Iと共通テキストである。				
参考書	授業中に紹介する。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(50%) 実技試験(40%) レポート(10%)	<p>筆記試験では到達目標に対する達成度を正答率で評価する。</p> <p>実技試験では指定する事例課題に対する看護援助技術を評価する。</p> <p>レポートは提出状況などをポイント化し、評価する。</p> <p>ただし、上記いずれにおいても6割以上の達成を履修単位修得の基準とする。</p>				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートは点検後に返却コメントを行う。				

科目名 ナンバリングコード	診療に伴う援助技術 NUS2223MN3	必修科目	2年次 Aクラス・Bクラス 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 前野 里子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、恒松 佳代子、三次 貴大、山田 泰子、草場 万裕子、池上 明由美、石橋 秋奈				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 健康障害を持ち医療的な処置を必要とする対象者に対して、主に苦痛の緩和・健康回復のために実施する頻度が高い看護援助技術を学修し、看護実践への適応を理解する。</p> <p>2) 診療の補助に関わる看護技術の原理原則や援助方法について、安全の視点をふまえて学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 患者の安全を守るために必要な観察力と事故防止の方法を身につける。</p> <p>2) 排泄機能障害のある患者の症状緩和に必要な基本的技術を身につける。</p> <p>3) 摂食嚥下機能障害のある患者の症状緩和に必要な基本的技術を身につける。</p> <p>4) 薬物療法に関する基本的な援助技術を身につける。</p> <p>5) 診察・検査に関する基本的な援助技術を身につける。</p> <p>6) 呼吸異常がある患者の症状緩和に必要な基本的技術を身につける。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	ガイダンス (既習内容の確認)	前野・三次【講義】	シラバスの確認	15分	
第2・3回	排泄機能障害の看護／導尿	前野・全員【講義・演習】	無菌操作・導尿	30分	
第4・5回	排泄機能障害の看護／膀胱内留置カテーテル	前野・全員【講義・演習】	膀胱留置カテーテル	30分	
第6・7回	排泄機能障害の看護／浣腸	三次・全員【講義・演習】	浣腸	30分	
第8・9回	摂食嚥下機能障害の看護／経管栄養	三次・全員【講義・演習】	経管栄養	30分	
第10回	薬物療法／経口与薬	前野・全員【講義・演習】	経口与薬	30分	
第11・12回	薬物療法／注射法・皮下注射	前野・全員【講義・演習】	皮下注射	30分	
第13・14回	薬物療法／筋肉内注射	三次・全員【講義・演習】	筋肉注射	30分	
第15・16回	検査時の看護／検査の種類採血の方法	前野・全員【講義・演習】	血液検査	30分	
第17・18回	検査時の看護／静脈血採血	三次・全員【講義・演習】	静脈採血	30分	
第19・20回	薬物療法／静脈内注射、点滴静脈内注射	三次・全員【講義・演習】	静脈内注射	30分	
第21・22回	呼吸異常時の看護／吸入、吸引	前野・全員【講義・演習】	吸入、吸引	30分	
第23回	まとめ	前野・全員【講義・演習】		30分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，メグカルド社（1年次購入分）				
参考書	村中陽子他：学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版，医歯薬出版株式会社 三木明德 監修：人体の構造からわかる看護技術のエッセンス，医歯薬出版株式会社 など				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60%）	達成度を正答率で評価する。				
実技試験（30%）	指定する事例課題に対する看護援助技術を評価する。				
レポート（10%）	課題1～13の予習・復習レポートの提出状況を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題の予習・復習レポートを添削する。また、質問に適宜返答して返却する。				

科目名 ナンバリングコード	フィジカルアセスメント技術 NUS2224MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 河原田 康貴				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 対象の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメント技術を修得し、系統的なアセスメント能力を身につけることができる。</p> <p>2) フィジカルアセスメントを活用し、対象に必要な看護援助を考察できる。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 身体各部のフィジカルアセスメントに必要な基本的な知識と技術、態度を習得できる。</p> <p>2) 習得した知識と技術、態度をもとに、全身を系統的に観察し、アセスメントすることができる。</p> <p>3) アセスメントから得た情報をもとに、総合的な臨床看護診断を行うことができる。</p> <p>4) フィジカルアセスメントにおける携帯用エコーの活用について理解できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	フィジカルアセスメントとは 問診と基本となる共通の技術 外皮系のフィジカルアセスメント	河原田【講義】	各講義の前には必ずテキストを読み、関連する人体の構造や機能について、既習内容を十分に復習する。	各回 30分 以上	
第2・3回 第4回	循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系のフィジカルアセスメント演習	河原田【講義】 担当者全員【演習】	さらに該当するレポート課題を解き、講義に臨む。		
第5・6回 第7回	呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント演習	河原田【講義】 担当者全員【演習】	講義後は、学修した内容について復習し、技術については繰り返し練習する。		
第8回 第9・10回 第11・12回	腹部のフィジカルアセスメント 脳・神経系のフィジカルアセスメント 運動器系のフィジカルアセスメント	河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】			
第13回	腹部、脳・神経系のフィジカルアセスメント演習	担当者全員【演習】			
第14・15回	症状別・徴候別フィジカルアセスメント	河原田【講義】			
テキスト	医療情報科学研究所編：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント、Medic Media、2019				
参考書	藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研メディカル秀潤社、2017 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック―目と手と耳でここまでわかる、医学書院、2011 阿部幸恵編：症状別 病態生理とフィジカルアセスメント、照林社、2015				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%)	定期試験によって、到達目標の達成度を評価する。				
レポート (10%)	課題レポートの提出状況と内容をポイント化し、評価する。				
受講態度 (10%)	講義・演習への出席状況と受講姿勢をポイント化し、評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートの返却・フィードバックは、講義の中で適宜行う。				

科目名 ナンバリングコード	人間関係方法論 NUS1272MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位	
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子					
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子 非常勤講師 植田 友貴 (西九州大学)					
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>看護師は、対象を深く理解し、適切な態度で接することが望まれる。関係づくりの基礎となるコミュニケーション技術について学び、信頼関係に基づいたその人らしい生活への支援を目指す。またチームの中でのコミュニケーションとして、有意義なカンファレンスを行う技術について学習する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対人関係におけるコミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。 2) 自分の対人傾向と課題を明らかにできる。 3) 対象者を理解するための聴き方、伝え方の技術を習得し、援助関係を形成できる。 4) 看護の対象と援助的コミュニケーションをとることができる。 5) プロセスレコードで看護場面を再構成し、相互関係を分析・考察できる。 6) 言語的コミュニケーションが困難な人々コミュニケーション技法を理解する。 7) 集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。 8) チームの一員として報告・連絡・相談が重要であることを理解できる。 9) カンファレンスにおける役割を理解し、カンファレンスを実施できる。 					
授業計画						
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間		
第1回	コミュニケーション 自己理解・他者理解	舞弓【講義・演習】	日頃の対人関係を通して、自己理解を深める。	各回 30分		
第2回	人間関係に関する看護理論	舞弓【講義】				
第3回	患者・看護師関係 (プロセスレコード)	舞弓【講義】				
第4回	看護コミュニケーション①	松島【講義】				
第5回	看護コミュニケーション②	松島・舞弓・福浦【演習】				
第6回	看護コミュニケーション③	舞弓【講義】				
第7回	看護コミュニケーション④	舞弓・福浦・松島【演習】				
第8回	患者とのコミュニケーション (実技試験)	舞弓・福浦・松島【演習】				
第9回	ノンバーバルコミュニケーション	植田【講義】				
第10回	看護チームとグループダイナミクス	舞弓【講義】				
第11回	カンファレンス①	舞弓【講義・演習】				グループワークの中で生じた自己の課題についてまとめる。
第12回	カンファレンス②	舞弓・福浦・松島【演習】				
第13回	カンファレンス③	舞弓【講義・演習】				
第14回	カンファレンス④	舞弓・福浦・松島【演習】				
第15回	人間関係の問題	舞弓【講義】				
テキスト	必要時、資料を配布する。					
参考書	宮本真巳編著：援助技法としてのプロセスレコード、精神看護出版、2003					
成績評価						
方法 (割合)	基準					
実技試験 (50%) 筆記試験 (50%)	実技試験：患者—看護師関係を実践とプロセスレコードで再構成する。 対人関係、看護理論、カンファレンスについて問題から出題する。					
課題 (レポート等)	に対するフィードバック	第9回でフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	回復期援助技術 NUS2225MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 孫田 千恵				
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪、渡邊 理恵、山田 泰子、新 裕紀子、石橋 秋奈 大学病院リハビリテーション部 加藤 美津子、木村 太郎、鳥取 博 大学病院看護部 中村 信也				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>回復期の概念を理解し、疾病や障害をもった人が社会生活に再適応できるための援助および社会システムと資源について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康問題の治療過程・回復期における看護について説明できる。 2) 障害がもたらす心身への影響を理解し、障害受容・セルフケア理論について説明できる。 3) 生活の再構築を目指すための援助技術を修得できる。 4) 治療に伴って生じる健康問題と看護援助について説明できる。 5) 回復期における看護師の役割および多職種との連携について説明できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	総論1：健康障害の治療過程と回復期における看護	孫田【講義】		30分	
第2回	総論2：回復期看護：障害受容、身体障害者福祉	孫田【講義】		30分	
第3回	総論3：回復期看護：セルフケア理論、ADLの評価	孫田【講義】		30分	
第4回	疾病に伴う障害と生活の再構築を目指す援助技術	孫田【講義】		30分	
第5回	運動機能障害のある人への回復期看護 理学療法の実際：関節可動域運動、筋力増強訓練	加藤・姫野・渡邊 新・ 山田・石橋 孫田【演習】	テキストの該当箇所 を熟読し、それぞれ の授業内容をイメージ できるように予習 する。	60分	
第6回	作業療法の実際：補助具・自助具・義肢・装具	木村・孫田・石橋 【講義・演習】		30分	
第7回	高次脳機能障害のある人への回復期看護	孫田【講義】		30分	
第8回	言語聴覚療法の実際：直接訓練・関節訓練	鳥取・姫野・渡邊 新・山田・石橋 孫田【演習】	実施した講義・演習 内容についてテキスト ・配布資料で復習 する。	30分	
第9回	呼吸機能障害のある人への回復期看護	中村【講義】		30分	
第10回	呼吸理学療法の実際：吸気・呼気介助、肋間ストレッチ	中村・姫野・渡邊 新・山田・石橋	第5・10・11・13回 は課題を課す。	30分	
第11回	循環機能障害のある人への回復期看護	孫田【演習】		30分	
第12回	治療に伴って生じる健康問題と看護援助	孫田【講義】		30分	
第13回	1) がんサバイバーを支える看護	姫野【講義・演習】		60分	
第14回	2) がんサバイバーを支える看護 事例演習：グループワーク	姫野・孫田・石橋 【講義・演習】		60分	
第15回	シームレスな在宅療法への移行	孫田【講義】		30分	
テキスト	酒井郁子・金城利雄 編集：リハビリテーション看護、南江堂、2021				
参考書	奥宮暁子 編集：ナースング・グラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護、メディカ出版、2022 辻哲也 編集：がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで、医学書院、2016				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(70%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
レポート(20%)	レポートの提出状況と内容をポイント化し評価する。				
受講態度(10%)	講義・演習への出席状況および参加態度(積極性、意見・質問など)をポイント化し、評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートは採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	看護過程I NUS1126MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 前野 里子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、恒松 佳代子、三次 貴大、山田 泰子、草場 万裕子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>健康上の問題や障害をもつ人の看護の必要性をアセスメントし、看護過程を展開するための概念と思考プロセスの基本を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の意義や目的について説明できる。 2) 看護過程の構成要素を説明できる。 3) アセスメントとは何かを説明できる。 4) 既習の知識を活用しながら、情報を整理・アセスメントし、必要な看護を導き出すことができる。 5) 看護問題を解決するための看護計画を立案することができる。 6) 看護過程の評価の視点を説明できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護過程の意義・目的と基盤となる考え方 看護記録に関する法的規定	前野・全員【講義・演習】		30分	
第2回	看護過程の構成要素、看護に必要な情報 収集、アセスメントの枠組み	前野・全員【講義・演習】	(全体を通して) 事前にテキストの該当 箇所を読み予習して受 講する。	60分	
第3回	アセスメント(情報の解釈、推理・推論)	前野・全員【講義・演習】		60分	
第4回	問題の統合(関連図および全体像)	前野・全員【講義・演習】		60分	
第5回	看護問題の抽出、看護診断	前野・全員【講義・演習】		60分	
第6回	看護計画の立案	前野・全員【講義・演習】		60分	
第7回	看護計画の実施と記録(SOAP) 計画の評価・修正	前野・全員【講義・演習】		60分	
第8回	看護過程まとめ	前野・全員【講義・演習】		60分	
テキスト	江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，ヌーヴェルヒロカワ，2019 深井喜代子編：新体系 看護学全書 専門分野I 基礎看護学② 基礎看護技術I、メヂカルフレンド社(1年次購入分)				
参考書	授業中に紹介する。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(50%) レポート(50%)	達成目標の到達度を正答率で評価する。 個人で作成した看護過程展開のレポート提出状況、内容について評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートは添削後返却する。				

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅看護概論 NUS1181MN1	必修科目	1年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子、森永 朗子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 地域で生活する人々とその家族を理解し、様々な場における看護職の役割について理解する。</p> <p>2) 地域で生活するあらゆる健康段階の人々を支援する在宅看護の目的や課題について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 現代の社会的背景と関連付けて、在宅看護の必要性と目的について説明できる。</p> <p>2) 地域における在宅看護の役割と機能、在宅看護活動の特徴について説明できる。</p> <p>3) 在宅看護を展開するための基本理念及び在宅看護特有の倫理問題について述べることができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護が対象とする地域と生活 地域・在宅看護における「生活」「暮らし」とは 地域の特性に応じた生活と健康の関連性	渡邊【講義】	事前にシラバスを確認 毎回配布資料とテキスト により復習と予習をして 臨む。	毎回復習 予習に 30分	
第2回	地域・在宅看護が目指す役割と機能 社会的背景と国民の価値の変容 地域包括ケアのさらなる推進	渡邊・森永【講義】			
第3回	地域・在宅看護の基盤 在宅看護の特徴・対象者・看護とサービス提供機関	渡邊【講義】			
第4回	「病院看護」と「地域・在宅看護」のそれぞれ が目指す看護の役割	渡邊【講義】			
第5回	療養者を介護する家族にとっての在宅看護の意義	渡邊【講義】			
第6回	在宅看護を展開するための基本理念 セルケア理論・保健行動理論・アドボカシー	森永【講義】			
第7回	地域療養を支える在宅看護の役割・機能 自立・自立支援 病態の予測と予防	山下【講義】			
第8回	在宅看護特有の倫理問題	渡邊【講義】			
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2022年版)				
参考書	・日本在宅ケア学会 在宅ケア学第1巻～第6巻 株式会社ワールドプランニング 2015年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
定期試験 (50%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
課題レポート (30%)	テーマについて、講義内容を引用しながら自分の考えを記述できているか評価する。				
受講態度 (20%)	授業へ積極的に参加する姿勢・毎回の講義内容について具体的な感想や質問等をポイント化し評価する。				
課題 (レポート等)	に対するフィードバック	講義の中でコメントする。			

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅生活支援論 NUS2182MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 森永 朗子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 療養者の在宅生活を支える社会制度を知り、地域における看護師の役割を理解する。</p> <p>2) 療養者の在宅生活を支えるための多職種の連携・協働における看護師の役割を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 高齢療養者の在宅生活を支援する法律・制度について説明できる。</p> <p>2) 小児・障害児(者)の在宅生活支援に関する法律・制度について説明できる。</p> <p>3) 地域で生活するあらゆる対象者の在宅生活を支える多職種との連携のあり方について説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	在宅看護の変遷・概念 在宅看護の特性と地域包括ケアシステム	渡邊【講義】	事前にシラバスを確認 毎回配布資料とテキスト により復習と予習をして 臨む。	毎回復習 予習に 30 分	
第 2 回	在宅療養を支える訪問看護のしくみ 在宅療養者とその家族の理解	渡邊【講義】			
第 3 回	地域療養を支える制度 ① (医療保険制度・介護保険制度)	渡邊【講義】			
第 4 回	地域療養を支える制度 ② (高齢者・障害者(児)に対する法律・制度)	渡邊【講義】			
第 5 回	介護保険制度におけるケアマネジメント	渡邊・森永【講義】			
第 6 回	在宅における小児・障害児の現状と社会資源	渡邊【講義】			
第 7 回	地域包括ケアシステムにおける多職種・ 多機関連携	森永【講義】			
第 8 回	在宅看護における安全と健康危機管理 在宅看護における倫理 まとめ	渡邊【講義】			
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2022 年版)				
参考書	①日本在宅ケア学会 在宅ケア学第 1 巻～第 6 巻 株式会社ワールドプランニング 2015 年 ②ユーキャン 介護保険研究会 介護保険利用マニュアル ユーキャン学び出版 第 6 版 2021 年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
定期試験 (80%) 受講態度 (20%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 授業へ積極的に参加する姿勢・毎回の講義内容について具体的な感想や質問等をポイント化し評価する。				
課題 (レポート等)	に対するフィードバック 講義の中で解説する。				

科目名 ナンバリングコード	生涯発達看護概論 NUS2111MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	3 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 原 頼子、古村 美津代				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>看護の対象である人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。本科目ではいわゆる正常な発達を理解した上で、発達過程で支援・援助を必要とする対象者を知り、小児・成人・老年看護援助を思考するための基礎的知識を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 人間を生涯発達の視点でとらえ、人間の発達の共通性と特異性を説明できる。 2) 発達各期における看護援助の視点を説明できる。 3) 小児・成人・老年看護援助を思考するための基礎的知識を説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回	“発達”という視点から人間を捉えること	益守【講義】	復習	30分	
第2回	ライフサイクルにおける小児期の特徴	益守【講義】	復習	30分	
第3回	子どもの身体的心理社会的発達	益守【講義】	復習	30分	
第4回	子どもの健やかな成長発達（セルフケア獲得 / 向上）への支援	益守【講義】	復習	30分	
第5回	子どもの発達と健康問題	益守【講義】	復習	30分	
第6回	健康問題への子どもの向き合い方（病気や死の認識の変化）	益守【講義】	復習	30分	
第7回	健康問題を抱えた子どもの発達への支援：ヘルスポモーション	益守【講義】	復習	30分	
第8回	思春期の心と身体の特徴	原【講義】	復習	30分	
第9回	青年期の心と身体の特徴	原【講義】	復習	30分	
第10回	青年期の発達に向けた支援	原【講義】	復習	30分	
第11回	成人期の心と身体の特徴	原【講義】	復習	30分	
第12回	成人期の発達に関わる健康問題	原【講義】	復習	30分	
第13回	高齢期を見据えた中年期の健康問題	原【講義】	復習	30分	
第14回	成人期の発達に必要な支援	原【講義】	復習	30分	
第15回	ライフサイクルと老年期	古村【講義】	復習	30分	
第16回	老年期の身体機能・構造の加齢変化①	古村【講義】	復習	30分	
第17回	老年期の身体機能・構造の加齢変化②	古村【講義】	復習	30分	
第18回	老年期の心理・精神機能の変化	古村【講義】	復習	30分	
第19回	老年期の健康と健康障害の特徴	古村【講義】	復習	30分	
第20回	高齢者の社会生活	古村【講義】	復習	30分	
第21回	老年期と死	古村【講義】	復習	30分	
第22回	人間の発達のまとめ (1)	益守・原・古村【演習】	復習	30分	
第23回	人間の発達のまとめ (2)	益守・原・古村【演習】	復習	30分	
テキスト	舟島なをみ：看護のための人間発達学（第5版）、医学書院、2019 必要時、資料を配布する。				
参考書	<p>1) 中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 2022（2年次購入）</p> <p>2) 野口美和子 編 成人看護学概論 成人保健 メジカルフレンド社 2012</p> <p>3) 水谷信子ほか編 最新老年看護学 第3版 日本看護協会出版会 2020（2年次購入）</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） 課題（10%）	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標の達成度を正答率で評価する。 ・第22回23回で取り組む課題：発達という支援から乳幼児期から老年期までの過程を具体的に整理する。教科書・講義内容を活用しながら、わかりやすく具体的にまとめられているかをポイント化して評価する。 				
課題（レポート等）に対するフィードバック	採点后コメントを記載し返却する。				

科目名 ナンバリングコード	女性生涯看護概論 NUS2161MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から捉え、生涯を通じた女性の健康支援のあり方を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性の健康との関連から、人間の性（セクシュアリティ）の基本的な考え方とリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて説明できる。 2) 生涯を通じた女性の健康からみた、現代女性のライフサイクルの特徴について説明できる。 3) 女性を取り巻く社会や環境との関連から、女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関わる課題を理解・考察し、支援のあり方を説明できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	女性のライフサイクルと健康	田中【講義】	◇各回の講義内容を、配布資料やテキストでふり返りをしましょう。	各回 30分 程度	
第2回	女性の健康とセクシュアリティ	田中【講義】	講義内容よりセクシュアリティ、ジェンダー、リプロダクティブヘルス/ライツに関連する健康・		
第3回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（1）	田中【講義】	社会問題について興味・		
第4回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（2）	田中【講義】	関心を持ち、さらに報道や書籍等を読み、思考を深めて下さい。		
第5回	女性の健康と暴力	田中【講義】	◇講義前テキストの該当箇所を目を通しておきましょう。		
第6回	女性の健康と少産少子	加藤【講義】	◇第7回		
第7回	生涯を通じた女性の健康	田中【講義】	討論に向けたレポートの作成		
第8回	ヘルスプロモーションへの支援—討論	田中【演習・講義】			
テキスト	渡邊浩子、板倉敦夫、松崎政代編； 母性看護学1：母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護 第7版				
参考書	財団法人 厚生統計協会編：厚生指標 増刊 国民衛生の動向、母子衛生研究会編：母子保健の主たる統計				
成績評価					
方法（割合）		基準			
筆記試験（80%） レポート（20%）		<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標の達成度を正答割合で評価する。 ・女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題と支援について、既習の講義内容を参考にし、自分の意見を論理的にまとめられているかポイント化し、評価する。 			
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題（レポート等）はコメントを記載し返却する。			

科目名 ナンバリングコード	ウィメンズヘルス論 NUS2162MN3	必修科目	2年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、岡村 光子、永田 真理子、竹藤 徳子、専任教員1名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>女性生涯看護概論での学習を経て、ウィメンズヘルスの観点から女性特有の健康問題や女性を取り巻く様々な環境と健康について学習し、女性と周囲の人々に対する健康支援の在り方について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 日本女性が置かれている社会環境と健康問題の特徴について説明できる。 2) 女性のライフサイクルでの心身の変化とそれを取り巻く人々の健康問題との関連について説明できる。 3) 世界から見た日本のウィメンズヘルスの現状と今後の課題について説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	ウィメンズヘルスの基本理念	田中【講義】	シラバスの確認	10分	
第2回	女性ホルモンと健康問題(性周期・月経異常)	永田【講義】	「性周期」に関する復習	60分	
第3回	思春期女性の健康(第2次性徴・性意識)	加藤【講義】	「性意識」に関する復習	30分	
第4回	思春期女性の健康(思春期の性とこころ)	加藤【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第5回	思春期女性の健康(性感染症と若年妊娠)	永田【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第6回	成熟期女性の健康(性行動・性反応など)	田中【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第7回	成熟期女性の健康(不妊・不育症)	永田【講義】	「不妊」に関する復習	60分	
第8回	成熟期女性の健康(女性の就労と妊娠・子育て)	田中【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第9回	成熟期女性の健康(RLP・家族計画)	加藤【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第10回	更年期女性の健康と健康問題(更年期障害)	田中【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第11回	老年期女性の健康と健康問題	田中【講義】	講師資料の確認と復習	30分	
第12回	成熟期女性の健康問題(女性がん疾患)	岡村【講義】	講義資料の確認と復習	30分	
第13回	ウィメンズヘルスにおける今後の課題	田中【講義】	資料検索と作成	60分	
第14回	日本のウィメンズヘルスの現状	担当者全員【演習】	講義資料の確認と復習	30分	
第15回	日本のウィメンズヘルス(発表)	担当者全員【演習】		30分	
テキスト	渡邊浩子、板倉敦夫、松崎政代編； 母性看護学1：母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護 第7版				
参考書	財団法人校正統計協会編：厚生指標増刊 国民衛生の動向、母子衛生研究会編：母子保健の主たる統計				
成績評価					
方法(割合)		基準			
筆記試験(60%) 出席・演習参加(20%) 演習レポート(20%)		演習参加については、演習内での発言やグループ運営状況などにより評価する。 演習レポートは、課題内容についての各自の分析と支援方策を具体的に述べること。 科目の成績は、左記の割合で書く得点を換算・合計したものとす。			
課題(レポート等)に対するフィードバック		レポートは確認・採点后返却します。			

科目名 ナンバリングコード	小児生活支援論 NUS2152MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 藤好 貴子、水落 裕美				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 子どもと家族の健やかな生活、子どもの健康増進を支援する看護を学び、子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を修得する。</p> <p>2) 子どもの健康問題や子どもや家族を取り巻く社会や医療の現状を捉え、小児看護の課題についての理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 子どもや家族の生活、子どもの健康増進を支援する看護について説明できる。</p> <p>2) 子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を説明できる。</p> <p>3) 子どもや家族を取り巻く社会や医療の現状、小児看護の課題を説明できる。</p> <p>4) 子どもや家族の生活を支援する関連法規を説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	小児看護の理念と役割	益守【講義】	講義の復習	15分	
第2回	子どもの権利と看護	益守【講義】	講義の復習	15分	
第3回	小児看護におけるヘルスアセスメント	水落【講義】	フィジカルアセスメント工夫点の整理	15分	
第4回	小児期にみられる主な症状と対応 (1)	藤好【講義】	症状発現時対応の工夫点整理	20分	
第5回	小児期にみられる主な症状と対応 (2)	藤好【講義】	講義の復習	20分	
第6回	乳児期の子どもと家族の生活	益守【講義】	課題1 乳児期の子どもの生活	60分	
第7回	幼児期の子どもと家族の生活	益守【講義】	課題2 幼児期の子どもの生活	60分	
第8回	子どもの栄養・食	水落【講義】	講義の復習	15分	
第9回	子どもの事故と救急処置	益守【講義】	講義の復習	15分	
第10回	乳幼児期の子どもの健康増進への支援	益守【講義】	課題3 思春期の子どもの生活	15分	
第11回	学校保健・予防接種	藤好【講義】	講義の復習	60分	
第12回	学童期思春期の子どもと家族の生活	益守【講義】	課題4 学童期の子どもの生活	60分	
第13回	学童期思春期の子どもの健康増進への支援	益守【講義】	講義の復習	15分	
第14回	子どもや家族の生活を支援する関連法律 1	益守【講義】	講義の復習	30分	
第15回	子どもや家族の生活を支援する関連法律 2	益守【講義】	ミニテスト	15分	
テキスト	中野綾美監修 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 2023年出版 中野綾美監修 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 2023年出版 中野友彦編集 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版 2023年出版				
参考書	授業の中で提示する				
成績評価					
方法（割合）	基準				
課題（40%） 筆記試験（60%）	<p>課題について</p> <p>乳児期 / 幼児期 / 学童期 / 思春期各期の子どもや家族についての話題をニュースから選択し、子どもや家族に起こっていることについてまとめ、発表する。</p> <p>・過去1年間を検索すること ・出来事の中で子どもや家族が体験していることを整理すること</p> <p>・どうしてそのような体験をすることになったのかを分析的に論じること（分析時に過去に学習した発達理論や関連法規、統計などを参考にすること）</p> <p>・子どもや家族が同様の出来事に直面しないような配慮や支援方法について論じていること（子どもや家族の権利を遵守する支援について考えること）</p> <p>筆記試験について</p> <p>講義内容より重要項目についてマークシート形式を用いて筆記試験を実施する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	学生による発表時の傾向や内容について総括し、コメントする。				

科目名 ナンバリングコード	高齢者生活支援論 NUS2142MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、新 裕紀子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 老年期にある対象の身体・心理・社会的な特徴を理解し、老年看護の機能と役割について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者を取り巻く社会の変化と老年看護学の役割について説明できる。 2) 高齢者の身体・心理・社会的特徴及び個々の生活過程や価値観を踏まえ包括的にアセスメントできる。 3) 保健医療福祉におけるヘルスケアシステムの変遷と高齢者の生活を支えるケアシステムについて説明できる。 4) 老年看護における倫理的感性を高め、高齢者の権利を擁護する看護実践について説明できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回	高齢者を取り巻く環境と老年看護の役割	古村【講義】	講義 復習	20 分	
第 2 回	高齢者の生きてきた時代背景(グループワーク・発表)	全員 【講義・演習】	課題 1- レポート提出 「高齢者の生きてきた時代背景」	60 分	
第 3 回	高齢者とのコミュニケーション	古村【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 4 回	高齢者の理解「地域高齢者との交流および高齢者模擬体験」	全員【演習】	演習 復習	30 分	
第 5 回	高齢者の理解「地域高齢者との交流および高齢者模擬体験」	全員【演習】	演習 復習		
第 6 回	高齢者の特性の理解:(グループワーク・発表)	全員【演習】	課題 2- レポート提出 「高齢者の身体・心理・社会的特徴と看護」	60 分	
第 7 回	心身の加齢変化と健康アセスメント	草場【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 8 回	老年看護を支える理論	古村【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 9 回	高齢者の暮らしを支えるヘルスケアシステム(介護保険)	草場【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 10 回	地域包括ケアシステムとヘルスプロモーション	草場【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 11 回	地域共生社会と高齢者の災害支援	新【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 12 回	高齢者の療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護	草場【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 13 回	高齢者の倫理的課題(スティグマ・高齢者虐待・身体拘束)	古村【講義】	講義 予習・復習	30 分	
第 14 回	高齢者ケアの倫理的課題と支援(グループワーク)	全員【演習】	講義 予習・復習	30 分	
第 15 回	高齢者ケアの倫理的課題と支援(発表とまとめ)	全員【演習】	課題 3- レポート提出 「高齢者ケアの倫理的課題と支援」	60 分	
テキスト	水谷信子・水野敏子・高山成子ほか著:最新 老年看護学 第 4 版 2023 年版 日本看護協会出版会				
参考書	講義・資料等の中で提示する。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
試験(70%)	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。(マークシート形式及び記述)				
出席状況・レポート(30%)	演習における課題の達成度をレポートの記載内容・演習の出席状況から評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポート内容について講評を行い、ワークシート・レポート等の一部は採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	急性期看護論 NUS2232MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
科目担当者	医学部看護学科 原 頼子、桐明 あゆみ、河原田 康貴、姫野 深雪、孫田 千恵、 池上 明由美、石橋 秋奈 非常勤講師 岩田 誠司（財団法人 福岡メディカルセンター）				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 成人および高齢者の急変および急性増悪、周術期にある人および家族の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等の回復に向けた看護実践を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 急性期の健康レベルにおける病態や、心理・社会的特徴、および疾患や治療に応じた観察項目を理解し、優先順位を踏まえて、看護と根拠を説明できる。</p> <p>2) 生命の危機状態を呈する成人および高齢者を対象として、病態および付随問題、倫理的課題を理解する。</p> <p>3) 成人および高齢者の周手術期の身体侵襲と生体反応を理解し、回復過程や退院に向けた援助を説明できる。</p> <p>4) 手術や治療、検査・処置を受ける人の必要性に応じて、理解と意思決定を支える看護を説明できる。</p> <p>5) 心肺停止状態の負傷者をアセスメントし、CPR・AEDが実践できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5・6 回 第 7 回 第 8 回 第 9・10 回 第 11・12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19・20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回	<p>ガイダンス、急性期の成人の身体・心理・社会的特徴</p> <p>急性期の成人の治療、検査、処置等の理解を支える援助</p> <p>救急医療体制と救命救急看護に付随する諸問題</p> <p>心肺停止状態にある人のアセスメントと援助技術（CPR と AED）</p> <p>臓器移植：臓器移植法と脳死下臓器移植の変遷と概要</p> <p>熱傷患者への援助と皮膚創傷ケア</p> <p>心筋梗塞とショック状態にある人への看護</p> <p>心肺停止状態にある人への援助技術（CPR と AED）</p> <p>クリティカルにおける感染制御</p> <p>クモ膜下出血と意識障害にある人への援助</p> <p>周手術期看護：手術前の援助を組み立てる</p> <p>周手術期看護：手術中の援助を組み立てる</p> <p>周手術期看護：手術侵襲の影響を知る</p> <p>周手術期看護：術後の変化を踏まえて看護を組み立てる</p> <p>周手術期看護：胃切除術を受ける人の看護</p> <p>順調な回復の為の援助技術：深部静脈血栓予防、早期離床、呼吸訓練（安全の保持）</p> <p>術後の継続看護・多職種間連携</p> <p>事例：在宅復帰までを支える</p> <p>最も新しい重症患者の早期離床の考え方</p>	<p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>孫田【講義】</p> <p>岩田・崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜・原・桐明・河原田・姫野・孫田・池上・石橋【講義・演習】</p> <p>崎浜・孫田・池上・石橋【演習】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜・原・桐明・河原田・姫野・孫田・池上・石橋【講義・演習】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>崎浜【講義】</p> <p>特別講義講師【講義】</p>	<p>□ 各回の予習：テキストの該当箇所の熟読。</p> <p>配布資料の復習と、エクササイズの問題を課す</p> <p>□【5・6回】の事前課題：臓器移植関連新聞記事と私見レポート提出</p> <p>□【9・10回】事前技術習得必須</p> <p>□【19・20回】事前課題（GW）：早期離床の援助計画立案提出</p>	<p>予習 各回 30～ 60分 程度</p> <p>復習 各回 30分 程度</p>	
テキスト	<p>1) 林直子, 佐藤まゆみ (編) : 急性期看護 I 概論・周手術期看護 南江堂 改定第 2 版 2021 年</p> <p>2) 佐藤まゆみ, 林直子 (編) : 急性期看護 II 救急看護 南江堂 改訂第 2 版 2021 年</p> <p>3) 野崎真奈美 他 (編) : 成人看護技術 南江堂 第 2 版 2022 年</p> <p>4) 救急蘇生法の指針 2022 医療従事者用、へるす出版社</p>				
参考書	<p>1) 系統看護学講座成人看護学 2 呼吸器 医学書院 2) 系統看護学講座成人看護学 5 消化器 医学書院</p> <p>3) 系統看護学講座成人看護学 7 脳・神経 医学書院 4) 系統看護学講座成人看護学 3 循環器 医学書院</p> <p>5) 系統看護学講座成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院</p>				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%)	到達目標の達成度を、試験問題の正答率で評価する。				
レポート (10%)	演習における課題の達成度を、レポートの記載内容で評価する。				
出席状況 (10%)	演習の出席および姿勢についてポイント化して評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートは演習でフィードバックする。評価後に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	慢性期・回復期看護論 NUS2233MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	2 単位		
科目責任者	医学部看護学科 准教授 桐明 あゆみ						
科目担当者	医学部看護学科 原 頼子、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈、専任教員 1 名						
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>生涯コントロールを必要とする疾患をもつ成人期にある対象が、機能障害および検査・治療により受けている影響を身体・心理・社会的側面から深く理解し、病気とともに生活する人を支える看護について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 慢性期看護における主要な概念を理解する。 2) 代表的な慢性疾患が成人期にある対象に及ぼす影響を深く理解し、必要とされる看護実践について学ぶ。 3) 慢性疾患患者を取り巻く保健・医療・福祉・看護の動向に注目し、看護者に課せられている役割について学ぶ。</p>						
授業計画							
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間			
第 1 回 第 2 回 第 3 回	慢性期にある疾患の特徴と治療療養環境 慢性期にある人の心理社会的特徴と主要な概念 ケアとしてのリラクセーション	桐明【講義】 桐明【講義】 桐明・河原田・姫野・孫田【講義・演習】	各回の予習については、①テキストの該当箇所の熟読と、②事前配布プリントにて課題を課す。	予習、復習については、各回 30 分 ~ 1 時間程度。			
第 4・5 回 第 6・7 回 第 8・9 回 第 10・11 回 第 12・13 回	消化器系の障害を有する人と家族への看護(消化器疾患・肝疾患) 循環系の障害を有する人と家族への看護(心不全) 腎・泌尿器系の障害を有する人と家族への看護(CKDと透析療法) 代謝・内分泌系の障害を有する人と家族への看護(糖尿病) 糖尿病患者のセルフマネジメントを促す援助技術(食事療法と血糖測定)	桐明【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 担当者全員【演習】					
第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17・18 回	呼吸器系の障害を有する人と家族への看護(慢性呼吸不全) 免疫系の障害を有する人と家族への看護(関節リウマチ) 慢性呼吸不全患者の呼吸管理に関する看護 呼吸機能改善のための援助技術(酸素吸入・在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気)	桐明【講義】 草場【講義】 桐明【講義】 担当者全員【演習】					
第 19 回 第 20 回 第 21・22 回 第 23 回	脳・神経系の障害を有する人と家族への看護(ALS) がん看護の基本 化学療法・放射線療法を受ける人と家族への看護 慢性期にある人の療養生活を支える看護 - 保健・医療・福祉の連携、家族の支援 -	桐明【講義】 原【講義】 姫野【講義】 桐明【講義】					
テキスト	鈴木久美 旗持知恵子 佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改訂第 3 版 南江堂 野崎真奈美ほか：成人看護技術 改訂 第 2 版 南江堂 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会編第 7 版、文光堂 2013						
参考書	系統看護学講座成人看護学 [2] 呼吸器、系統看護学講座成人看護学 [3] 循環器、系統看護学講座成人看護学 [5] 消化器、系統看護学講座成人看護学 [6] 内分泌・代謝、系統看護学講座成人看護学 [8] 腎・泌尿器 以上全て 15 版、医学書院 2019 ナーシンググラフィカ成人看護学③ セルフマネジメント 第 4 版 2022						
成績評価							
方法(割合)	基準						
筆記試験(90%) レポート(5%) 出席状況(5%)	到達目標に対する達成度を、試験問題に対する正答率で評価する。 演習における課題の達成度を、レポートの記載内容から評価する。 講義、演習に対する参加姿勢を、出席状況と講義・演習後回収する感想や意見をポイント化し、評価する。						
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートは演習でフィードバックする。評価後に返却する。						

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護学概論 PHN1111MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位		
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子						
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳 非常勤講師 矢島 由紀 (ゆきデンタルクリニック院長) 非常勤講師 土井 巧 (朝倉市役所 保健師)						
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域を対象とする地域看護の対象の特性を学ぶ。 2) 地域で看護活動をおこなうために必要な基本的な知識・技術を学ぶ。 3) 地域の人々と協働して健康増進能力を高める活動の展開について学ぶ。 4) 地域の様々な場における看護職の役割機能について学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護の理念、対象、場の特性と変遷について説明できる。 2) 公衆衛生看護活動の展開方法について説明できる。 3) 公衆衛生看護活動に関する法令・関係職種について説明できる。 4) 産業保健活動、学校保健活動の対象・活動の特性について説明できる。 5) 地域保健活動における看護職の役割・機能について説明できる。 						
授業計画							
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間			
第1回 第2回 第3回	公衆衛生の定義、健康の定義 公衆衛生の歴史 公衆衛生の理念	重松【講義】 重松【講義】 重松【講義】	健康 日本の歴史と公衆衛生 ヘルスプロモーション・プ ライマリヘルスケア	各講義前 にテキス トを読ん でくるこ と (20-30 分)、疑問 点を明ら かにして 臨む。 終了後は、 15-20分用 語の復習 をして知 識を確実 にしておく。			
第4回 第5回	公衆衛生行政の仕組み 公衆衛生の活動・対象	重松【講義】 重松【講義】	保健所、市町村、地区組織 コミュニティアズパートナーモ デル・ポピュレーションア プローチ・ハイリスクアプ ローチ				
第6回	公衆衛生看護の基盤となる概念	重松【講義】	アドボカシー・エンバワメント・ 社会的公正・協働				
第7回	公衆衛生看護の歴史・倫理	重松【講義】	日本の歴史と看護・倫理綱領				
第8回	公衆衛生看護の機能と技術の特徴	重松【講義】	対象と場の特性				
第9回	口腔歯科保健の意義	矢島【講義】	口腔歯科保健				
第10回	個人・家族の保健指導技術	重松【講義】	生活支援・アウトリーチ・調整				
第11回	地域・集団を対象とする公衆衛生看護活動の展開	重松【講義】	地域組織活動・システム化				
第12回	公衆衛生看護活動の実際	土井【講義】	家庭訪問・保健指導技術				
第13回	学校保健活動 (学校保健の目的・機能)	徳澤【講義】	学校保健の役割と動向				
第14回	産業保健活動 (産業保健・産業看護の定義)	佐藤【講義】	産業看護活動				
第15回	公衆衛生看護活動とは	重松【講義】	公衆衛生看護の特徴				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院						
参考書	なし						
成績評価							
方法 (割合)	基準						
筆記試験 (70%) レポート・受講 態度 (30%)	保健活動に必要な基礎知識を問う。 対象の促え方、対象の特性に応じた保健活動、保健活動の特徴を健康との関連で論述しているのかを 評価する。						
課題 (レポート等) に対するフィードバック	課題 (レポート等) は評価コメントを講義時間内に返却する。						

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生健康支援論 PHN2112MN3	必修科目	2年次 2学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 徳澤 麻梨子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>地域で生活する人々（母子・成人・高齢者）の健康課題、保健行動の特性について捉え、健康問題の予防や健康の保持増進を図るための保健施策および健康支援活動の方法と展開を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 母子、成人、高齢者に対する保健施策の概要について説明できる。 2) 対象（母子、成人、高齢者）の発達段階に応じた健康課題と健康支援活動の展開について説明できる。 3) 健康課題をもつ人々が主体的に健康課題を解決できるよう支援するための方法について説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	公衆衛生看護活動における課題の特徴と支援技術 生活者としての対象の理解と家族支援	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	30分	
第2回	保健行動理論	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	30分	
第3回	対人支援の技術、健康相談の特徴と方法	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	30分	
第4・5回	母子保健の動向、母子保健施策と公衆衛生看護活動 乳幼児期の成長発達と健康課題への支援	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	60分	
第6回	支援のニーズが高い親子の健康課題と支援	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	30分	
第7回	健康診査の目的とプロセス 健康診査の実際（1歳6か月児健康診査）	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	30分	
第8・9回	家庭訪問の特徴とプロセス 家庭訪問の実際（新生児訪問）	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習 新生児家庭訪問事例展開	60分 90分	
第10回	成人保健の動向、成人保健施策と公衆衛生看護活動 成人期の健康課題と支援	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	30分	
第11・12回	保健指導の目的とプロセス 保健指導（特定保健指導）の実際	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習 特定保健指導事例展開	60分 60分	
第13・14回	高齢者保健医療福祉の動向、 高齢者保健医療福祉施策と公衆衛生看護活動 高齢者の健康課題と支援	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	60分	
第15回	ケースマネジメントの特徴と方法 個別支援からコミュニティ支援への発展	徳澤【講義】	テキスト・資料の復習	30分	
テキスト	中村裕美子 他編 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版 医学書院 2020年 中谷芳美 他編 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第4版 医学書院 2018年				
参考書	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 2022-2023 メディックメディア 2022年 門脇孝 他編 第三期特定健診・特定保健指導ガイド 南山堂 2018年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%）	到達目標の達成度を正答割合で評価する。				
レポート①（15%）	家庭訪問レポートについてルーブリックを活用して評価する。				
レポート②（15%）	特定保健指導レポートについてルーブリックを活用して評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートは評価後に返却する				

科目名 ナンバリングコード	生活支援実習 NUS1421MN1	必修科目	1年次 2学期	実習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、草場 万裕子、 他専任教員 20名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 保健医療福祉施設や地域の多様な場で活動する援助者ならびに看護職者の役割について理解する。 2) 看護職者に求められる倫理的態度を理解する。</p> <p>達成目標</p> <p>1) 保健医療福祉活動に関わる職種とその役割・機能を理解する。 2) 多様な看護場面を体験し、看護職者の責任を理解する。 3) 施設の人たちとのコミュニケーションをはかる。 4) 看護学生としての責任を持ち行動する。 5) 実習の体験をから自己の学習課題を明らかにする。</p>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2024年3月4日（月） ～3月8日（金） 1週間（45時間） ／1グループ 学内施設 ・久留米大学病院 ・久留米大学医療 センター 学外施設 ・病院等4施設 ・診療所18施設	<p>1. 実習スケジュール</p> <p>1) 事前オリエンテーション</p> <p>1回目：2024年1月23日（火）（1、2、3限目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援実習の概要 ・準備学習について、その他 <p>2回目：2024年2月19日（月）（1、2限目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の書き方 ・各施設の詳細説明 <p>2) 実習 A・Bクラスに分かれる</p> <p>1, 2日目：学内施設実習 A、学外施設実習 B 3, 4日目：学内施設実習 B、学外施設実習 A 最終日：学内まとめ</p> <p>2. 実習方法</p> <p>1) 学内施設（大学病院・医療センター）と学外施設の医療スタッフと共に行動し、看護の実践や看護場面を見学する。 2) 毎日の実習体験（看護実践）を記録やカンファレンスをとおして振り返り、同席する看護師の意見等から看護の理解を深める。</p> <p>なお、実習では、実務者の指導を得て進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関連科目の復習 ・事前技術演習・課題レポート ・毎日、実習計画、実践内容を指定の用紙に記録する。 	60分 180分 毎日60分		
テキスト	なし				
参考書	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、メヂカルフレンド社、2021				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習実施（80%） 実習態度（20%）	実習評価項目の達成度をポイント化して評価する。 なお、実習オリエンテーションの時間は実習時間に含む。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	毎日の実習記録は添削後、コメントを返す。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習 NUS2422MN3	必修科目	2 年次 2 学期	実習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、草場 万裕子、 他専任教員 21 名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 入院患者の療養生活を理解し、受け持ち患者の日常生活援助を実践する。</p> <p>2) 患者および家族や医療者との関わりを通して、看護職に求められる倫理的姿勢を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 患者の生活状況および健康状態を理解する。</p> <p>2) 患者および家族とのコミュニケーションをとおして、人間関係を円滑にする。</p> <p>3) 療養生活の援助計画を立案し、実践する。</p> <p>4) 患者および家族のプライバシーを尊重する。</p> <p>5) 看護チームの一員として責任感を持ち行動する。</p> <p>6) カンファレンスに積極的に参加し、実習での学びを深める。</p>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2023年12月4日（月） ～12月15日（金） 2週間（90時間） ／1グループ 場所 ・久留米大学病院 ・久留米大学医療 センター	<p>1. 実習スケジュール</p> <p>1) 事前オリエンテーション</p> <p>1回目：2023年10月18日（水）（4、5限目） 生活援助実習Ⅱの目的・目標・方法、 準備学習、その他</p> <p>2回目：2023年11月21日（火）（1、2限目） 実習施設の留意事項、 電子カルテの使用方法和留意事項、 実習記録の記載方法等</p> <p>2) 実習</p> <p>1日目：施設・病棟オリエンテーションと実習 2日目以降：病棟での受け持ち患者への看護実践 最終日：学内まとめ</p> <p>2. 実習方法</p> <p>1) 一人の患者を受け持ち、看護を展開する。</p> <p>2) 病棟スタッフと連携をして看護を進める。</p> <p>3) 看護の実践においては、準備から結果まで病 棟スタッフに報告する。</p> <p>4) 日々の学習を振り返るカンファレンスを行い、 病棟看護師とともに看護の理解を深める。</p> <p>5) 受け持ち患者の看護のまとめの発表 なお、実習では、実務者の指導を得て進める。</p>	<p>実習前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目の復習 ・技術演習、課題レポート ・実習病棟の事前課題 <p>実習期間</p> <p>受け持ち患者の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の実施計画・実施後の評価 ・ケアに必要な知識、技術の学習 ・患者の情報の整理 ・受け持ち患者の看護のまとめ 	30分	60分	60分
テキスト	なし				
参考書	深井喜代子編：新体系看護学全書基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，メヂカルフレンド社、2021				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習実施（80%） 実習態度（20%）	<p>実習評価項目の達成度をポイント化して評価する。</p> <p>なお、実習オリエンテーションの時間は実習時間に含む。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	毎日の実習記録は添削後、コメントを返す。				

科目名 ナンバリングコード	研究I NUS1291MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 跡上 富美				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 自らの関心から研究疑問を導くために必要な主塔としての文献検索・文献収集の方法について学ぶ。 2) 1) の過程を通して、図書館利用の方法と情報リテラシーについて理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 研究における文献の重要性について理解することができる。 2) 文献検索のための具体的方策と情報リテラシーについて理解を深めることができる。 3) 自分の関心あるテーマについて文献を使いながら自分の意見をまとめることができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	研究の必要性と身近な研究疑問	跡上【講義】	シラバスの確認	10分	
第2回	研究と文献	跡上【講義】	講義資料の復習	15分	
第3回	文献検索とは	跡上・医学図書館 職員【講義】	講義資料の復習・文献検索の自己練習	30分	
第4回	文献検索の実際と情報リテラシー	跡上・医学図書館 職員【講義】	講義資料の復習・検索ツールを使った文献検索練習	30分	
第5回	看護研究論文の読み方	跡上【講義】	講義資料の復習 文献の検索（課題予習）	30分	
第6回	興味のあるテーマの探索	跡上・加藤【演習】	検索論文の講読	30分	
第7回	興味のあるテーマの探索	跡上・加藤【演習】	検索論文の講読	30分	
第8回	文献検索結果を使った研究テーマのまとめ	跡上・加藤【講義】	講義資料の復習	15分	
テキスト	山崎茂明、六本木淑恵：看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版、日本看護協会出版会、2010				
参考書	必要時提示します。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（50%） 受講態度（30%） 参加（20%）	<p>レポートの内容は到達目標の達成状況の視点から評価を行う。</p> <p>出席規定に満たない場合、特段の状況を除きレポート提出は受け付けません。</p> <p>講義やグループワークでの発言やグループワーク運営などへの参加状況</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	講義の中での講評・個人レポートへのコメントを行います。				

科目名 ナンバリングコード	家族看護学 NUS3191MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、姫野 深雪、藤好 貴子、孫田 千恵				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 家族看護の発展の歴史を理解し、家族看護における看護の役割、家族アセスメントの視点および家族全体の QOL の向上に資する援助の方法について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 家族の多様性について理解できる。 2) 家族を捉える諸理論（家族発達理論 家族ストレス対処理論 家族看護理論）について理解できる。 3) 家族看護理論に基づく家族アセスメントの方法が理解できる。 4) 健康問題をもつ家族の事例演習をとおして家族に対する援助の方向性を考察できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11・12 回 第 13・14 回 第 15 回	<p>家族看護学 定義と変遷</p> <p>家族ヘルスケア諸理論（家族発達理論と家族ストレス対処理論）</p> <p>家族システム理論（カルガリー式家族看護モデルについて）</p> <p>家族アセスメントの視点（構造面のアセスメント / ジェノグラムとエコマップの作成）</p> <p>家族アセスメントの視点（発達・機能面のアセスメント / 円環的コミュニケーションパターンについて）</p> <p>健康問題を持つ家族に対する介入（カルガリー式家族介入モデルについて）</p> <p>母性看護学における家族看護</p> <p>小児看護学における家族看護</p> <p>高齢者看護学における家族看護</p> <p>健康問題をもつ家族の事例演習（オリエンテーションとテーマ決定）</p> <p>健康問題をもつ家族の事例演習</p> <p>健康問題をもつ家族の事例演習 プレゼンテーション</p> <p>まとめ及び事例演習のフィードバック</p>	<p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>桐明【講義】</p> <p>加藤【講義】 藤好【講義】 桐明【講義】</p> <p>桐明・姫野・孫田【演習】</p> <p>桐明・姫野・孫田【演習】</p> <p>桐明・姫野・孫田【演習】</p> <p>桐明・姫野・孫田【講義】</p>	<p>第 1～第 4 回の予習については、テキストの該当箇所を熟読してくる。</p> <p>第 1 回から第 5 回の復習については、エクササイズを課す。期限までに提出すること。</p> <p>第 10 回～第 14 回については、各回の到達目標に時間内に達しない場合、各グループで自主的に時間を作り課題に取り組むこと。</p>	予習、復習については、各回 30 分から 1 時間程度	
テキスト	小林奈美 グループワークで学ぶ家族看護理論 第 2 版 医歯薬出版 2011				
参考書	鈴木和子 渡辺裕子 佐藤律子 家族看護の理論と実践 第 5 版 日本看護協会出版会 2019				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60%） 演習評価（30%） 出席状況・態度（10%）	<p>到達目標に対する達成度を、試験問題に対する正答率で評価する。</p> <p>演習における課題の達成度を、演習評価、レポートの記載内容から評価する。</p> <p>講義、演習に対する参加姿勢を、出席状況と講義・演習後回収する感想や意見をポイント化し、評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題（レポート）は、正答を示すと共に採点后、返却する。				

科目名 ナンバリングコード	災害看護学 NUS2191MN3	必修科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪、孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈、山田 泰子、草場 万裕子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国内外の災害の事例を踏まえ、災害の概念や災害時の健康障害、災害時の医療ニーズの変化に対応する看護職の役割と機能について学ぶ。 2) 災害後の危機的状況に対応するシステムと継続的な支援活動を維持するためのシステムを理解する。 3) 災害看護の実践に関して、倫理観に基づく看護師の役割と援助方法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国内外の災害の状況をふまえ、災害の定義、災害看護活動内容を理解できる。 2) 災害サイクル各期の看護について理解できる。 3) 災害時における各種医療支援チーム、危機管理支援チームと看護の役割を理解できる。 4) 避難所における被災者の特徴や要配慮者への看護、ボランティア活動について理解できる。 5) 災害時の被災者及び援助者の心理と援助について理解できる。 6) 限られた資材と人材で、適切なトリアージと救護処置、避難行動支援を行うことができる。 7) 被災状況が及ぼす健康への影響を理解し、災害看護活動の場における生活への援助、身体的・精神的健康管理について理解できる。 				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	災害の現状と危機管理体制	桐明【講義】	各回の配布資料やテキストで復習をすること。演習においては、事前課題を科す。	各回 30分 程度	
第2回	災害活動のあゆみ、災害看護の基礎知識	桐明【講義】			
第3回	災害サイクルと看護活動：超急性期～急性期	孫田【講義】			
第4回	災害サイクルと看護活動：亜急性期～慢性期	桐明【講義】			
第5回	病院における災害看護	石橋【講義】			
第6回	災害に関する法律や制度と災害への備え	山田【講義】			
第7回	避難所、福祉避難所、応急仮設住宅等での生活と看護	桐明【講義】			
第8回	被災地での生活支援（食事・排泄・睡眠）	担当者全員【演習】			
第9回	被災者、救護者のストレスと心のケアについての理解	姫野【講義】			
第10回	災害時要配慮者とボランティア活動	池上【講義】			
第11回	災害時に必要な技術：トリアージ	担当者全員【演習】			
第12回	災害時に必要な技術：搬送、治療、三角巾法	担当者全員【演習】			
第13回	災害シミュレーション：避難所設営	担当者全員【演習】			
第14回	地域の防災活動：ハザードマップの活用	担当者全員【演習】			
第15回	災害看護における倫理	桐明【講義】			
テキスト	1) 酒井明子、菊池志津子（編）：災害看護、南江堂、2021、改訂第3版				
参考書	1) 黒田裕子、酒井明子（編）：災害看護、メディカ出版、2021、第4版 2) 浦田喜久子、小原真理子（編）：災害看護学・国際看護学、医学書院、2017、第3版 授業中にその都度紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%）	到達目標の達成度を、試験問題の正答率で評価する。				
演習の参加（10%）	演習への参加を必須とする。				
レポート課題（10%）	合計60点以上を合格とする。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	採点后必要に応じてフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	国際看護学 NUS3191MN4	選択科目	2年次 1学期	講義・演習	1単位		
科目責任者	医学部看護学科 准教授 桐明 あゆみ						
科目担当者	国際交流センター長 与小田 隆一（文学部） 非常勤講師 小川 里美（日本赤十字九州国際看護大学） 医学部看護学科 石橋 秋奈						
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>看護職者として国際的視野をもって、世界の人々の健康問題とその保持・増進に向けて活動する国際機関・国際協力の仕組みについて学び、現状と課題について考えることができる能力を養う。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際看護の捉え方について、国際保健やグローバルヘルスとの関連から説明できる。 2) 国際交流の実際を知り、異文化を理解することの意義を説明できる。 3) 世界における疾病構造・健康問題、関連する経済的な状況を理解できる。 4) 国際看護活動と国際機関・国際協力の仕組みを説明できる。 5) ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標について理解できる。 6) 世界の人々の健康問題を捉え、看護職者が果たすべき役割について述べるができる。 						
授業計画							
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間			
第1回	国際看護とは（国際看護の概念・歴史） 文化に対する理解と看護実践	桐明【講義】	実施した授業内容の復習と次回授業への準備学習の課題	各回 30分程度			
第2回	異文化理解 久留米大学の国際交流事業	与小田【講義・演習】					
第3回	グローバルヘルス 世界の疾病構造、健康問題	桐明【講義・演習】					
第4回	国際看護活動と国際機関・国際協力の仕組み	桐明【講義】					
第5・6回	ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標について 国際看護活動の実際	小川【講義】					
第7・8回	紛争や難民といった国際的な課題に対して看護が果たす役割について 国際看護活動の現状と課題（グループワークとプレゼンテーション・意見交換）	桐明・石橋【講義・演習】					
テキスト	特定のテキストは使用しない。						
参考書	森 淑江他 編集 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために 初版 南江堂 2019 近藤 麻理 知って 考えて 実践する 国際看護 第2版 医学書院 2018						
成績評価							
方法（割合）			基準				
筆記試験（50%） 出席状況を含む授業への参加度（ディスカッション等）（50%）			知識を踏まえたうえで自身の考えを論理的に記述できているか到達目標への達成度を授業へ参加する姿勢（意見、質問等）及びレポート内容をポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題（レポート等）は評価内容を講義時間内に伝える。					

2023年度オフィスアワー（看護学科専任教員）

教員名	職名	曜日・時間	連絡先	備考
益守 かづき	教授	月曜日・16:00～18:00	内線：3949 メール：masumori@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
原 頼子	教授	水曜日・17:00～18:00	内線：3948 メール：hara01@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
田中 佳代	教授	水曜日・17:00～18:00	内線：3935 メール：m2a2k2i2@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
重松 由佳子	教授	月曜日・17:00～18:00	内線：3947 メール：shigematsu_yukako@med.kurume-u.ac.jp	
古村 美津代	教授	水曜日・17:30～18:30	内線：3931 メール：furumura@med.kurume-u.ac.jp	
嵯峨 堅	教授	月～水曜日・17:00～19:00	内線：3933 もしくは内線：3140 メール：saga@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
加悦 美恵	教授	水曜日・17:00～18:00	メール：kaetsu@med.kurume-u.ac.jp	
崎浜 智子	教授	未定		
舞弓 京子	准教授	月曜日・17:30～18:30	内線：3930 メール：mayumi27@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
桐明 あゆみ	准教授	水曜日・17:00～19:00	メール：kiriake_ayumi@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
佐藤 祐佳	准教授	水曜日・12:00～13:00	メール：yuka0503@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
椀 勇三郎	准教授	火～木曜日・17:30～19:00	内線：3945 メール：kabal208@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
跡上 富美	准教授	水曜日・17:00～18:00	内線：3946 メール：atogami_fumi@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
加藤 陽子	准教授	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3953 メール：wasaki_youko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
恒松 佳代子	准教授	未定		
松本 悠貴	准教授	未定		
草場 知子	講師	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3932 メール：kitomo@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
河原田 康貴	講師	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3951 メール：y_kawaharada@med.kurume-u.ac.jp	
姫野 深雪	講師	水曜日・12:00～13:00	内線：3941 メール：miyuki@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
福浦 善友	講師	月～金曜日・8:30～17:00	内線：3951 メール：fukuura_yoshitomo@med.kurume-u.ac.jp	
渡邊 理恵	講師	水曜日・17:30～18:30	内線：3929 メール：watanabe_rie@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
藤好 貴子	講師	月～金曜日・16:00～18:00	内線：3928 メール：fujiyoshi_takako@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
孫田 千恵	講師	月～木曜日・12:00～13:00	内線：3941 メール：magota_chie@med.kurume-u.ac.jp	
徳澤 麻梨子	講師	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3928 メール：tateishi_mariko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
前野 里子	講師	水曜日・12:00～13:00	内線：3942 メール：maeno_satoko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
水落 裕美	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3942 メール：eguchi_yumi@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
三次 貴大	助教	火曜日・12:00～13:00	内線：3906 メール：miyoshi_takahiro@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
岡村 光子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3929 メール：okamura_mitsuko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
永田 真理子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：nagata_mariko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
新 裕紀子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：arata_yukiko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
松島 亜希子	助教	木曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：matsushima_akiko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
山下 寛子	助教	未定		
山田 泰子	助教	火・水曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：yamada_yasuko@kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
池上 明由美	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：ikegami_ayumi@kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
石橋 秋奈	助教	火～木曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：ishibashi_akina@kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
森永 朗子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：morinaga_akiko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
小島 一将	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：kobata_isshou@kuume-u.ac.jp	事前予約を希望
草場 万裕子	助教	火・水曜日・12:00～13:00	内線：3944 メール：kusaba_mayuko@kuume-u.ac.jp	
竹藤 徳子	助教	未定		

※未定部分及び変更に関しては掲示にてお知らせします。

※内線電話への連絡は、代表電話番号（0942）35-3311へ掛け、電話交換手に内線番号を告げ取り次いでもらうこと。

2023年度オフィスアワー（看護学科専任教員以外の科目責任者）

科目	職名	教員名	受付方法	連絡先	備考
音楽と癒し	非常勤講師	梅崎 京子	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
文学	文学部講師	藤本 晃嗣	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
スポーツ科学Ⅰ	人間健康学部教授	右田 孝志	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
スポーツ科学Ⅱ	非常勤講師	畦山 与里子	質問等をメールで受付。	メール：uneco.3901@gmail.com	
倫理学	非常勤講師	土持 貴志	質問等をメールで受付。	メール：ttmt195@gmail.com	
比較文化論	非常勤講師	永吉 守	質問等をメールで受付。	メール：mnagayoshi@gmail.com	
教育学	文学部講師	小田 茜	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
心理学	文学部助教	石田 有紀	質問等をメールで受付。	メール：ishida_yuki@kurume-u.ac.jp	
国語表現法	文学部教授	大庭 卓也	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
英語Ⅰ	外国語教育研究所教授	島村 恭輔	質問等をメールで受付。	メール：shimamura_kyosuke@kurume-u.ac.jp	
英語Ⅱ	非常勤講師	藤原 恵子	質問等をメールで受付。	メール：t210fujiharak@std.mii.kurume-u.ac.jp	
オーラル イングリッシュⅠ	文学部教授	アーサー ミアマン	質問等をメールで受付。	メール：arthur_meerman@kurume-u.ac.jp	
	非常勤講師	ラツ デヴィッド	質問等をメールで受付。	メール：latz david2@gmail.com	
オーラル イングリッシュⅡ	外国語教育研究所教授	キャサリン ブラウン	質問等をメールで受付。	メール：brown@std.mii.kurume-u.ac.jp	
	外国語教育研究所准教授	シャロット ムラカミ	質問等をGoogle Classroomで受付。		
ドイツ語	文学部准教授	大場 はるか	授業終了後に質問等の時間を設けるとともに、質問等をメールで受付。	メール：oba_haruka@kurume-u.ac.jp	
中国語	外国語教育研究所教授	李 偉	質問等をメールで受付。	メール：ri_i@kurume-u.ac.jp	
韓国語	外国語教育研究所准教授	李 熙卿	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
社会学	文学部特任教授	中西 吉則	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
生活と経済	非常勤講師	矢野 生子	質問等をメールで受付。	メール：yano@sun.ac.jp	
くらしと法	法学部准教授	藺田 史	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
くらしと サイエンス	医学部自然科学教室 (化学)教授	東元 祐一郎	授業終了後に質問等の時間を設けるとともに、質問等をメールで受付。	メール：higashiy@med.kurume-u.ac.jp (東元)	
	医学部自然科学教室 (物理学)教授	長澤 真樹子		メール：nagasawa_makiko@med.kurume-u.ac.jp (長澤)	
	医学部自然科学教室 (生物学)准教授	大沼 雅明		メール：mohnuma@med.kurume-u.ac.jp (大沼)	
人間工学	非常勤講師	松尾 重明	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
情報学	医学教育研究センター准教授	柏木 孝仁	質問等をメールで受付。	メール：takahito@med.kurume-u.ac.jp	
統計・推計学	病院経営室准教授	宮本 貴宣	質問等をメールで受付。	メール：t_miy@med.kurume-u.ac.jp	
からだの構造と 機能Ⅰ	医学部看護学科教授	嵯峨 堅	授業終了後に質問等の時間を設ける。	嵯峨 堅 : 内線3933、もしくは内線3140 鷹野 誠 : 内線3464、直通0942-31-7543 中島 明子 : 内線3464	※内線電話への 連絡は、代表電 話番号(0942) 35-3311へ掛け、 電話交換手に内 線番号を告げ取 り次いでらう こと。
からだの構造と 機能Ⅱ	医学部看護学科教授	嵯峨 堅	授業終了後に質問等の時間を設ける。	中島 則行 : 内線3464 嶋 雄一 : 内線3153、直通0942-31-7541 太田 啓介 : 内線3153 中村 悠 : 内線3153 村井 恵良 : 内線3448、直通0942-31-7542	
からだの構造と 機能Ⅲ	医学部看護学科教授	嵯峨 堅	授業終了後に質問等の時間を設ける。	嵯峨 堅 : 内線3933、もしくは内線3140 田平 陽子 : 内線3140 } 直通0942-31-7540 范 綾 : 内線3140	
からだの代謝	医学部医化学講座 講師	原田 二郎	質問等をメールで受付。	メール：jiro_harada@med.kurume-u.ac.jp (原田) メール：tsukaguchi_mai@med.kurume-u.ac.jp (塚口)	
ボランティア活動	文学部助教	土井 幸治	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
臨床心理学	非常勤講師	高松 真理	質問等をメールで受付。	メール：mt60true@gmail.com	
家族社会学	非常勤講師	藤田 智子	質問等をメールで受付。	メール：tomkofujita@scs.kyushu-u.ac.jp	
社会福祉と 社会保障	文学部教授	片岡 靖子	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
微生物と感染	医学部感染制御学講座 教授	渡邊 浩	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
免疫	医学部免疫学講座 教授	溝口 充志	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
病理学	医学部病理学講座 教授	矢野 博久	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
臨床薬理	医学部薬理学講座 教授	西 昭徳	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
臨床栄養	医療センター栄養室 副部長補佐	坂口 美紀	授業終了後に質問等の時間を設ける。		

※変更に関しては揭示にてお知らせします。



インド・ミテイラー地方の民族画“スーリヤムッキーの木”

(ガンガー・デーヴィー画、ミテイラー美術館長谷川時夫の転載許可済み)
“命の木 Tree of Life” (中近東の絨毯の図柄) は看護学科のシンボル・ツリーである。それは人間成長を象徴としている。看護学の4大メタパラダイム：人間、環境・健康・ケアの、人間を樹木と言い換えて考えてみると興味ふかい。